

性と生殖に関する調査結果 報告書

令和8年3月

宮崎県福祉保健部健康増進課
性と生殖に関する調査検討会

はじめに

本県は、人工妊娠中絶率が全国平均より高い傾向が続いており、年代別人工妊娠中絶率でも、すべての年代で全国平均より高い状況にあります。県では、課題や背景を把握するため、平成17～18年度および平成26～27年度に、人工死産及び人工妊娠中絶に関する実態調査を実施し、その結果を受け、健やかな妊娠に向けた様々な取組を行っているところです。

これまでの調査から、当事者を取り巻く環境や情勢は大きく変わっており、改めて人工妊娠中絶の背景調査を実施し、状況の変化に合わせ対策を講ずる必要性があることから、今回、実態調査を行いました。

今後は、今回の調査の結果を踏まえ、医療、教育、福祉、保健、企業、民間団体等と連携しながら、各ライフステージに応じた、性と生殖に関する健康の保持増進及び安心、安全な妊娠・出産の推進に継続して取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、本調査を実施するに当たり、多大な御尽力をいただきました関係者の皆様、調査に御協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

令和8年3月

宮崎県福祉保健部長 小牧 直裕

目次

1 調査の概要	1
2 調査結果	3
3 平成26年度調査との比較	55
4 考察とまとめ	95
5 資料編	106
(1) アンケート結果	
(2) アンケート調査票	
【調査票①】人工妊娠中絶に関するアンケート調査票	
【調査票②】妊娠・出産に関するアンケート調査票	
(3) データ集	
6 性と生殖に関する調査検討会委員	

1 調査の概要

調査の概要

1 目的

本県は、全国の中でも人工妊娠中絶実施率が高いことが課題である。その現状を把握するため、平成17年度には「人工死産に関するアンケート調査」を実施し、平成26年度には人工妊娠中絶に至った女性及び出産予定または出産した女性を対象に「人工妊娠中絶に関するアンケート調査」を実施している。

今回は、前回調査を踏まえ、人工妊娠中絶の実態や背景の調査、分析及び検討を行うことで、各ライフステージに応じた性と生殖に関する健康の保持及び望ましい妊娠・出産に向けた有効な施策の推進を図る。

2 内容

(1) 対象

調査期間内に県内の母体保護指定医の調査協力医療機関（8医療機関）において、人工妊娠中絶に至った女性及び出産予定の女性のうち調査に同意した者

(2) 調査期間

令和6年11月から令和7年7月まで（9ヶ月間）

(3) データ収集方法

電子申請フォーム入力による回答

(4) 調査内容

ア 人工妊娠中絶に至った女性（人工妊娠中絶）

【調査票①】人工妊娠中絶に関するアンケート調査票

イ 出産予定または出産した方（妊産婦）

【調査票②】妊娠・出産に関するアンケート調査票

(5) 分析方法

アンケート調査を人工妊娠中絶群と妊産婦群に分類し単純集計を行い、「カイ2乗検定」「傾向性の検定」「マンホイットニーのU検定」を実施した。

(6) 倫理的配慮

調査票は個人が特定できないよう無記名とした。アンケートの主旨や内容について産科医療機関のスタッフより事前に説明し、同意を得られた者のみ実施した。

3 性と生殖に関する調査検討会（3回）

人工妊娠中絶の実態や背景の調査・分析及び専門的な検討を行い、各ライフステージに応じた性と生殖に関する健康の保持及び望ましい妊娠・出産に向けた有効な施策を推進することを目的として調査検討会を開催した。

(1) 第1回 令和6年11月8日

本県の現状及び対策、平成26年度調査の結果、令和6年度アンケート内容について

(2) 第2回 令和7年9月4日

アンケート調査結果（速報値）、分析方法、今後のスケジュールについて

(3) 第3回 令和8年1月27日

調査結果の報告及びまとめ、今後の対策について

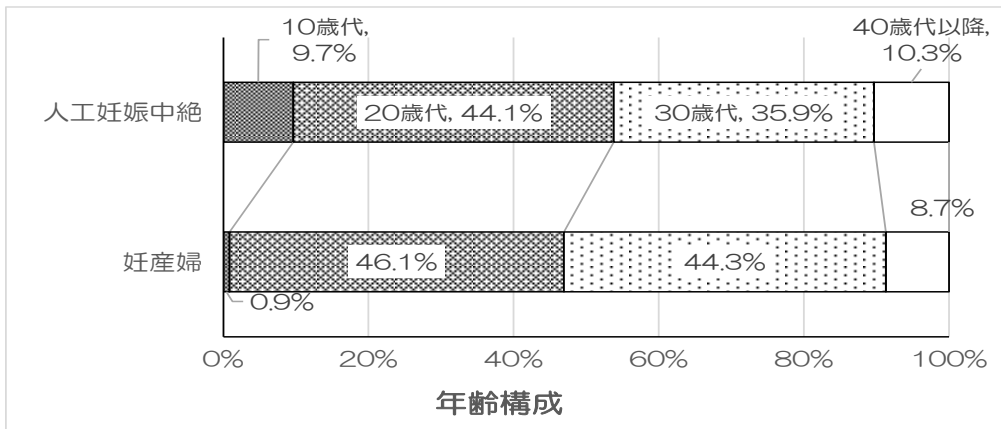
アンケート調査への協力者の概要

調査は、県内の分娩取り扱い医療機関 8 施設の協力を得て、人工妊娠中絶群 145 人、妊産婦群 115 人から回答を得た。

(1) 年代

年齢構成は、人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに 20 歳代が最も多く、次いで 30 歳代であった。10 歳代は人工妊娠中絶群方が妊産婦群より割合が多く、30 歳代は、人工妊娠中絶群方が妊産婦群より割合が少なかった。

[図 1 年齢構成]

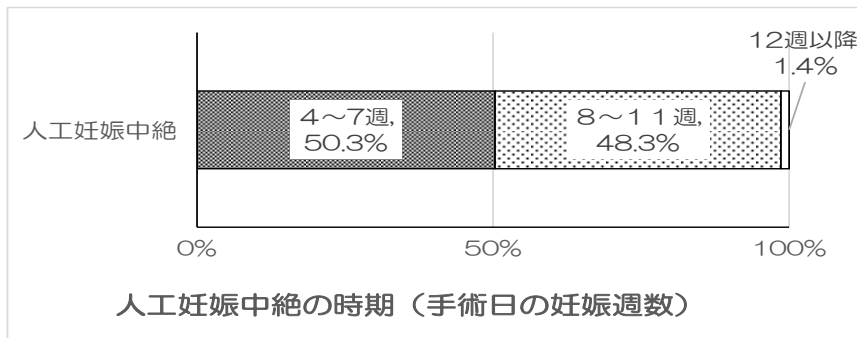


[表 1 年齢構成]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
人工妊娠中絶	14 9.7%	64 44.1%	52 35.9%	15 10.3%	145
妊産婦	1 0.9%	53 46.1%	51 44.3%	10 8.7%	115

(2) 手術日の妊娠週数（人工妊娠中絶群）

[図 2 人工妊娠中絶の時期]



[表 2 人工妊娠中絶の時期]

	4~7週	8~11週	12週以降	合計
人工妊娠中絶	73 50.3%	70 48.3%	2 1.4%	145

2 調査結果

2 調査結果

【人工妊娠中絶群と妊産婦群との比較】3

- (3) 子どもの希望
- (4) 今回の妊娠に気づいた週数
- (5) 妊娠に気づく時期
- (6) 妊娠に気づくのが遅くなったと思う理由
- (7) 市販の妊娠検査試薬での確認
- (8) 妊娠に気づいてから医療機関受診に1週間以上を要した理由
- (9) 手術の時期が妊娠第12週より早かった理由
- (10) 妊娠・出産について身近に相談できる人
- (11) 今回の妊娠について最初に相談した人
- (12) 公的な専門相談窓口の把握
- (13) パートナーの避妊への協力
- (14) 今回の妊娠時の避妊
- (15) 主な避妊の方法
- (16) 避妊をしなかった理由
- (17) 低用量ピル(経口避妊薬)の知識
- (18) 低用量ピル(経口避妊薬)の使用
- (19) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要だと思う情報
- (20) 性に関する教育の時期
- (21) 今回の妊娠の希望
- (22) 希望していない妊娠に至った理由
- (23) 妊娠が継続できなかった理由
- (24) 人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識
- (25) 緊急避妊薬処方への知識
- (26) 緊急避妊薬処方への希望
- (27) 本人の職業
- (28) 本人の最終学歴
- (29) 本人の世帯の1年間の所得
- (30) パートナーの職業
- (31) パートナーの最終学歴
- (32) 本人とパートナーの関係性

【年代別の比較】27

- (1) 妊娠に気づいてから医療機関受診に1週間以上を要した理由
- (2) 公的な専門相談窓口の把握
- (3) パートナーの避妊への協力
- (4) 今回の妊娠時の避妊
- (5) 主な避妊の方法

- (6) 避妊をしなかった理由
- (7) 低用量ピル(経口避妊薬)の知識
- (8) 低用量ピル(経口避妊薬)の使用
- (9) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要だと思う情報
- (10) 性に関する教育の時期
- (11) 希望していない妊娠に至った理由
- (12) 妊娠が継続できなかった理由
- (13) 緊急避妊薬処方への知識
- (14) 緊急避妊薬処方への希望

【今回の妊娠の希望との関連】41

- (1) 「パートナーの避妊への協力」と「今回の妊娠の希望」
- (2) 「今回の妊娠時の避妊」と「今回の妊娠の希望」
- (3) 「主な避妊の方法」と「今回の妊娠の希望」
- (4) 「低用量ピル(経口避妊薬)の知識」と「今回の妊娠の希望」
- (5) 「低用量ピル(経口避妊薬)の使用」と「今回の妊娠の希望」
- (6) 「妊娠が継続できなかった理由」と「今回の妊娠の希望」

【子どもの希望との関連】47

- (1) 「妊娠が継続できなかった理由」と「子どもの希望」
- (2) 「本人の世帯の1年間の所得」と「子どもの希望」

【妊娠が継続できなかった理由と所得との関連】49

- (1) 「本人の世帯の1年間の所得」と「妊娠が継続できなかった理由」

【緊急避妊薬との関連】50

- (1) 「緊急避妊薬処方への知識」と「今回の妊娠の希望」
- (2) 「緊急避妊薬処方への希望」と「本人の職業」
- (3) 「緊急避妊薬処方への希望」と「本人の最終学歴」
- (4) 「緊急避妊薬処方への希望」と「本人の世帯の1年間の所得」
- (5) 「緊急避妊薬処方への希望」と「今回の妊娠の希望」

人工妊娠中絶群と妊産婦群との比較

令和6年度調査における人工妊娠中絶群と妊産婦群の比較を行った。

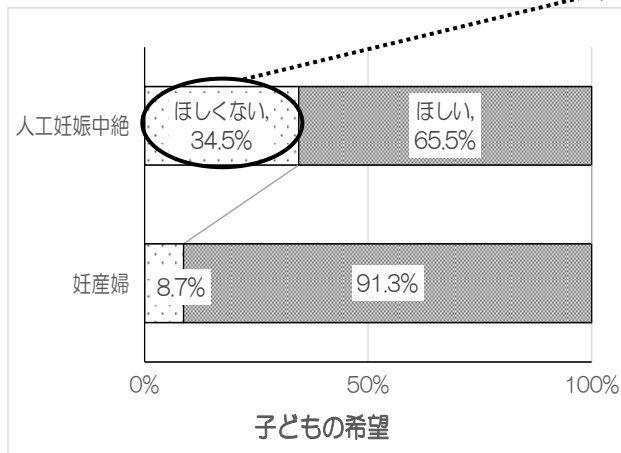
(3) 子どもの希望

「あなたは子どもを何人ほしいと思いますか。」

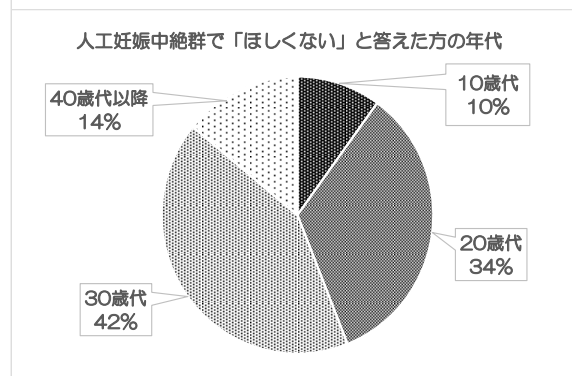
(人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問3)

人工妊娠中絶群の34.5%は「ほしくない」と回答し、その回答した年代の割合は30歳代が42%、20歳代が34%で全体の70%以上を占めていた。

[図3-1 子どもの希望]



[図3-2 人工妊娠中絶群で「ほしくない」と答えた方の年代]



[表3-1 子どもの希望]

	ほしくない	ほしい	合計
人工妊娠中絶	50 34.5%	95 65.5%	145
妊産婦	10 8.7%	105 91.3%	115

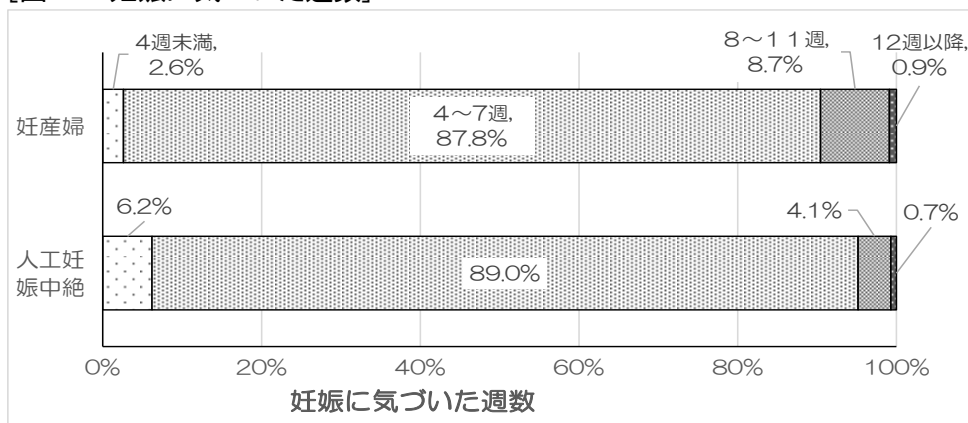
(4) 今回の妊娠に気づいた週数

「今回の妊娠に気づいたのは妊娠何週目でしたか。」

(人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問5)

人工妊娠中絶群、妊産婦群ともに「4～7週」で妊娠に気づいた割合が最も多く、85%以上の者が8週未満で妊娠に気づいていた。年代別かつ既婚・未婚別でみると、10歳代及び20歳代の未婚に「8～11週」で妊娠に気づいており、妊娠に気づいた時期が遅い者がいた。

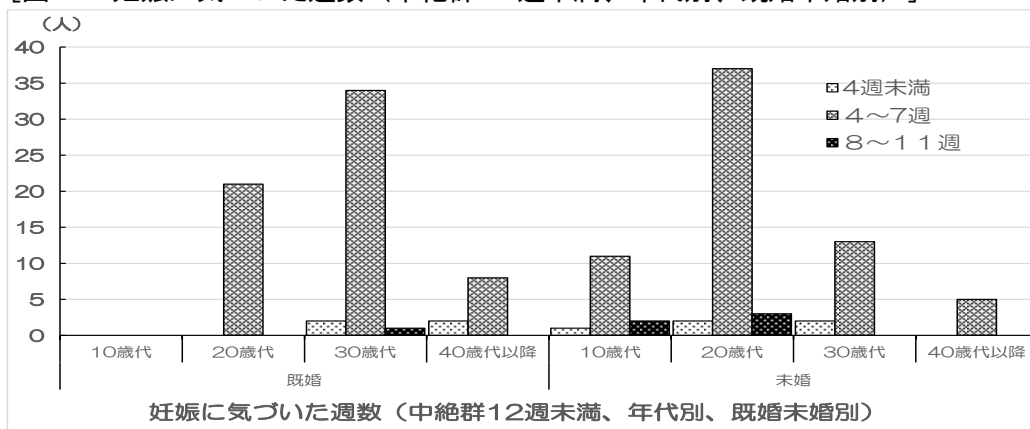
[図 4-1 妊娠に気づいた週数]



[表 4-1 妊娠に気づいた週数]

	4週未満	4～7週	8～11週	12週以降	合計
人工妊娠中絶	9 6.2%	129 89.0%	6 4.1%	1 0.7%	145
妊産婦	3 2.6%	101 87.8%	10 8.7%	1 0.9%	115

[図 4-2 妊娠に気づいた週数（中絶群12週未満、年代別、既婚未婚別）]



[表 4-2 妊娠に気づいた週数（中絶群12週未満、年代別、既婚未婚別）]

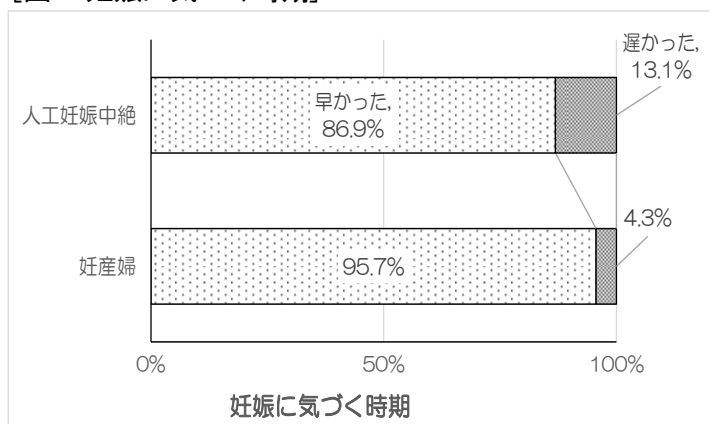
週数	既婚				未婚			
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降
4週未満	0	0	2	2	1	2	2	0
4～7週	0	21	34	8	11	37	13	5
8～11週	0	0	1	0	2	3	0	0

(5) 妊娠に気づく時期

「妊娠に気づく時期としては早かったと思いますか。遅かったと思いますか。」
 (人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問6)

人工妊娠中絶群は「遅かった」と回答した割合が13.1%で、妊産婦群の4.3%と比べると、人工妊娠中絶群の方が妊娠に気づく時期が遅い者が多かった。

[図5 妊娠に気づく時期]



[表5 妊娠に気づく時期]

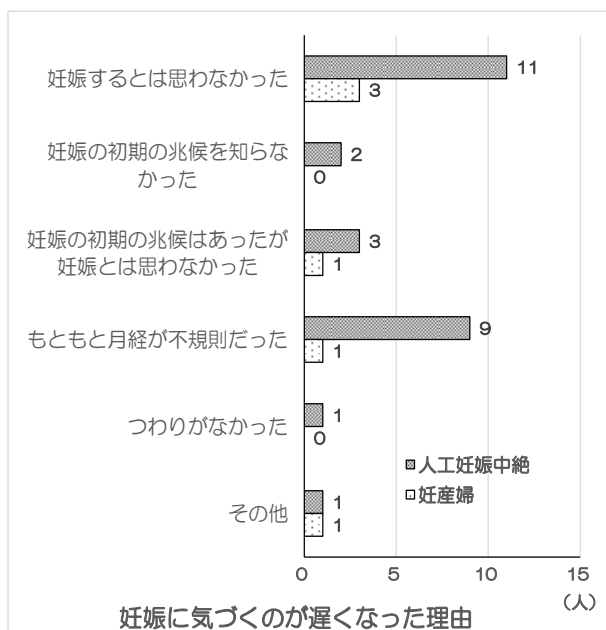
	早かった	遅かった	合計
人工妊娠中絶	126 86.9%	19 13.1%	145
妊産婦	110 95.7%	5 4.3%	115

(6) 妊娠に気づくのが遅くなった理由

「妊娠に気づくのが遅くなったと思う理由をお聞かせください。」(問6で「遅かった」と回答した方)(複数回答)(人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問7)

人工妊娠中絶群では、「妊娠するとは思わなかった」と回答した者が11人、「もともと月経が不規則だった」が9人であった。

[図6 妊娠に気づくのが遅くなった理由]



[表6 妊娠に気づくのが遅くなった理由]

	人工妊娠中絶	妊産婦
妊娠するとは思わなかった	11 57.9%	3 60.0%
妊娠の初期の兆候を知らなかった	2 10.5%	0 0.0%
妊娠の初期の兆候はあったが妊娠とは思わなかった	3 15.8%	1 20.0%
もともと月経が不規則だった	9 47.4%	1 20.0%
つわりがなかった	1 5.3%	0 0.0%
その他	1 5.3%	1 20.0%
対象者	19	5

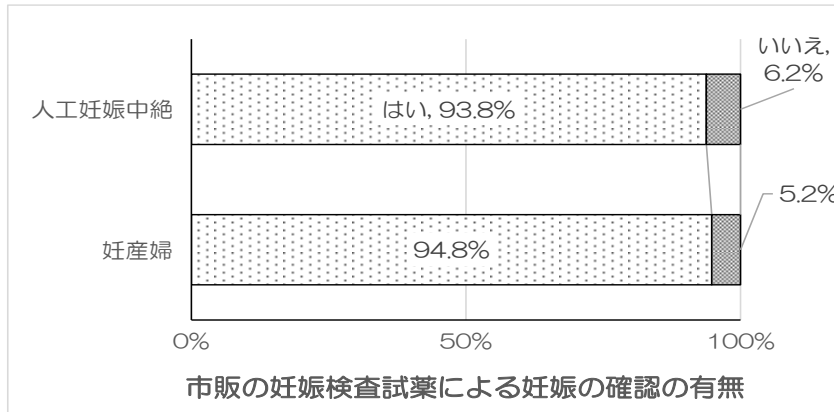
(7) 市販の妊娠検査試薬での確認

「受診前に市販の妊娠検査試薬で妊娠を確認しましたか。」

(人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問 8)

人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに、90%以上が受診前に市販の妊娠検査試薬で確認しており、確認した時期は両群とも「4～7週」が80%以上であった。

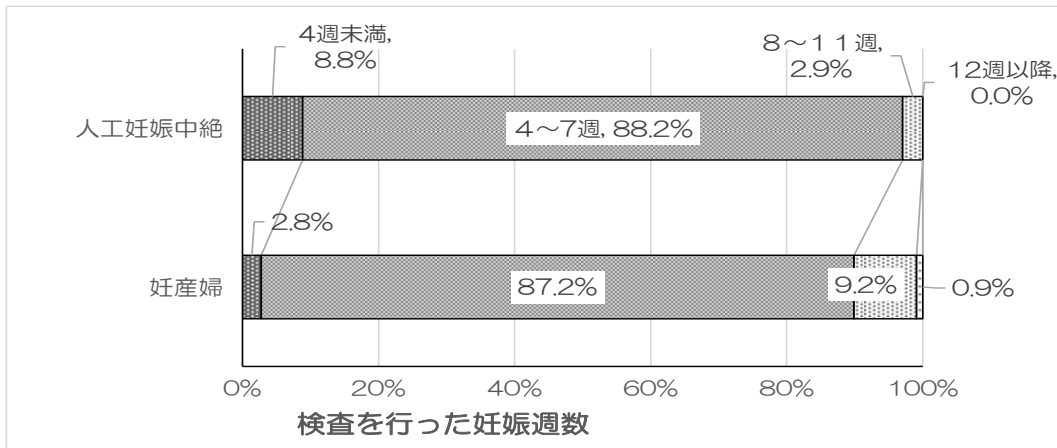
[図 7-1 市販の妊娠検査試薬による妊娠の確認]



[表 7-1 市販の妊娠検査試薬による妊娠の確認]

	はい	いいえ	合計
人工妊娠中絶	136 93.8%	9 6.2%	145
妊産婦	109 94.8%	6 5.2%	115

[図 7-2 検査を行った妊娠週数（「はい」と回答した方のみ）]



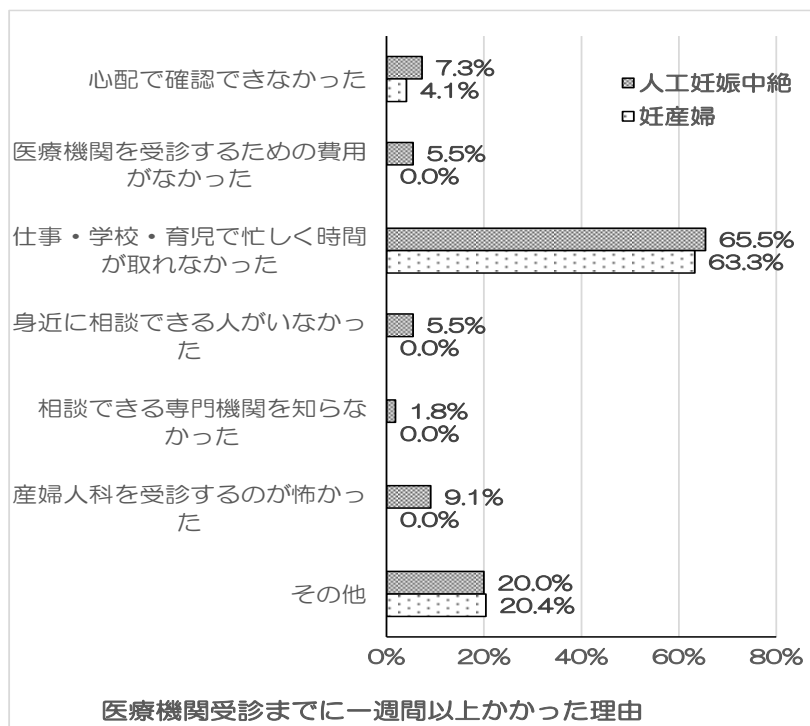
[表 7-2 検査を行った妊娠週数（「はい」と回答した方）]

	4週未満	4～7週	8～11週	12週以降	合計
人工妊娠中絶	12 8.8%	120 88.2%	4 2.9%	0 0.0%	136
妊産婦	3 2.8%	95 87.2%	10 9.2%	1 0.9%	109

- (8) 妊娠に気づいてから医療機関を受診するまでに一週間以上を要した理由
「妊娠に気づいてから医療機関を受診するまでに一週間以上を要した方にお聞きします。その理由は何ですか。」(複数回答)
(人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②)：問 10)

人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに、「仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった」と回答した割合が60%以上あり、そのうち、学生は人工妊娠中絶群のみの4人であった。

[図 8 医療機関受診までに一週間以上かかった理由]



[表 8 医療機関受診までに一週間以上かかった理由]

	人工妊娠中絶	妊産婦	
心配で確認できなかった	4 7.3%	2 4.1%	▶ [表 8-2 「仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった」と回答した人の職業内訳 (人)]
医療機関を受診するための費用がなかった	3 5.5%	0 0.0%	
仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった	36 65.5%	31 63.3%	
身近に相談できる人がいなかった	3 5.5%	0 0.0%	
相談できる専門機関を知らなかった	1 1.8%	0 0.0%	
産婦人科を受診するのが怖かった	5 9.1%	0 0.0%	
その他	11 20.0%	10 20.4%	
対象者	55	49	

	人工妊娠中絶	妊産婦
勤め人(常勤)	19	17
勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)	9	8
自営業(事業の経営者・家事の手伝い・内職など)	3	2
学生	4	0
主婦	1	4
無職	0	0
対象者	36	31

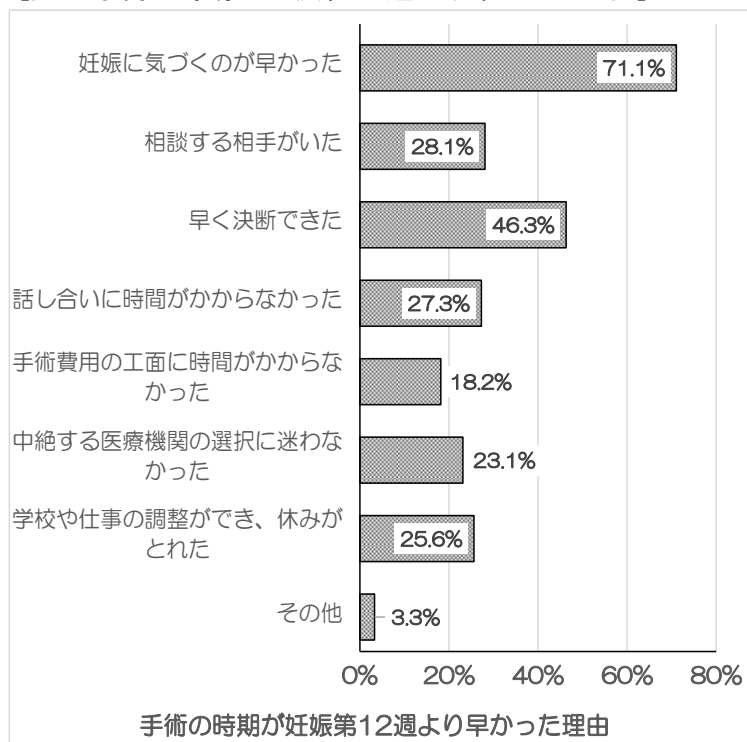
(9) 手術の時期が妊娠第 12 週より早かった理由

「手術の時期が妊娠第 12 週より早かったのはなぜですか。」(複数回答)

(人工妊娠中絶調査票①：問 11)

「妊娠に気づくのが早かった」が 71.1%で最も多く、次に「早く決断できた」が 46.3%であった。

[図 9 手術の時期が妊娠第 12 週より早かった理由]



[表 9 手術の時期が妊娠第 12 週より早かった理由]

	人工妊娠中絶
妊娠に気づくのが早かった	86
	71.1%
相談する相手がいた	34
	28.1%
早く決断できた	56
	46.3%
話し合いに時間がかからなかった	33
	27.3%
手術費用の工面に時間がかからなかった	22
	18.2%
中絶する医療機関の選択に迷わなかった	28
	23.1%
学校や仕事の調整ができ、休みがとれた	31
	25.6%
その他	4
	3.3%
対象者	121

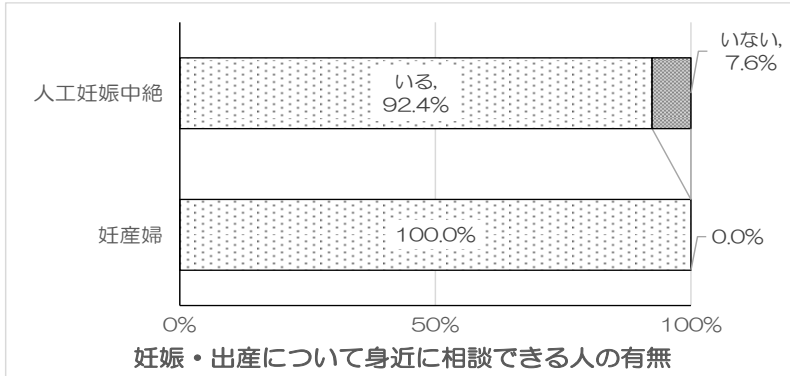
(10) 妊娠・出産について身近に相談できる人

「妊娠・出産について身近に相談できる人がいますか。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 12、妊産婦調査票②：問 11)

人工妊娠中絶群では「いる」が 92.4%、「いない」が 7.6%であり、身近な相談者は「パートナー」77.9%、「友達」40.2%の順が多かった。また、妊産婦群は全ての者が「いる」と回答し、身近な相談者は「パートナー」95.5%、「母親」80.4%の順が多かった。

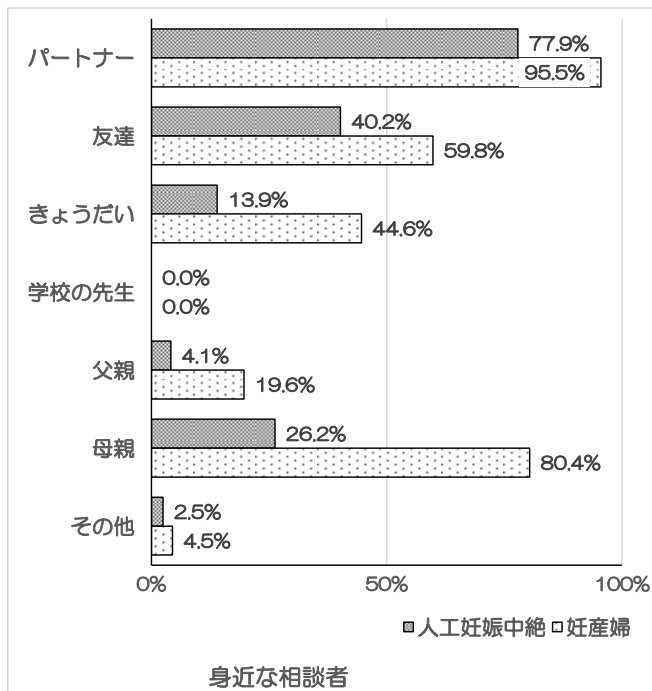
[図 10-1 妊娠・出産について身近に相談できる人の有無]



[表 10-1 妊娠・出産について身近に相談できる人の有無]

	いる	いない	合計
人工妊娠中絶	134 92.4%	11 7.6%	145
妊産婦	115 100.0%	0 0.0%	115

[図 10-2 身近な相談者（「いる」と回答した方）]



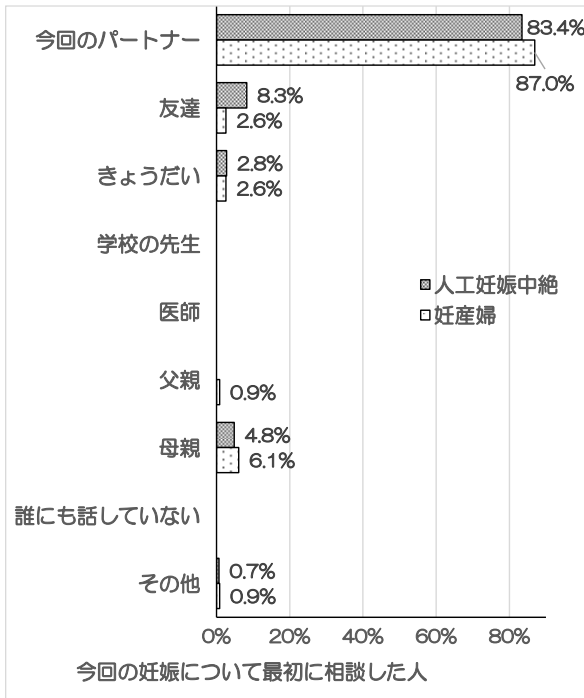
[表 10-2 身近な相談者（「いる」と回答した方）]

	人工妊娠中絶	妊産婦
パートナー	95 77.9%	107 95.5%
友達	49 40.2%	67 59.8%
きょうだい	17 13.9%	50 44.6%
学校の先生	0 0.0%	0 0.0%
父親	5 4.1%	22 19.6%
母親	32 26.2%	90 80.4%
その他	3 2.5%	5 4.5%
対象者	122	112

- (11) 今回の妊娠について最初に相談した人
「今回の妊娠について最初に相談した人は誰ですか。」
(人工妊娠中絶調査票①：問 13、妊産婦調査票②：問 12)

人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに、「今回のパートナー」と回答した割合が80%以上であった。

[図 11 今回の妊娠について最初に相談した人] [表 11 今回の妊娠について最初に相談した人]

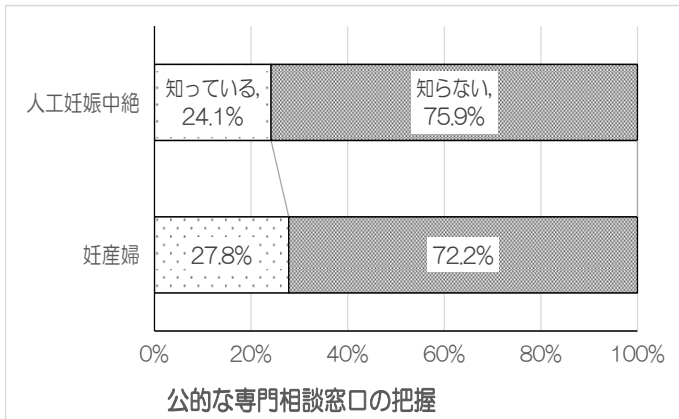


	人工妊娠中絶	妊産婦
今のパートナー	121	100
	83.4%	87.0%
友達	12	3
	8.3%	2.6%
きょうだい	4	3
	2.8%	2.6%
学校の先生	0	0
	0.0%	0.0%
医師	0	0
	0.0%	0.0%
父親	0	1
	0.0%	0.9%
母親	7	7
	4.8%	6.1%
誰にも話していない	0	0
	0.0%	0.0%
その他	1	1
	0.7%	0.9%
対象者	145	115

- (12) 公的な専門相談窓口の把握
「思いがけない妊娠について、公的な相談機関があることを知っていますか。」
(人工妊娠中絶調査票①：問 14、妊産婦調査票②：問 24)

「知っている」と回答した者は、人工妊娠中絶群で24.1%、妊産婦群が27.5%で差はみられず、両群とも「知らない」と回答した割合が70%以上であった。

[図 12 公的な専門相談窓口の把握]



[表 12 公的な専門相談窓口の把握]

	知っている	知らない	合計
人工妊娠中絶	35	110	145
	24.1%	75.9%	
妊産婦	32	83	115
	27.8%	72.2%	

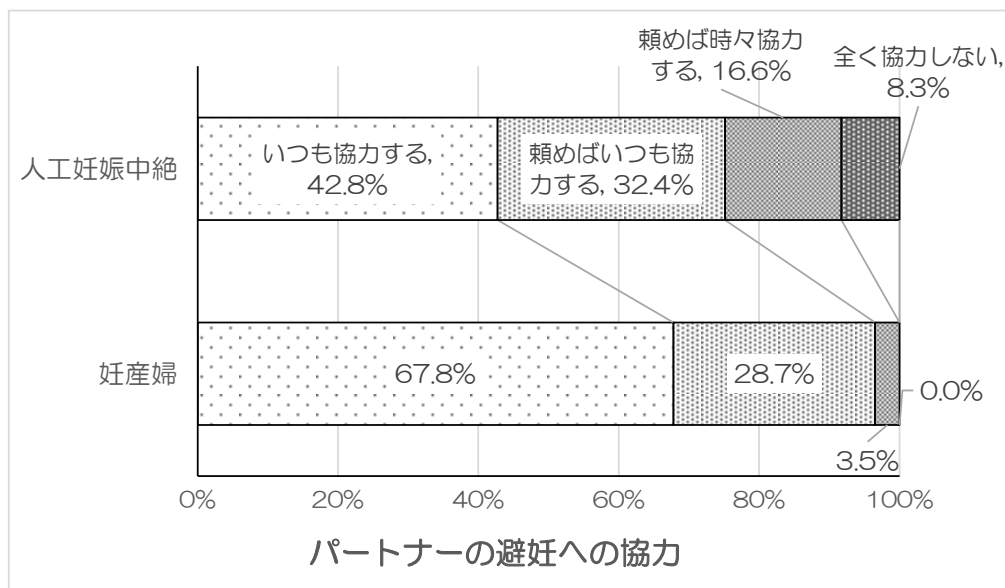
(13) パートナーの避妊への協力

「セックス(性交)の時、パートナーは避妊に協力しますか。」

(人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問 15)

「いつも協力する」「頼めばいつも協力する」と回答した者は、人工妊娠中絶群が 75.2%、妊産婦群が 96.5%であり、妊産婦群の方が高かった。また、人工妊娠中絶群では「全く協力しない」が 8.3%であった。

[図 13 パートナーの避妊への協力]



[表 13 パートナーの避妊への協力]

	いつも協力する	頼めばいつも協力する	頼めば時々協力する	全く協力しない	合計
人工妊娠中絶	62 42.8%	47 32.4%	24 16.6%	12 8.3%	145
妊産婦	78 67.8%	33 28.7%	4 3.5%	0 0.0%	115

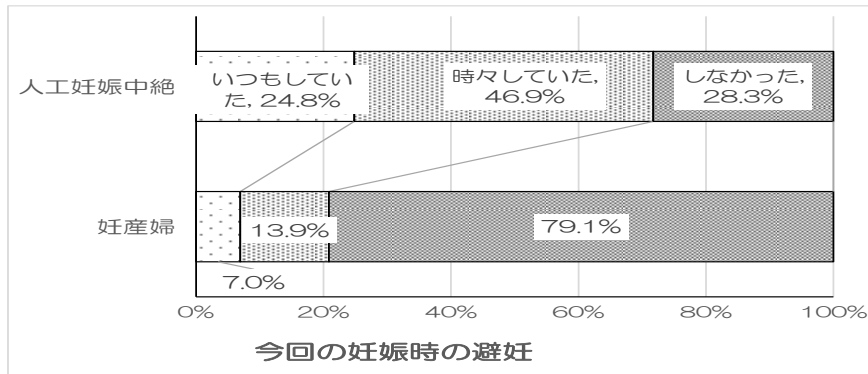
(14) 今回の妊娠時の避妊

「今回の妊娠に関して、避妊をしましたか。」

(人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問 16)

人工妊娠中絶群では「いつもしていた」が 24.8%と最も少なく、「ときどきしていた」「しなかった」と回答した割合を併せると 75.2%であった。妊産婦群では「しなかった」が 79.1%で最も多かった。

[図 14 今回の妊娠時の避妊]



[表 15 今回の妊娠時の避妊]

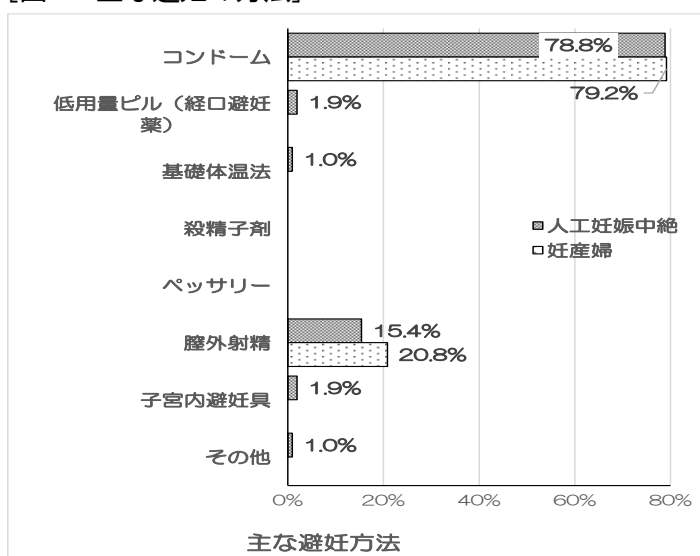
	いつもしていた	時々していた	しなかった	合計
人工妊娠中絶	36 24.8%	68 46.9%	41 28.3%	145
妊産婦	8 7.0%	16 13.9%	91 79.1%	115

(15) 主な避妊の方法

「主な避妊の方法は何でしたか。」(問 16 で「いつもしていた」「時々していた」と回答した方) (人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問 17)

人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに「コンドーム」と回答した者が 80%弱で最も多く、次に「膈外射精」が 20%程度であった。

[図 15 主な避妊の方法]



[表 15 主な避妊の方法]

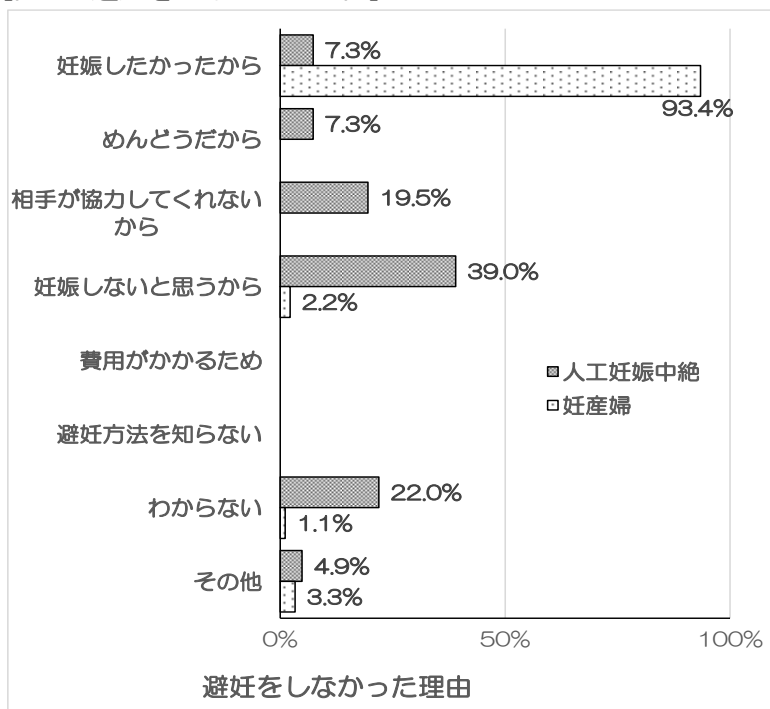
	人工妊娠中絶	妊産婦
コンドーム	82 78.8%	19 79.2%
低用量ピル(経口避妊薬)	2 1.9%	0 0.0%
基礎体温法	1 1.0%	0 0.0%
殺精子剤	0 0.0%	0 0.0%
ペッサリー	0 0.0%	0 0.0%
膈外射精	16 15.4%	5 20.8%
子宮内避妊具	2 1.9%	0 0.0%
その他	1 1.0%	0 0.0%
合計	104	24

(16) 避妊をしなかった理由

「避妊をしなかった理由で近いものは何ですか。」(問 16 で「しなかった」と回答した方)(人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問 18)

人工妊娠中絶群では「妊娠しないと思うから」が 39.0%と最も多く、次に「わからない」が 22.0%「相手が協力してくれないから」が 19.5%であった。妊産婦群では「妊娠したかったから」が 93.4%で最も多かった。

[図 16 避妊をしなかった理由]



[表 16 避妊をしなかった理由]

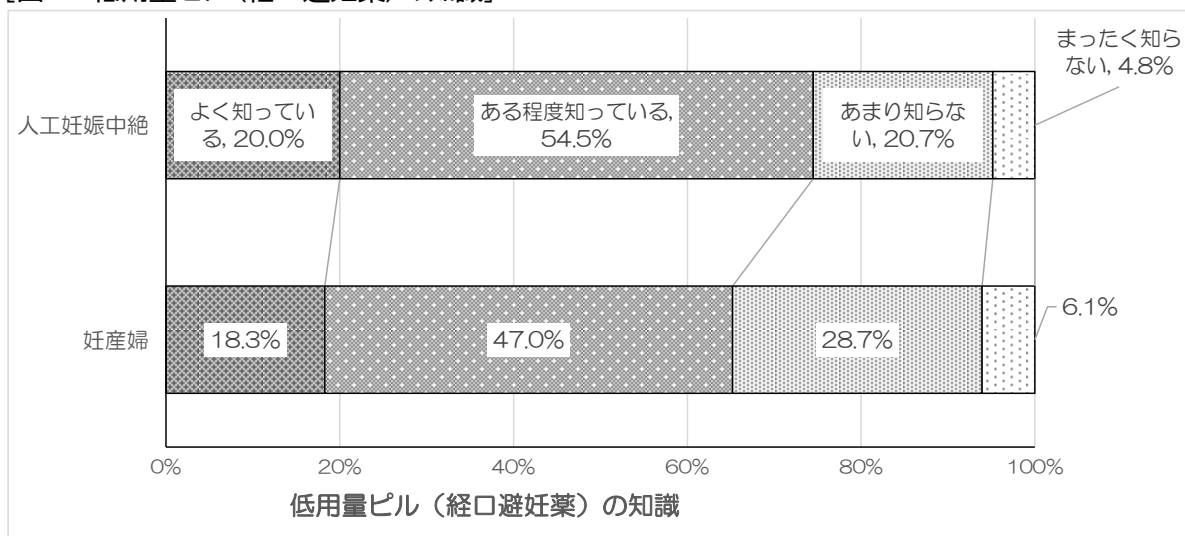
	人工妊娠中絶	妊産婦
妊娠したかったから	3 7.3%	85 93.4%
めんどうだから	3 7.3%	0 0.0%
相手が協力してくれないから	8 19.5%	0 0.0%
妊娠しないと思うから	16 39.0%	2 2.2%
費用がかかるため	0 0.0%	0 0.0%
避妊方法を知らない	0 0.0%	0 0.0%
わからない	9 22.0%	1 1.1%
その他	2 4.9%	3 3.3%
合計	41	91

(17) 低用量ピル(経口避妊薬)の知識

「あなたは低用量ピル(経口避妊薬)を知っていますか。」
 (人工妊娠中絶調査票①：問 19、妊産婦調査票②：問 20)

「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した者は、人工妊娠中絶群では 74.5%で、妊産婦群では 65.3%で、人工妊娠中絶群は妊産婦群に比べて、知っている者の割合が多かった。

[図 17 低用量ピル(経口避妊薬)の知識]



[表 17 低用量ピル(経口避妊薬)の知識]

	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない	合計
人工妊娠中絶	29 20.0%	79 54.5%	30 20.7%	7 4.8%	145
妊産婦	21 18.3%	54 47.0%	33 28.7%	7 6.1%	115

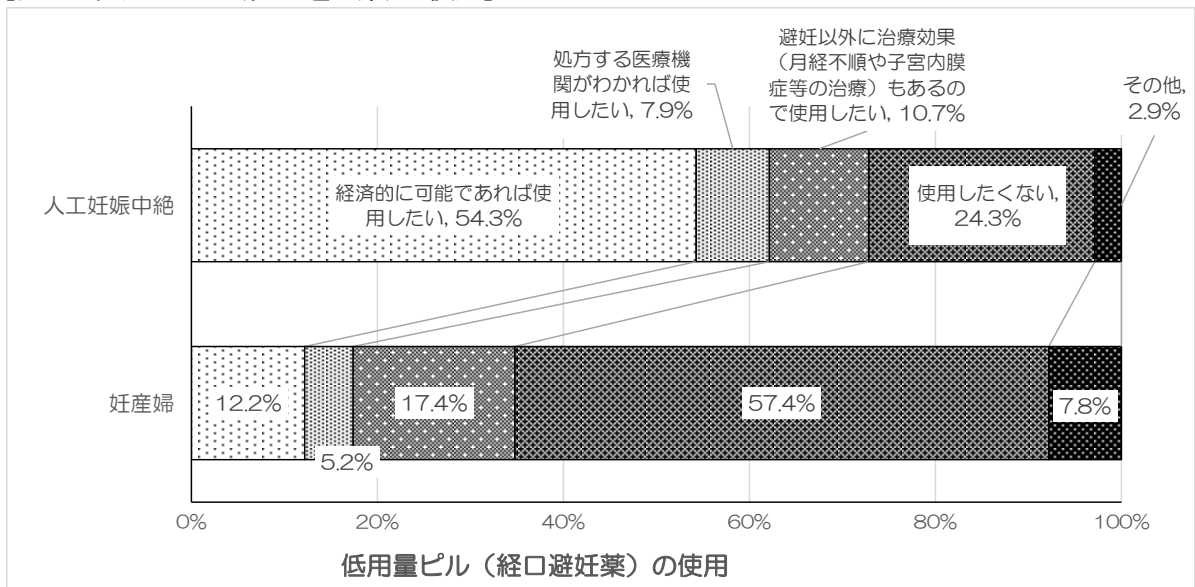
(18) 低用量ピル(経口避妊薬)の使用

「あなたは低用量ピル(経口避妊薬)を使用してみたいと思いますか。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 20、妊産婦調査票②：問 21)

人工妊娠中絶群では「経済的に可能であれば使用したい」が 54.3%と最も多かったが、妊産婦群では「使用したくない」57.4%で最も多かった。また、「処方する医療機関が分かれば使用したい」「避妊以外に治療効果があるので使用したい」と併せると使用したいと回答した割合は 70%以上あり、妊産婦群より人工妊娠中絶群の方が、低用量ピル(経口避妊薬)の使用を希望していた。

[図 18 低用量ピル(経口避妊薬)の使用]



[表 18 低用量ピル(経口避妊薬)の使用]

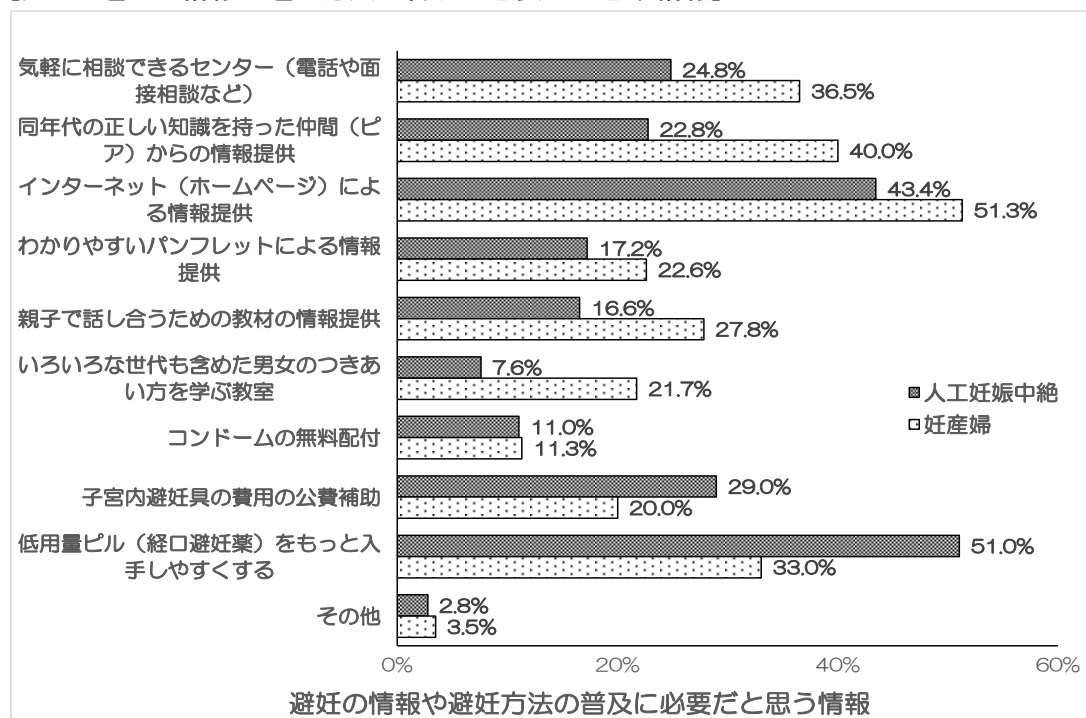
	経済的に可能であれば使用したい	処方する医療機関がわかれば使用したい	避妊以外に治療効果(月経不順や子宮内膜症等の治療)もあるので使用したい	使用したくない	その他	合計
人工妊娠中絶	76 54.3%	11 7.9%	15 10.7%	34 24.3%	4 2.9%	140
妊産婦	14 12.2%	6 5.2%	20 17.4%	66 57.4%	9 7.8%	115

(19) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報

「避妊についての情報や避妊方法が普及するには、どのようなことが必要だと思いますか。」(複数回答)(人工妊娠中絶調査票①：問 21、妊産婦調査票②：問 22)

人工妊娠中絶群では「低用量ピルをもっと入手しやすくする」が 51.0%、「インターネットによる情報提供」が 43.4%の順で多かった。妊産婦群では「インターネットによる情報提供」が 51.3%で最も多かった。

[図 19 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報]



[表 19 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報]

	人工妊娠中絶	妊産婦
気軽に相談できるセンター(電話や面接相談など)	36 24.8%	42 36.5%
同年代の正しい知識を持った仲間(ピア)からの情報提供	33 22.8%	46 40.0%
インターネット(ホームページ)による情報提供	63 43.4%	59 51.3%
わかりやすいパンフレットによる情報提供	25 17.2%	26 22.6%
親子で話し合うための教材の情報提供	24 16.6%	32 27.8%
いろいろな世代も含めた男女のつきあい方を学ぶ教室	11 7.6%	25 21.7%
コンドームの無料配付	16 11.0%	13 11.3%
子宮内避妊具の費用の公費補助	42 29.0%	23 20.0%
低用量ピル(経口避妊薬)をもっと入手しやすくする	74 51.0%	38 33.0%
その他	4 2.8%	4 3.5%
回答者の数	145	115

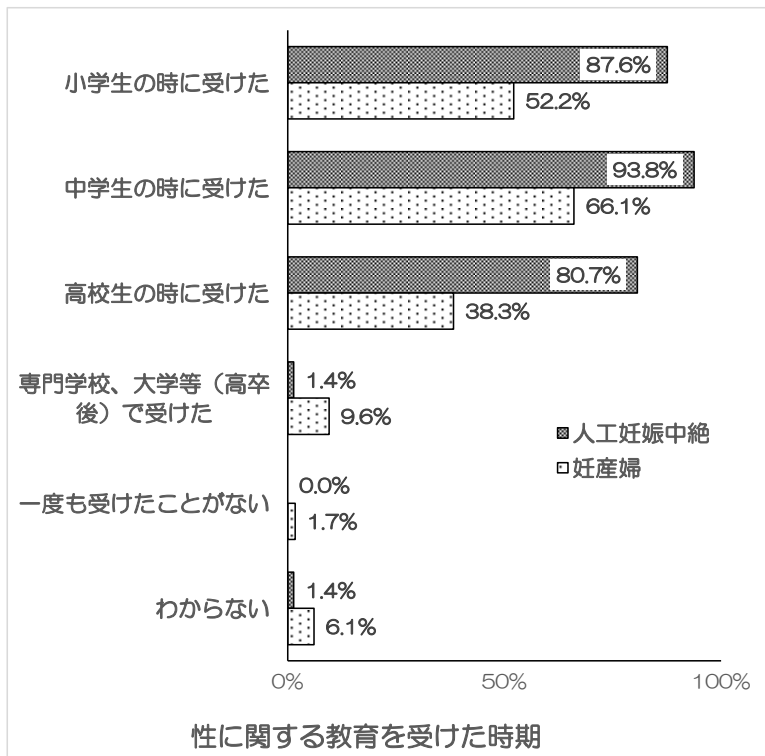
(20) 性に関する教育の時期

「あなたは学生のころに、性に関する教育（性交、妊娠、出産、避妊等）を受けたことがありますか。」（複数回答）

（人工妊娠中絶調査票①：問 22、妊産婦調査票②：問 23）

人工妊娠中絶群では「中学生の時」が 93.8%と最も多く、80%以上の者が「小学生の時」「中学生の時」「高校生の時」に性教育を受けたと回答した。妊産婦群では「小学生の時」が 52.2%、「中学生の時」が 66.1%で、「高校生の時」が 38.3%であった。

[図 20 性に関する教育を受けた時期]



[表 20 性に関する教育を受けた時期]

	人工妊娠中絶	妊産婦
小学生の時に受けた	127	60
	87.6%	52.2%
中学生の時に受けた	136	76
	93.8%	66.1%
高校生の時に受けた	117	44
	80.7%	38.3%
専門学校、大学等（高卒後）で受けた	2	11
	1.4%	9.6%
一度も受けたことがない	0	2
	0.0%	1.7%
わからない	2	7
	1.4%	6.1%
回答者の数	145	115

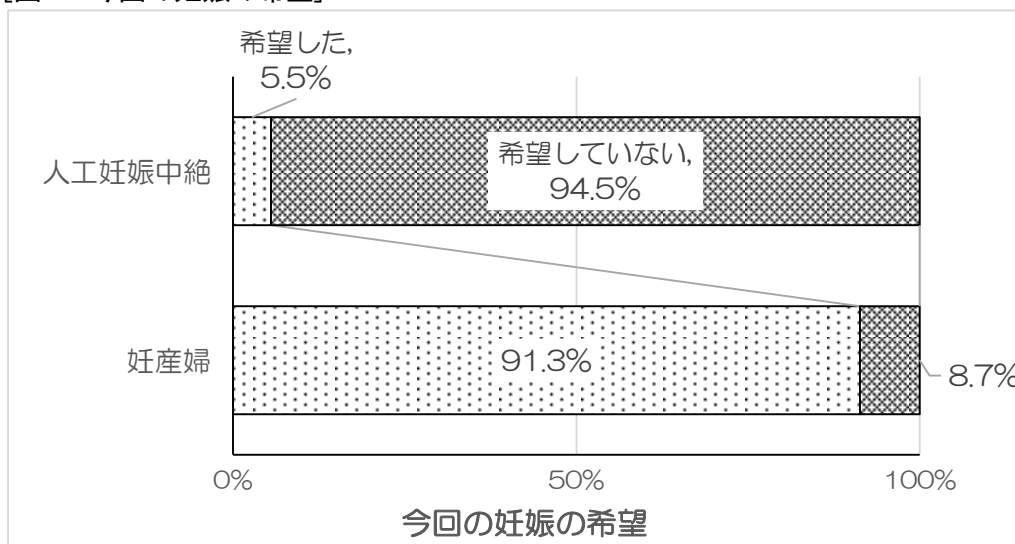
(21) 今回の妊娠の希望

「今回の妊娠は希望した妊娠ですか。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 23、妊産婦調査票②：問 13)

人工妊娠中絶群では「希望していない」が 94.5%であるが、妊産婦群は「希望した」が 91.3%であった。また、人工妊娠中絶群で「希望した」と回答した 5.5%は中絶を選択し、妊産婦群で「希望していない」と回答した 8.7%は出産を選択していた。

[図 21 今回の妊娠の希望]



[表 21 今回の妊娠の希望]

	希望した	希望していない	合計
人工妊娠中絶	8	137	145
	5.5%	94.5%	
妊産婦	105	10	115
	91.3%	8.7%	

(22) 希望していない妊娠に至った理由

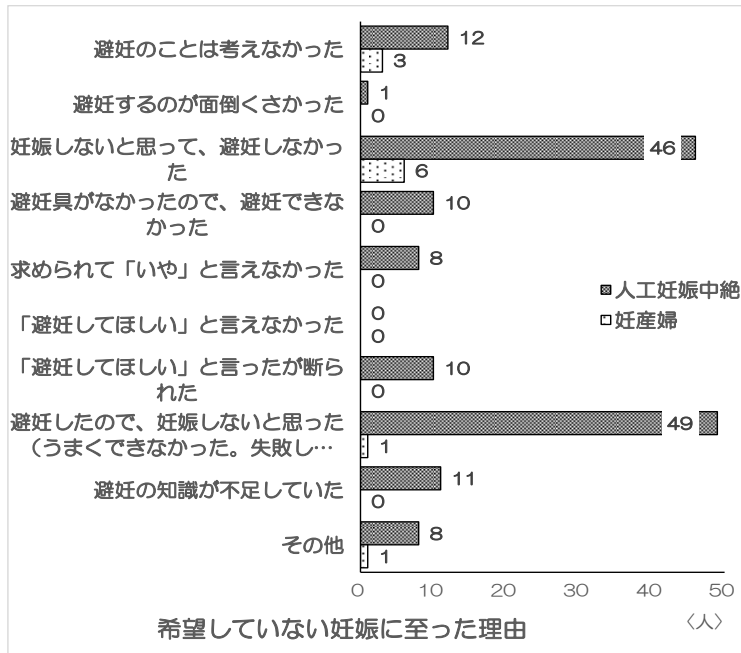
「希望していない妊娠に至った理由は何ですか。」(問 23 または問 13 で「希望していない」と回答した方)(複数回答)

(人工妊娠中絶調査票①：問 24、妊産婦調査票②：問 14)

人工妊娠中絶群で「希望していない妊娠」と回答した者 137 名中、「避妊したので、妊娠しないと思った」が 49 人、「妊娠しないと思って避妊しなかった」が 46 人であった。

このことは、人工妊娠中絶群の避妊をしなかった理由の「妊娠しないと思うから」の回答が多かったことを裏付ける結果となった。

[図 22 希望していない妊娠に至った理由]



[表 22 希望していない妊娠に至った理由]

	人工妊娠中絶	妊産婦
避妊のことは考えなかった	12	3
	8.8%	30.0%
避妊するのが面倒くさかった	1	0
	0.7%	0.0%
妊娠しないと思って、避妊しなかった	46	6
	33.6%	60.0%
避妊具がなかったので、避妊できなかった	10	0
	7.3%	0.0%
求められて「いや」と言えなかった	8	0
	5.8%	0.0%
「避妊してほしい」と言えなかった	0	0
	0.0%	0.0%
「避妊してほしい」と言ったが断られた	10	0
	7.3%	0.0%
避妊したので、妊娠しないと思った(うまくできなかった。失敗した。)	49	1
	35.8%	10.0%
避妊の知識が不足していた	11	0
	8.0%	0.0%
その他	8	1
	5.8%	10.0%
回答者の数	137	10

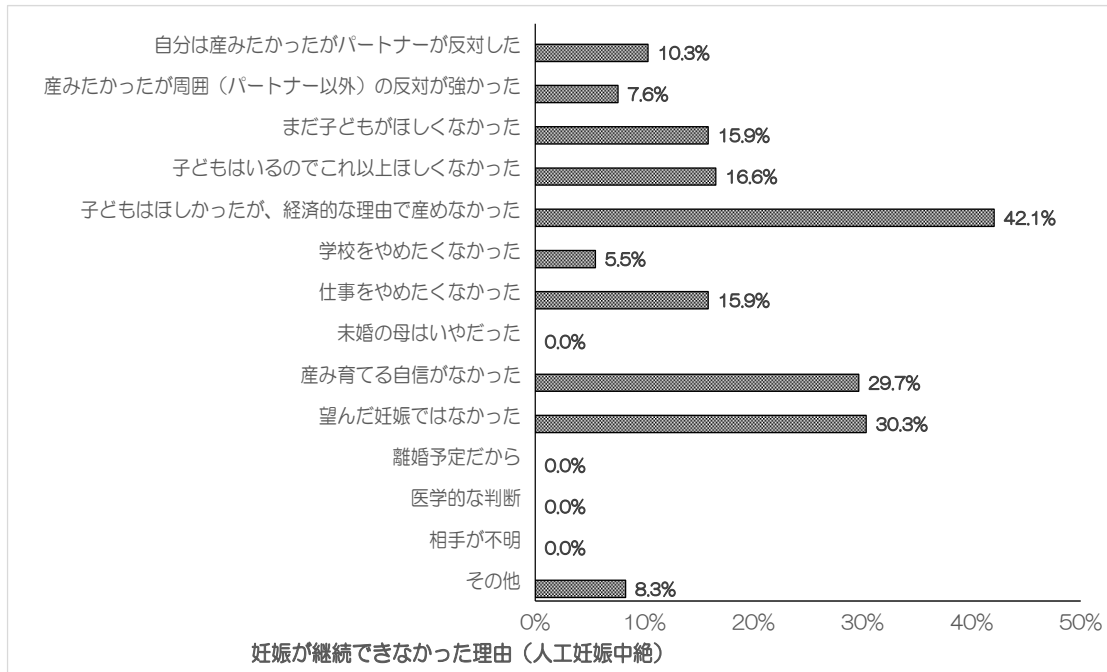
(23) 妊娠が継続できなかった理由

「妊娠が継続できなかった理由は何ですか。」（複数回答）

（人工妊娠中絶調査票①：問 25）

最も多かったのは、「子どもは欲しかったが経済的な理由で産めなかった」42.1%、次に「望んだ妊娠ではなかった」30.3%、「産み育てる自信がなかった」29.7%であった。

[図 23 妊娠が継続できなかった理由]



[表 23 妊娠が継続できなかった理由]

理由	人工妊娠中絶 数	割合
自分は産みたかったがパートナーが反対した	15	10.3%
産みたかったが周囲（パートナー以外）の反対が強かった	11	7.6%
まだ子どもがほしくなかった	23	15.9%
子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった	24	16.6%
子どもはほしかったが、経済的な理由で産めなかった	61	42.1%
学校をやめたくなかった	8	5.5%
仕事をやめたくなかった	23	15.9%
未婚の母はいやだった	0	0.0%
産み育てる自信がなかった	43	29.7%
望んだ妊娠ではなかった	44	30.3%
離婚予定だから	0	0.0%
医学的な判断	0	0.0%
相手が不明	0	0.0%
その他	12	8.3%
回答者の数	145	

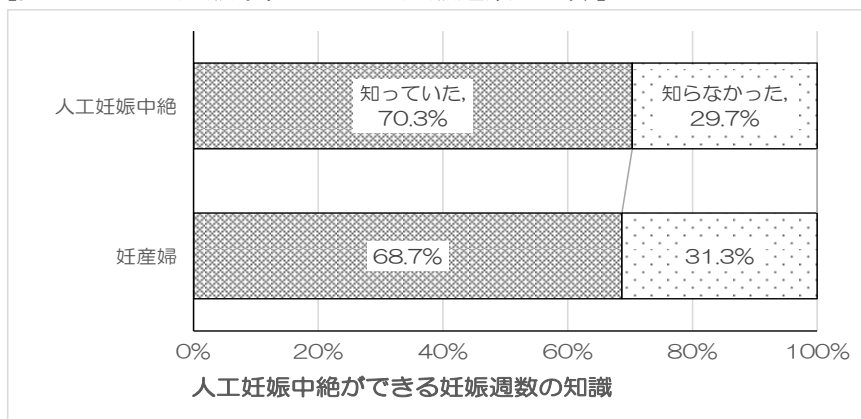
(24) 人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識

「人工妊娠中絶は、母体への影響が大きいため、人工妊娠中絶ができる妊娠週数が法律で定められていることを知っていましたか。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 26、妊産婦調査票②：問 25)

人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに「知っていた」と回答した者は70%前後であり、そのうち人工妊娠中絶ができる妊娠週数を「22 週末満」と回答している者が人工妊娠中絶群では58.8%、妊産婦群69.6%であった。

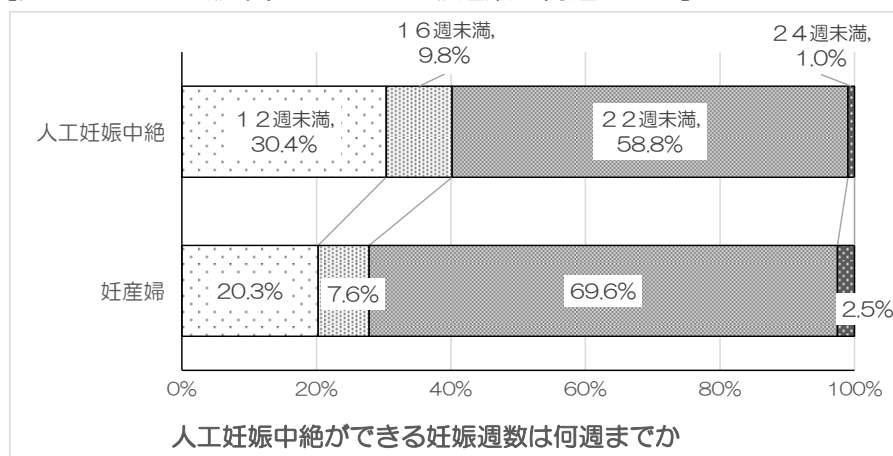
[図 24-1 人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識]



[表 24-1 人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識]

	知っていた	知らなかった	合計
人工妊娠中絶	102 70.3%	43 29.7%	145
妊産婦	79 68.7%	36 31.3%	115

[図 24-2 人工妊娠中絶ができる妊娠週数は何週までか]



[表 24-2 人工妊娠中絶ができる妊娠週数は何週までか]

	12週末満	16週末満	22週末満	24週末満	合計
人工妊娠中絶	31 30.4%	10 9.8%	60 58.8%	1 1.0%	102
妊産婦	16 20.3%	6 7.6%	55 69.6%	2 2.5%	79

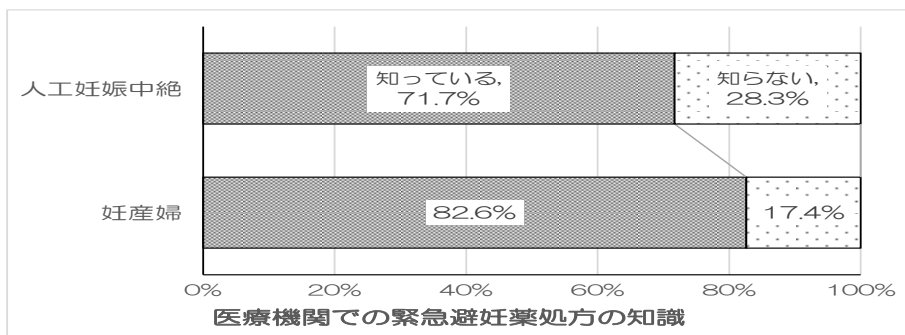
(25) 緊急避妊薬処方の知識

「避妊をしなかった、または避妊に失敗した時、医療機関で緊急避妊薬の処方を受けられることを知っていますか。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 27、妊産婦調査票②：問 26)

緊急避妊薬処方について「知らない」と回答した者が、人工妊娠中絶群では 26.3%、妊産婦群 17.4%で、人工妊娠中絶群の方が「知らない」と答えた割合が多かった。

[図 25 医療機関での緊急避妊薬処方の知識]



[表 25 医療機関での緊急避妊薬処方の知識]

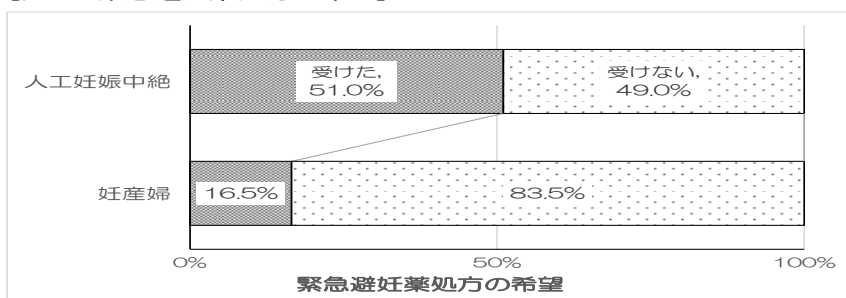
	知っている	知らない	合計
人工妊娠中絶	104 71.7%	41 28.3%	145
妊産婦	95 82.6%	20 17.4%	115

(26) 緊急避妊薬処方の希望

「緊急避妊薬のことを知っていたら、医療機関で緊急避妊薬の処方を受けましたか。」(人工妊娠中絶調査票①：問 28、妊産婦調査票②：問 27)

緊急避妊薬処方について「受けた」と回答した者が、人工妊娠中絶群では 51.0%、妊産婦群 16.5%で、人工妊娠中絶群の方が「受けた」と回答した割合が多かった。

[図 26 緊急避妊薬処方の希望]



[表 26 緊急避妊薬処方の希望]

	受けた	受けない	合計
人工妊娠中絶	74 51.0%	71 49.0%	145
妊産婦	19 16.5%	96 83.5%	115

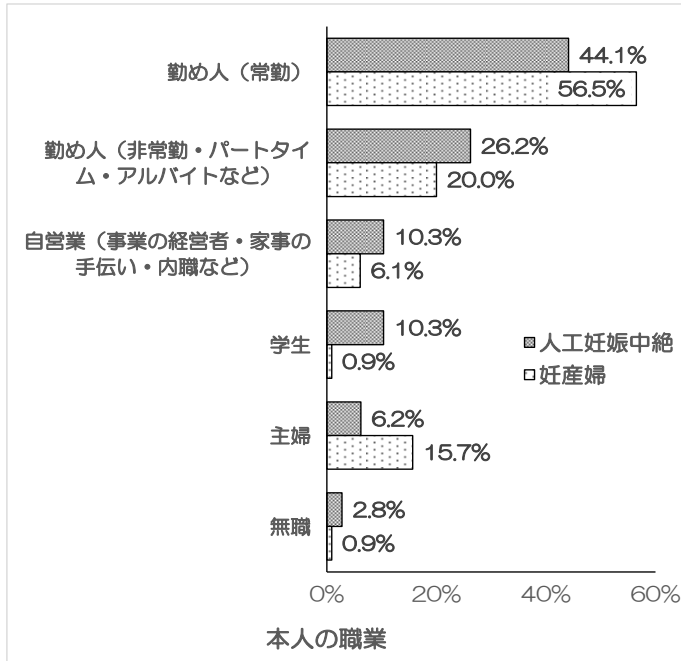
(27) 本人の職業

「あなたの職業は何ですか。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 29、妊産婦調査票②：問 28)

人工妊娠中絶群は妊産婦群と比べ、「勤め人(常勤)」と回答した割合が少なく、「勤め人(非常勤、パートタイム・アルバイトなど)」「自営業」「学生」と回答した割合が多かった。

[図 27 本人の職業]



[表 27 本人の職業]

	人工妊娠中絶	妊産婦
勤め人(常勤)	64	65
勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)	38	23
自営業(事業の経営者・家事の手伝い・内職など)	15	7
学生	15	1
主婦	9	18
無職	4	1
合計	145	115

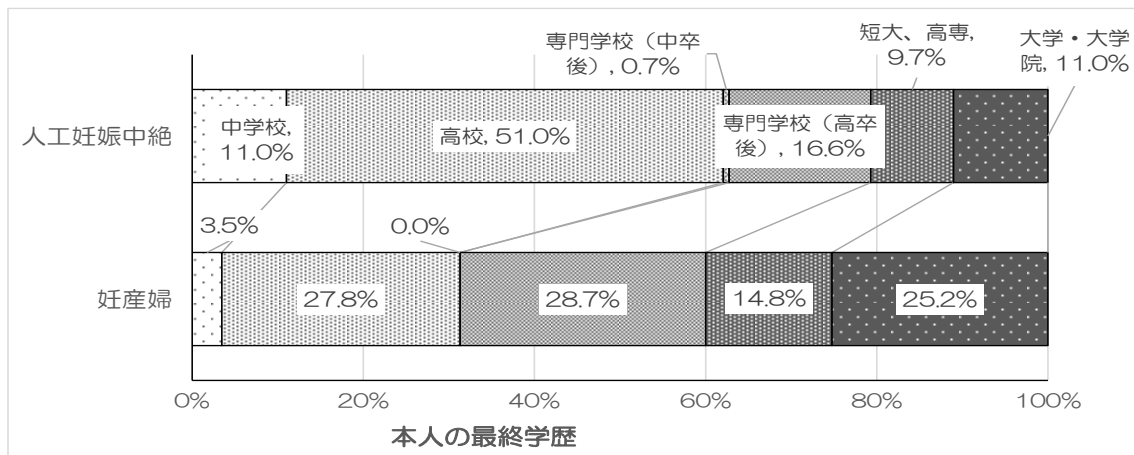
(28) 本人の最終学歴

「あなたが最後に卒業した(または在学中の)学校はどれですか。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 30、妊産婦調査票②：問 29)

人工妊娠中絶群は妊産婦群と比べ、「中学校」「高校」と回答した割合が多く、「専門学校(高卒)」「短大・高専」「大学・大学院」と回答した割合が少なかった。妊産婦群の方が人工妊娠中絶群より高学歴の者がぞうか下。

[図 28 本人の職業]



[表 28 本人の最終学歴]

	人工妊娠中絶	妊産婦
中学校	16 11.0%	4 3.5%
高校	74 51.0%	32 27.8%
専門学校(中卒後)	1 0.7%	0 0.0%
専門学校(高卒後)	24 16.6%	33 28.7%
短大、高専	14 9.7%	17 14.8%
大学・大学院	16 11.0%	29 25.2%
合計	145	115

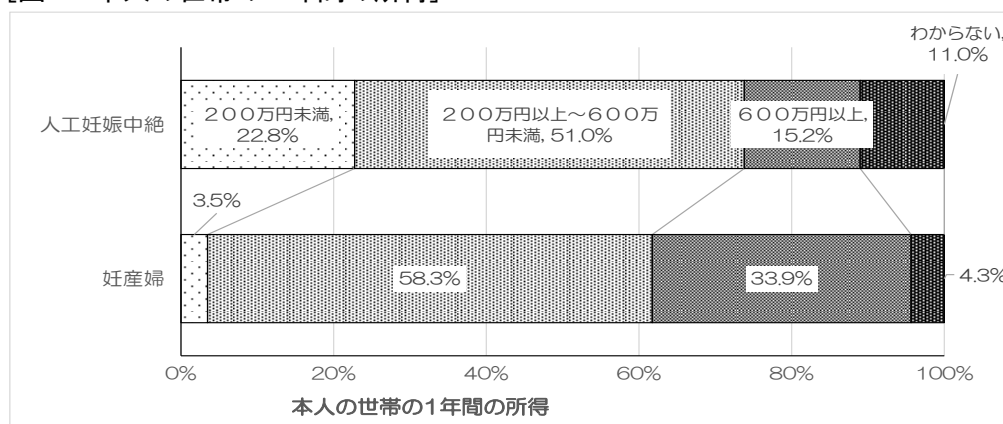
(29) 本人の世帯の1年間の所得

「あなたの世帯の1年間の所得はいくらですか。最も近いものをお選びください。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 31、妊産婦調査票②：問 30)

人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに「200万円以上～600万円未満」と回答した割合が最も多かった。また、人工妊娠中絶群は、妊産婦群に比べ、「200万円未満」と回答した割合が多く、で「600万円以上」と回答した割合が少なかった。妊産婦群の方が人工妊娠中絶群より高収入の者が増加した。

[図 29 本人の世帯の1年間の所得]



[表 29 本人の世帯の1年間の所得]

	人工妊娠中絶	妊産婦
200万円未満	33 22.8%	4 3.5%
200万円以上～600万円未満	74 51.0%	67 58.3%
600万円以上	22 15.2%	39 33.9%
わからない	16 11.0%	5 4.3%
合計	145	115

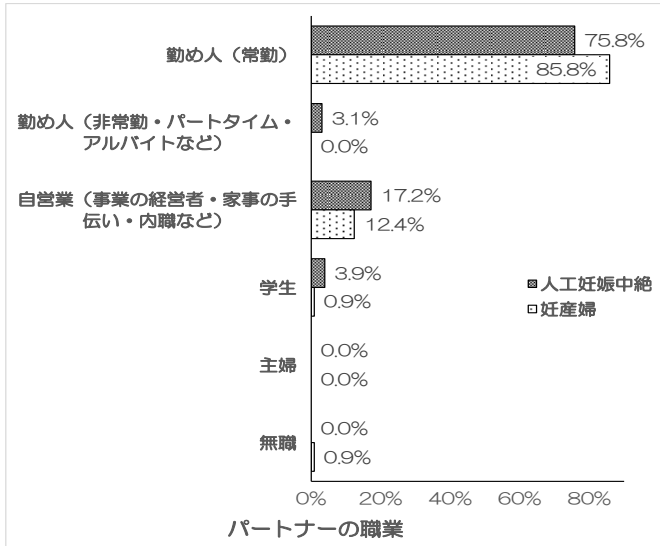
(30) パートナーの職業

「パートナーの職業は何ですか。一つだけお選びください。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 32、妊産婦調査票②：問 31)

人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに「勤め人(常勤)」と回答した割合が最も多いが、人工妊娠中絶群は妊産婦群に比べ、本人の職業と同様に「勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイト等)」「自営業」「学生」と回答した割合が多かった。

[図 30 パートナーの職業]



[表 30 パートナーの職業]

	人工妊娠中絶	妊産婦
勤め人(常勤)	97	97
	75.8%	85.8%
勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)	4	0
	3.1%	0.0%
自営業(事業の経営者・家事の手伝い・内職など)	22	14
	17.2%	12.4%
学生	5	1
	3.9%	0.9%
主婦	0	0
	0.0%	0.0%
無職	0	1
	0.0%	0.9%
合計	128	113

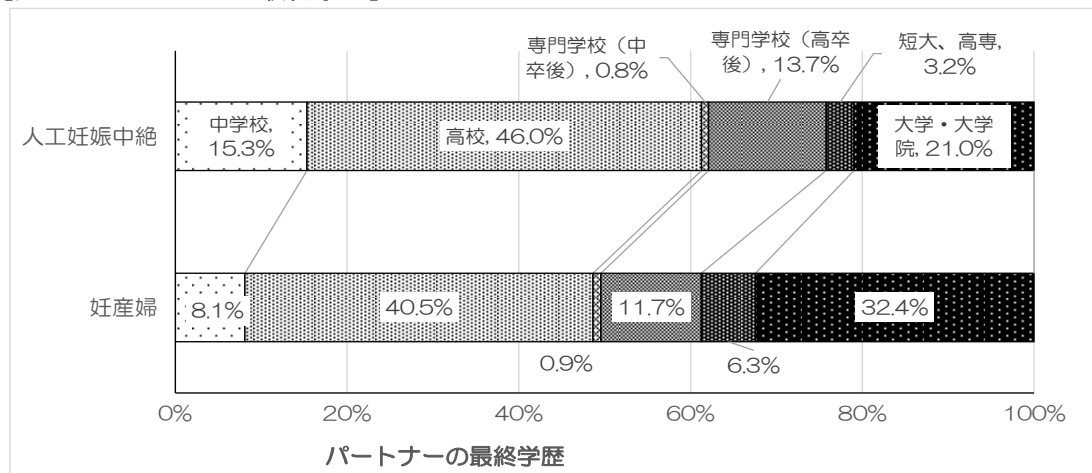
(31) パートナーの最終学歴

「パートナーが最後に卒業した(または在学中の)学校はどれですか。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 33、妊産婦調査票②：問 32)

人工妊娠中絶群は妊産婦群と比べ、「中学校」「高校」「専門学校(高卒)」と回答した割合が多く、「短大・高専」「大学・大学院」と回答した割合が少なかった。妊産婦群の方が人工妊娠中絶群より高学歴の者が増加した。

[図 31 パートナーの最終学歴]



[表 31 パートナーの最終学歴]

	人工妊娠中絶	妊産婦
中学校	19 15.3%	9 8.1%
高校	57 46.0%	45 40.5%
専門学校(中卒後)	1 0.8%	1 0.9%
専門学校(高卒後)	17 13.7%	13 11.7%
短大、高専	4 3.2%	7 6.3%
大学・大学院	26 21.0%	36 32.4%
合計	124	111

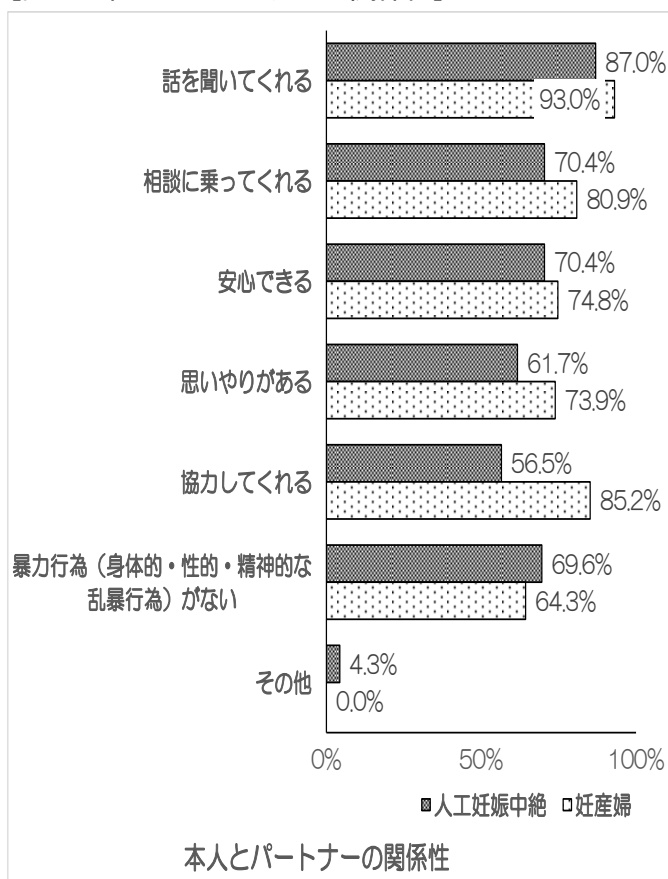
(32) 「あなたとパートナーとの関係性に当てはまるものをいくつかもお選びください。」

(人工妊娠中絶調査票①：問 34、妊産婦調査票②：問 33)

人工妊娠中絶群では「話を聞いてくれる」が 87.0%で最も多く、次いで「相談できる」と「安心できる」がそれぞれ 70.4%であった。妊産婦群では、「話を聞いてくれる」が 93.0%で最も多く、次いで「協力してくれる」85.2%「相談に乗ってくれる」80.9%であった。

妊産婦群ではほとんどの項目が 70%以上の高い回答であったが、人工妊娠中絶群では、「協力してくれる」が 56.5%のように、6 項目のうち 3 項目が 70%を下回る回答であった。

[図 32 本人とパートナーの関係性]



[表 32 本人とパートナーの関係性]

	人工妊娠中絶	妊産婦
話を聞いてくれる	100 87.0%	107 93.0%
相談に乗ってくれる	81 70.4%	93 80.9%
安心できる	81 70.4%	86 74.8%
思いやりがある	71 61.7%	85 73.9%
協力してくれる	65 56.5%	98 85.2%
暴力行為(身体的・性的・精神的な乱暴行為)がない	80 69.6%	74 64.3%
その他	5 4.3%	0 0.0%
回答者の数	115	115

年代別の比較

令和6年度調査における人工妊娠中絶群において、年代別の比較を行った。

- (1) 妊娠に気づいてから医療機関を受診するまでに一週間以上を要した理由（複数回答）
（人工妊娠中絶調査票①：問10）

10歳代では「仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった」と「産婦人科を受診するのが怖かった」と回答した割合が多く、10歳代以外では、「仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった」と回答した割合が多かった。

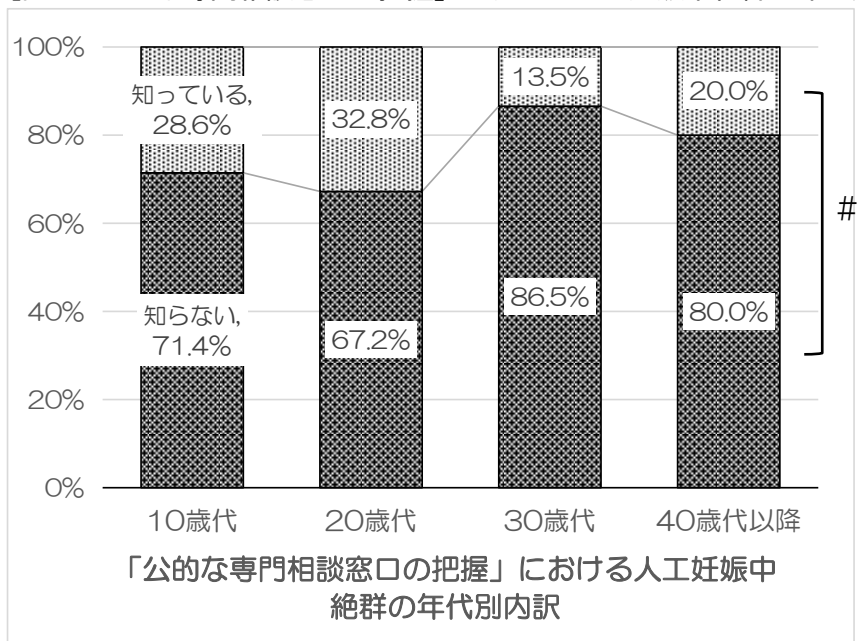
[表1 医療機関受診までに一週間以上かかった理由]における年代別内訳

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
心配で確認できなかった	1 25.0%	1 4.3%	1 4.8%	1 14.3%	4 7.3%
医療機関を受診するための費用がなかった	1 25.0%	0 0.0%	2 9.5%	0 0.0%	3 5.5%
仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった	2 50.0%	14 60.9%	15 71.4%	5 71.4%	36 65.5%
身近に相談できる人がいなかった	1 25.0%	1 4.3%	1 4.8%	0 0.0%	3 5.5%
相談できる専門機関を知らなかった	0 0.0%	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%
産婦人科を受診するのが怖かった	2 50.0%	1 4.3%	2 9.5%	0 0.0%	5 9.1%
その他	0 0.0%	5 21.7%	4 19.0%	1 14.3%	10 18.2%
回答者	4	23	21	7	55

(2) 公的な専門相談窓口の把握 (人工妊娠中絶調査票①：問 14)

公的な専門相談窓口を「知っている」と回答した割合は、年代別にみると若い年齢ほど多く、「知らない」と回答した割合は、高い年齢に多い傾向がみられたが、統計的な有意差はなかった。
 (#:p<0.1)

[図2 「公的な専門相談窓口の把握」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]



傾向性の検定 #:p<0.1

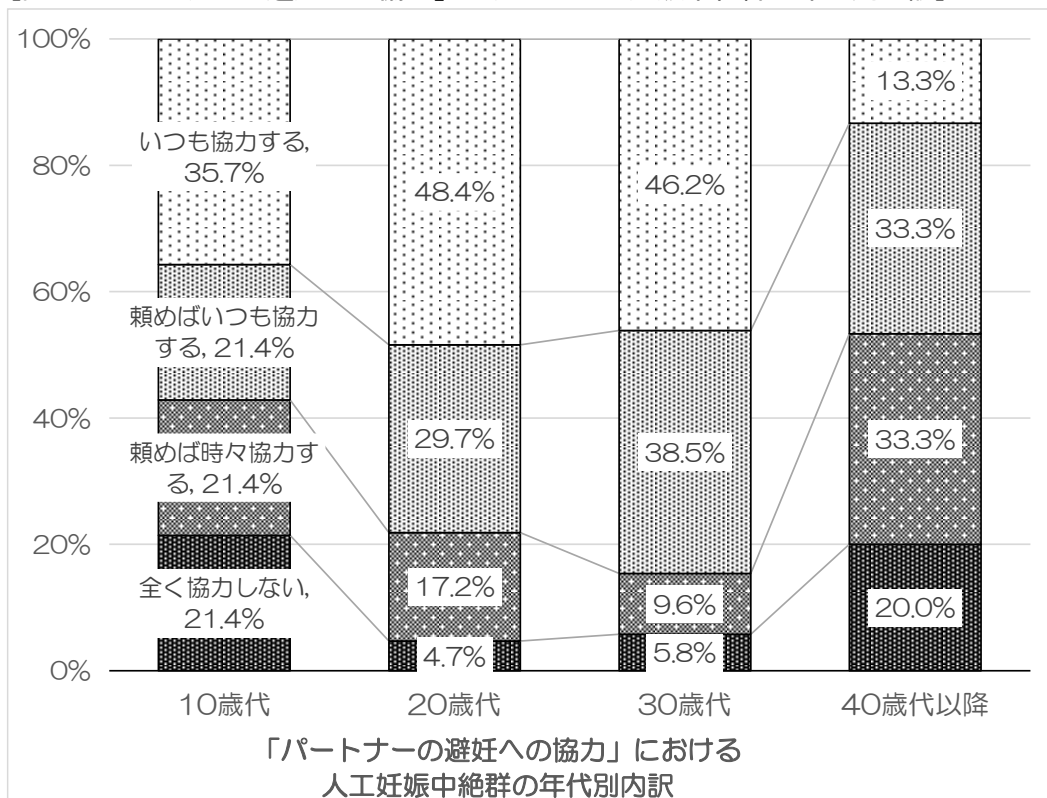
[表2 「公的な専門相談窓口の把握」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
知っている	4 28.6%	21 32.8%	7 13.5%	3 20.0%	35 24.1%
知らない	10 71.4%	43 67.2%	45 86.5%	12 80.0%	110 75.9%
回答者	14	64	52	15	145

(3) パートナーの避妊への協力 (人工妊娠中絶調査票①：問 15)

パートナーが避妊に「いつも協力する」「頼めばいつも協力する」と回答した割合は、年代別では 30 歳代が 84.7%と最も多く、次に 20 歳代が 78.1%と多かった。また、「全く協力しない」と回答した割合は、10 歳代と 40 歳代以降で多く、それぞれ 20%を占めていた。

[図 3 「パートナーの避妊への協力」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]



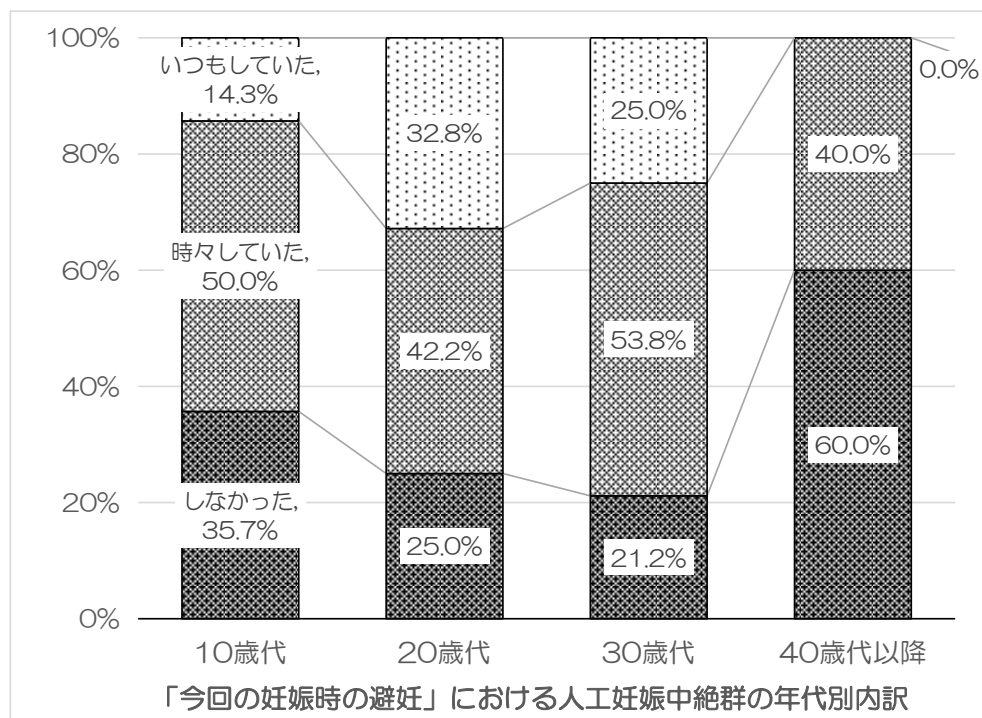
[表 3 「パートナーの避妊への協力」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降
いつも協力する	5 35.7%	31 48.4%	24 46.2%	2 13.3%
頼めばいつも協力する	3 21.4%	19 29.7%	20 38.5%	5 33.3%
頼めば時々協力する	3 21.4%	11 17.2%	5 9.6%	5 33.3%
全く協力しない	3 21.4%	3 4.7%	3 5.8%	3 20.0%
回答者	14	64	52	15

(4) 今回の妊娠時の避妊 (人工妊娠中絶調査票①：問16)

今回の妊娠時の避妊で「ときどきしていた」「しなかった」と回答した割合は、年代別では、40歳以降は100%で、全ての回答者がいつも避妊していなかった。また、10歳代が85.7%、30歳代が75.0%、20歳代が67.2%で、いつも避妊していなかった。

[図4「今回の妊娠時の避妊」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]



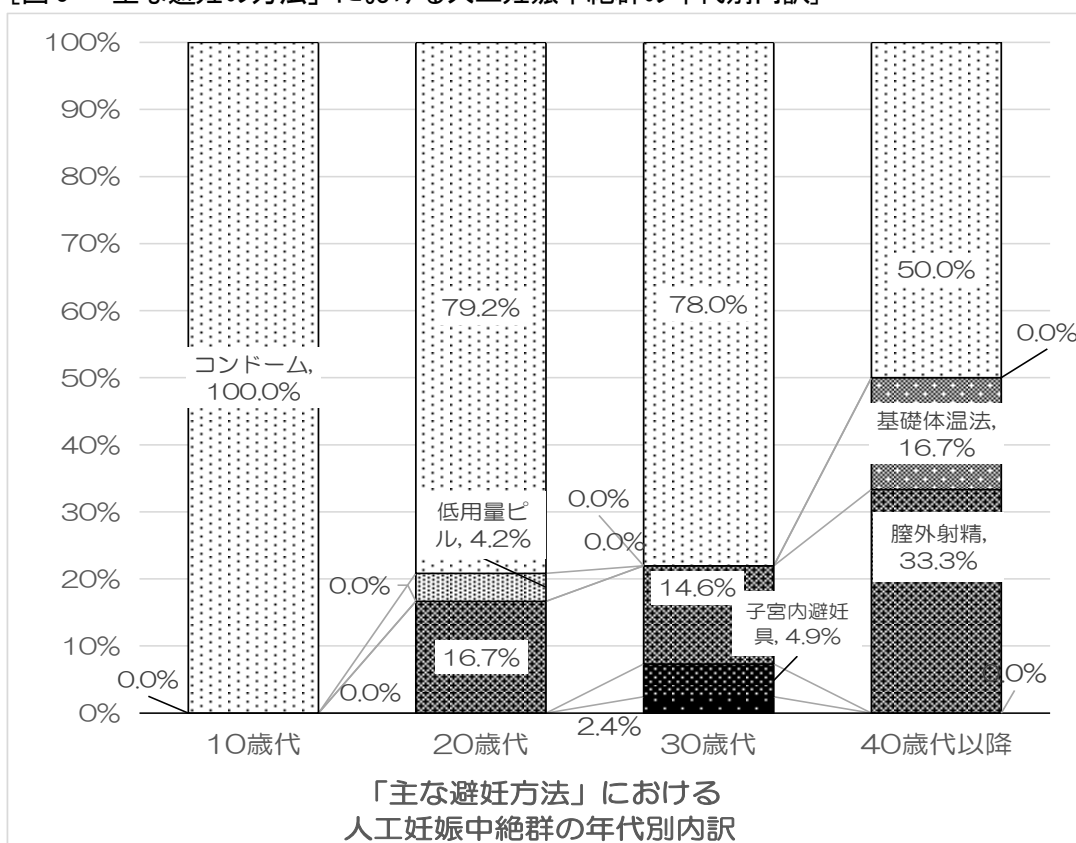
[表4「今回の妊娠時の避妊」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
いつもしていた	2	21	13	0	36
	14.3%	32.8%	25.0%	0.0%	24.8%
時々していた	7	27	28	6	68
	50.0%	42.2%	53.8%	40.0%	46.9%
しなかった	5	16	11	9	41
	35.7%	25.0%	21.2%	60.0%	28.3%
回答者	14	64	52	15	145

(5) 主な避妊の方法 (人工妊娠中絶調査票①：問 17)

主な避妊方法は、「コンドーム」と回答した割合が、10歳代では100%であり、20歳代及び30歳代は70%以上であり、若い年代に多かった。また、20歳代では「低用量ピル」、30歳代では「子宮内避妊具」を回答している者もいた。40歳代以降では、「コンドーム」の次に「膣外射精」と回答している割合が多かった。

[図5 「主な避妊の方法」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]



[表5 「主な避妊の方法」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

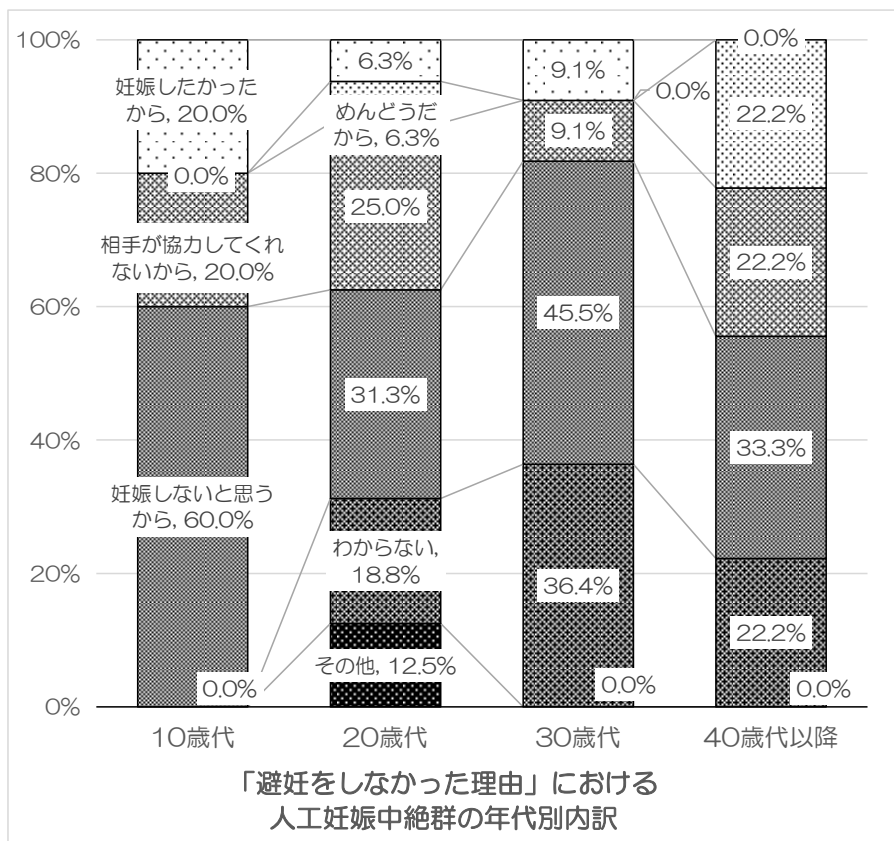
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
コンドーム	9	38	32	3	82
	100.0%	79.2%	78.0%	50.0%	78.8%
低用量ピル(経口避妊薬)	0	2	0	0	2
	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	1.9%
基礎体温法	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	1.0%
膣外射精	0	8	6	2	16
	0.0%	16.7%	14.6%	33.3%	15.4%
子宮内避妊具	0	0	2	0	2
	0.0%	0.0%	4.9%	0.0%	1.9%
その他	0	0	1	0	1
	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	1.0%
回答数	9	48	41	6	104

(6) 避妊をしなかった理由 (人工妊娠中絶調査票①：問 18)

避妊をしなかった理由で「妊娠しないと思うから」と回答した割合が、年代別では 10 歳代で 60.0%と最も多く、次に 30 歳代で 45.5%と多かった。また、「相手が協力してくれない」と回答した割合は、10 歳代、20 歳代、40 歳代以降で、それぞれ 20%強であった。

10 歳代では「妊娠したかったから」と回答した割合が 20.0%で、年代別では最も多かった。

[図 6 「避妊をしなかった理由」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]



[表 6 「避妊をしなかった理由」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
妊娠したかったから	1	1	1	0	3
	20.0%	6.3%	9.1%	0.0%	7.3%
めんどうだから	0	1	0	2	3
	0.0%	6.3%	0.0%	22.2%	7.3%
相手が協力してくれないから	1	4	1	2	8
	20.0%	25.0%	9.1%	22.2%	19.5%
妊娠しないと思うから	3	5	5	3	16
	60.0%	31.3%	45.5%	33.3%	39.0%
費用がかかるため	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
避妊方法を知らない	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	0	3	4	2	9
	0.0%	18.8%	36.4%	22.2%	22.0%
その他	0	2	0	0	2
	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	4.9%
合計	5	16	11	9	41

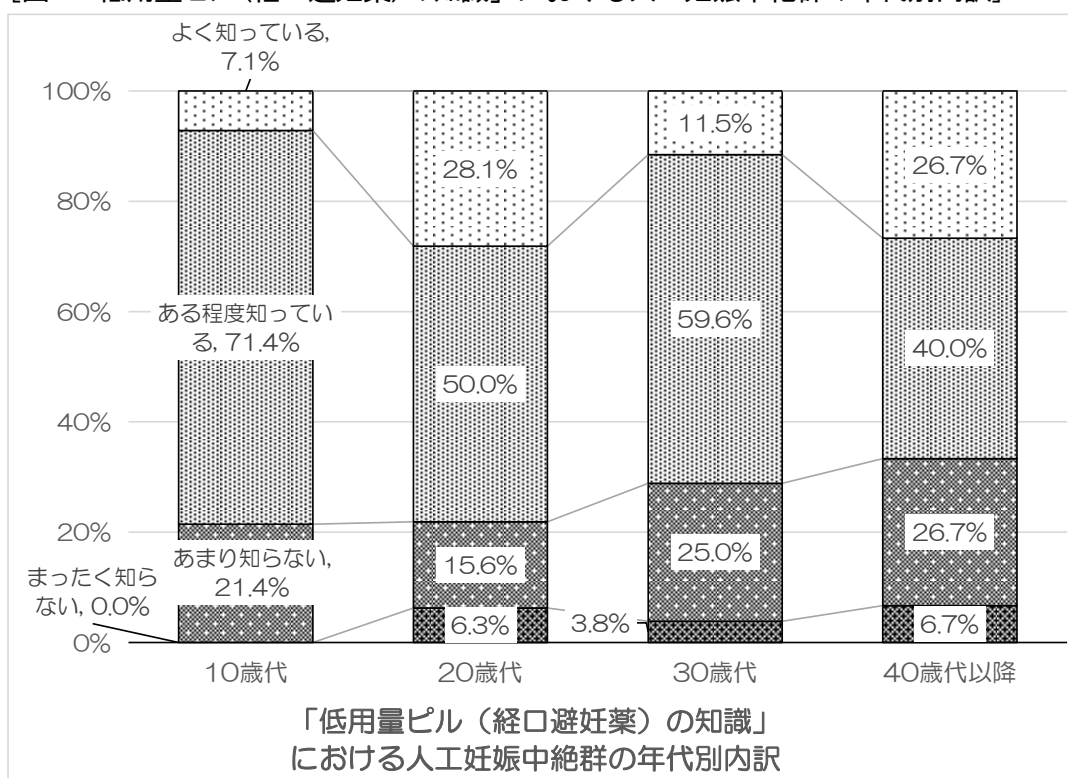
(7) 低用量ピル(経口避妊薬)の知識

(人工妊娠中絶調査票①：問 19)

低用量ピル(経口避妊薬)について「よく知っている」と回答した割合は、年代別では、20歳代が28.1%で最も多く、次に40歳代以降で26.7%であった。「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した割合は、10歳代から30歳代までは70%を越えており、若い年代ほど知っている者の割合が多かった。

また、40歳代以降では、「あまり知らない」「まったく知らない」と回答した割合が33.4%で、他の年代に比べると最も多かった。

[図7 「低用量ピル(経口避妊薬)の知識」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]



[表7 「低用量ピル(経口避妊薬)の知識」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
よく知っている	1	18	6	4	29
	7.1%	28.1%	11.5%	26.7%	20.0%
ある程度知っている	10	32	31	6	79
	71.4%	50.0%	59.6%	40.0%	54.5%
あまり知らない	3	10	13	4	30
	21.4%	15.6%	25.0%	26.7%	20.7%
まったく知らない	0	4	2	1	7
	0.0%	6.3%	3.8%	6.7%	4.8%
回答者	14	64	52	15	145

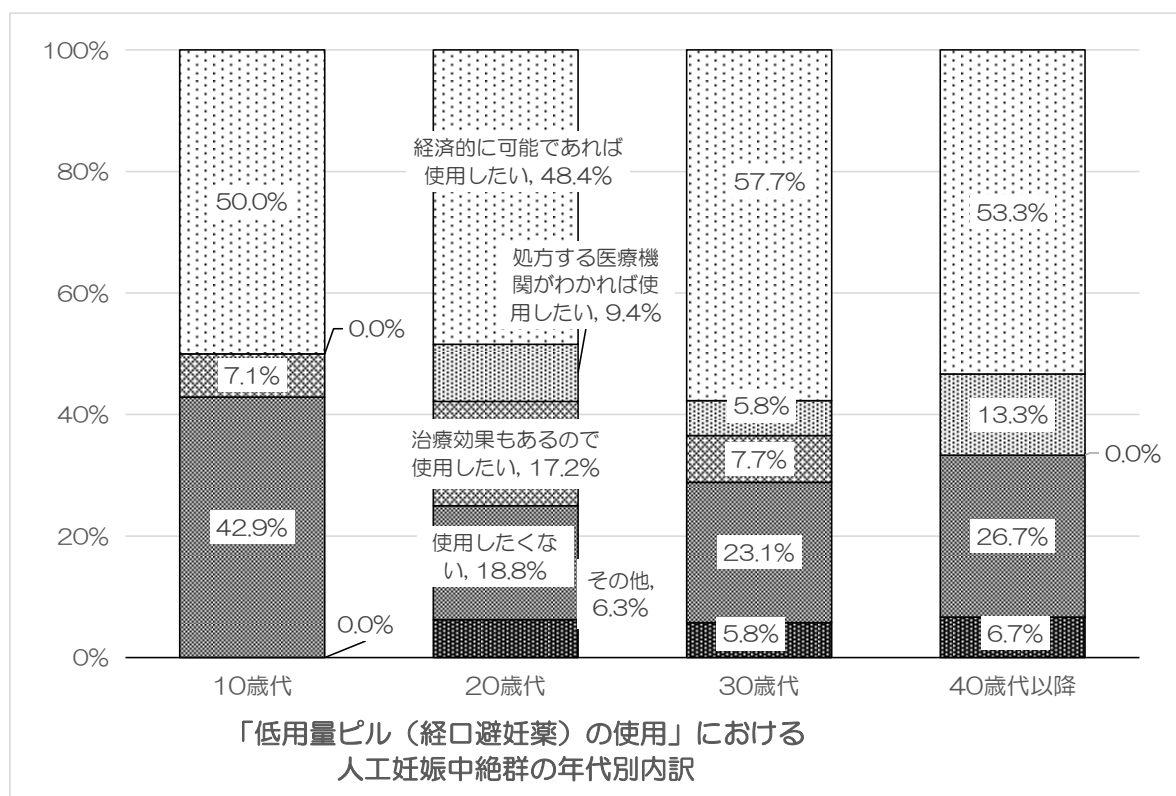
(8) 低用量ピル(経口避妊薬)の使用

(人工妊娠中絶調査票①：問 20)

低用量ピル(経口避妊薬)の使用について「経済的に可能であれば使用したい」と回答した割合が、どの年代も50%前後で最も多かった。また、10歳代では「使用したくない」と回答した割合が42.9%で、年代の中では最も多かった。

「処方する医療機関が分かれば使用したい」と回答した割合は、40歳代以降が13.3%、20歳代が9.4%であり、「避妊以外に治療効果があるので使用したい」と回答した割合では、20歳代が17.2%で多かった。20歳代は低用量ピル(経口避妊薬)の使用に肯定的な者が多かった。

[図8 「低用量ピル(経口避妊薬)の使用」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]



[表8 「低用量ピル(経口避妊薬)の使用」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
経済的に可能であれば使用したい	7	31	30	8	76
	50.0%	48.4%	57.7%	53.3%	52.4%
処方する医療機関がわかれば使用したい	0	6	3	2	11
	0.0%	9.4%	5.8%	13.3%	7.6%
避妊以外に治療効果(月経不順や子宮内膜症等の治療)もあるので使用したい	1	11	4	0	16
	7.1%	17.2%	7.7%	0.0%	11.0%
使用したくない	6	12	12	4	34
	42.9%	18.8%	23.1%	26.7%	23.4%
その他	0	4	3	1	8
	0.0%	6.3%	5.8%	6.7%	5.5%
回答数	14	64	52	15	145

(9) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なだと思う情報（複数回答）

(人工妊娠中絶調査票①：問 21)

どの年代においても「インターネット（ホームページ）による情報提供」と「低用量ピル（経口避妊薬）をもっと入手しやすくする」と回答した割合が 50%前後で多かったが、統計学的な有意差はなかった。

年齢が高い者ほど「わかりやすいパンフレットによる情報提供」と回答した割合が多く、統計的な有意差が認められた。（* : $p<0.05$ ）

年齢が若い者ほど「コンドームの無料配付」と回答した割合が多く、統計的な有意差が認められた。（* : $p<0.05$ ）

年齢が高い者ほど「子宮内避妊具の費用の公費補助」と回答した割合が多かったが、統計的な有意差はないが関連の可能性が認められた。（# : $p<0.1$ ）

[表 9 「避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
気軽に相談できるセンター(電話や面接相談など)	1 7.1%	21 32.8%	11 21.2%	3 20.0%	36 24.8%
同年代の正しい知識を持った仲間(ピア)からの情報提供	5 35.7%	16 25.0%	10 19.2%	2 13.3%	33 22.8%
インターネット(ホームページ)による情報提供	7 50.0%	26 40.6%	24 46.2%	6 40.0%	63 43.4%
わかりやすいパンフレットによる情報提供	0 0.0%	11 17.2%	8 15.4%	6 40.0%	25 17.2% *
親子で話し合うための教材の情報提供	1 7.1%	13 20.3%	7 13.5%	3 20.0%	24 16.6%
いろいろな世代も含めた男女のつきあい方を学ぶ教室	2 14.3%	6 9.4%	3 5.8%	0 0.0%	11 7.6%
コンドームの無料配付	3 21.4%	11 17.2%	2 3.8%	0 0.0%	16 11.0% *
子宮内避妊具の費用の公費補助	2 14.3%	17 26.6%	17 32.7%	6 40.0%	42 29.0% #
低用量ピル(経口避妊薬)をもっと入手しやすくする	6 42.9%	32 50.0%	28 53.8%	8 53.3%	74 51.0%
その他	0 0.0%	3 4.7%	1 1.9%	0 0.0%	4 2.8%
回答者の数	14	64	52	15	145

傾向性の検定 *: $p<0.05$ #: $p<0.1$

(10) 性に関する教育の時期（複数回答）

（人工妊娠中絶調査票①：問 22）

性に関する教育の時期について、「小学生の時」と回答した割合は、40歳代以降が100%で最も多く、30歳代が80.8%で最も少なかった。「中学生の時」と回答した割合は、どの年代も90%以上と多かった。「高校生の時」と回答した割合は、40歳代以降が93.8%で最も多く、30歳代が69.2%で最も少なかった。多くの回答者が「小学生の時」「中学生の時」「高校生の時」に性教育を受けていた。

[表 10 性に関する教育を受けた時期における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
小学生の時に受けた	12 85.7%	58 90.6%	42 80.8%	15 100.0%	127 87.6%
中学生の時に受けた	13 92.9%	61 95.3%	48 92.3%	14 93.3%	136 93.8%
高校生の時に受けた	11 78.6%	56 87.5%	36 69.2%	14 93.3%	117 80.7%
専門学校、大学等(高卒後)で受けた	0 0.0%	1 1.6%	1 1.9%	0 0.0%	2 1.4%
一度も受けたことがない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
わからない	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	1 6.7%	2 1.4% #
合計	14	64	52	15	145

傾向性の検定 # :p<0.1

(11) 希望していない妊娠に至った理由（複数回答） （人工妊娠中絶調査票①：問 24）

「妊娠しないと思って避妊しなかった」と回答した割合は、40歳代以降が53.3%と最も多く、次に30歳代38.0%、20歳代27.1%、10歳代23.1%の順であり、年齢が高いほど妊娠しないと思って避妊しなかった割合が多く、統計的な有意差が認められた。（* : $p < 0.05$ ）

「避妊の知識が不足していた」と回答した割合は、10歳代が15.4%と最も多く、次に20歳代11.9%であり、30歳代と40歳代以降は10%未満で、統計的な有意差はないが、年齢が若いほど避妊の知識が不足していた傾向が認められた。（# : $p < 0.1$ ）

「避妊したので、妊娠しないと思った」と回答した割合は、30歳代が40.0%、20歳代が39.0%、10歳代が30.8%、40歳代以降が13.3%の順であり、統計学的な有意差はなかった。

[表 11 「希望していない妊娠に至った理由」における人工妊娠中絶群の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
避妊のことは考えなかった	1 7.7%	4 6.8%	6 12.0%	1 6.7%	12 8.8%
避妊するのが面倒くさかった	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	1 0.7%
妊娠しないと思って、避妊しなかった	3 23.1%	16 27.1%	19 38.0%	8 53.3%	46 33.6% *
避妊具がなかったので、避妊できなかった	2 15.4%	4 6.8%	4 8.0%	0 0.0%	10 7.3%
求められて「いや」と言えなかった	2 15.4%	2 3.4%	3 6.0%	1 6.7%	8 5.8%
「避妊してほしい」と言えなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
「避妊してほしい」と言ったが断られた	2 15.4%	5 8.5%	1 2.0%	2 13.3%	10 7.3%
避妊したので、妊娠しないと思った（うまくできなかった。失敗した。）	4 30.8%	23 39.0%	20 40.0%	2 13.3%	49 35.8%
避妊の知識が不足していた	2 15.4%	7 11.9%	1 2.0%	1 6.7%	11 8.0% #
その他	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%
回答者の数	13	59	50	15	137

傾向性の検定 *: $p < 0.05$ #: $p < 0.1$

「自分は産みたかったがパートナーが反対した」と回答した割合は、10歳代が28.6%と最も多く、次に20歳代10.9%、30歳代7.7%で、40歳代以降は0%であり、また、「学校をやめたくなかった」と回答した割合は、10歳代が28.6%と最も多く、次に20歳代が6.3%で、30歳代と40歳代以降は0%で、どちらの回答も年齢が若いほど割合が多く、統計的な有意差が認められた。

(* : $p < 0.05$)

「子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった」と回答した割合は、40歳代以降が46.7%と最も多く、次に30歳代26.9%、20歳代4.7%で、10歳代は0%であり、また、「産み育てる自信がなかった」と回答した割合は、40歳代以降が46.7%と最も多く、次に30歳代34.6%、20歳代23.4%で、10歳代は21.4%であり、どちらの回答も年齢が高いほど割合が多く、統計的な有意差が認められた。 (* : $p < 0.05$)

[表 12 「妊娠が継続できなかった理由」の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
自分は産みたかったがパートナーが反対した	4 28.6%	7 10.9%	4 7.7%	0 0.0%	15 10.3% *
産みたかったが周囲(パートナー以外)の反対が強かった	2 14.3%	5 7.8%	3 5.8%	1 6.7%	11 7.6%
まだ子どもがほしくなかった	3 21.4%	13 20.3%	5 9.6%	2 13.3%	23 15.9%
子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった	0 0.0%	3 4.7%	14 26.9%	7 46.7%	24 16.6% *
子どもはほしかったが、経済的な理由で産めなかった	7 50.0%	30 46.9%	20 38.5%	4 26.7%	61 42.1%
学校をやめたくなかった	4 28.6%	4 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	8 5.5% *
仕事をやめたくなかった	0 0.0%	11 17.2%	9 17.3%	3 20.0%	23 15.9%
産み育てる自信がなかった	3 21.4%	15 23.4%	18 34.6%	7 46.7%	43 29.7% *
望んだ妊娠ではなかった	3 21.4%	21 32.8%	15 28.8%	5 33.3%	44 30.3%
その他	1 7.1%	3 4.7%	4 7.7%	2 13.3%	10 6.9%
回答者の数	14	64	52	15	145

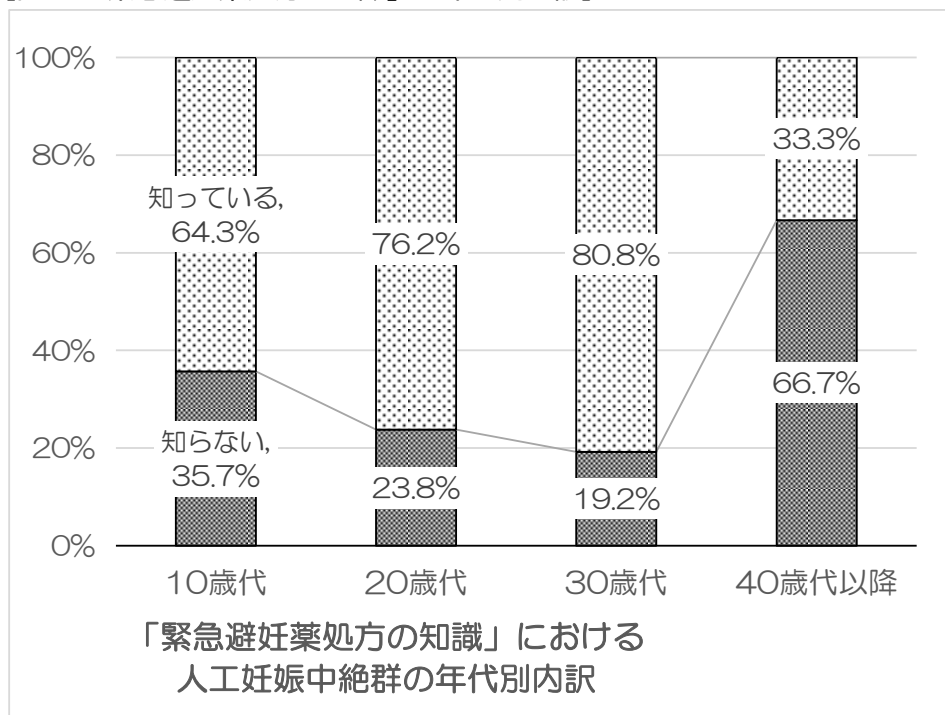
傾向性の検定 * : $p < 0.05$

(13) 緊急避妊薬処方への知識

(人工妊娠中絶調査票①：問 27)

緊急避妊薬処方について「知らない」と回答した割合は、40歳代以降が66.7%と最も多く、次に10歳代が35.7%で、20歳代と30歳代では20%前後あった。また、30歳代以下の若い年代は知っている割合が多かった。

[図 13 「緊急避妊薬処方への知識」の年代別内訳]



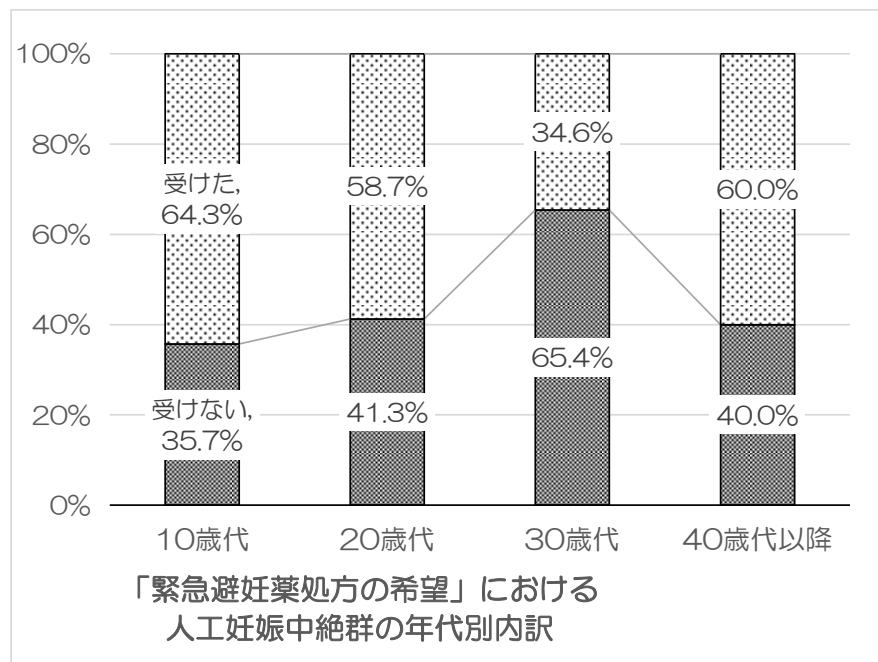
[表 13 「緊急避妊薬処方への知識」の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
知っている	9 64.3%	48 76.2%	42 80.8%	5 33.3%	104 72.2%
知らない	5 35.7%	15 23.8%	10 19.2%	10 66.7%	40 27.8%
回答数	14	63	52	15	144

(14) 緊急避妊薬処方希望 (人工妊娠中絶調査票①：問28)

緊急避妊薬を知っていたら医療機関での処方について「受けた」と回答した割合が、10歳代が64.3%と最も多く、次に40歳代以降60.0%、20歳代58.7%の順であった。30歳代では34.6%しか処方を希望しなかった。

[図14 「緊急避妊薬処方希望」の年代別内訳]



[表14 「緊急避妊薬処方希望」の年代別内訳]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
受けた	9 64.3%	37 58.7%	18 34.6%	9 60.0%	73 50.7%
受けない	5 35.7%	26 41.3%	34 65.4%	6 40.0%	71 49.3%
回答数	14	63	52	15	144

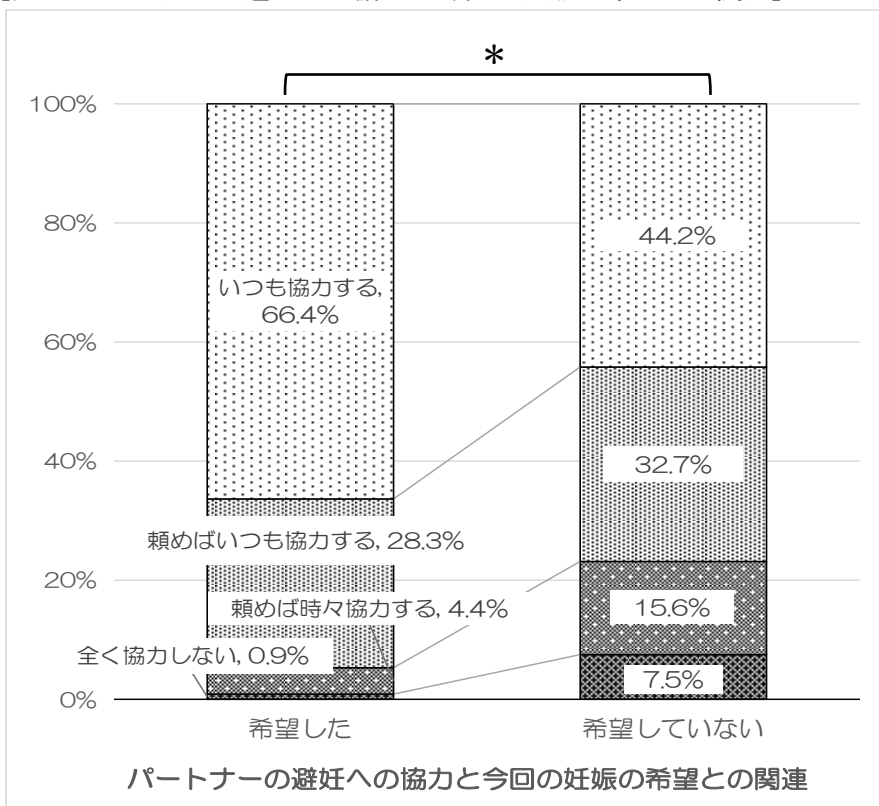
今回の妊娠の希望との関連

令和6年度調査の人工妊娠中絶群と妊産婦群において、「今回の妊娠の希望」とその他の項目との比較を行った。

(1) 「パートナーの避妊への協力」と「今回の妊娠の希望」

パートナーの避妊への協力について、「いつも協力する」と回答した割合は、今回の妊娠を「希望した」と回答した者が66.4%、「希望していない」と回答した者が44.2%であり、「頼めばいつも協力する」と回答した割合は、「希望した」と回答した者が22.8%、「希望していない」と回答した者が32.7%であった。今回の妊娠を「希望した」と回答した者の方が、パートナーが避妊に対して協力的であり、統計的な有意差が認められた。(*:p<0.05)

[図1 パートナーの避妊への協力と今回の妊娠の希望との関連]



傾向性の検定 *:p<0.05

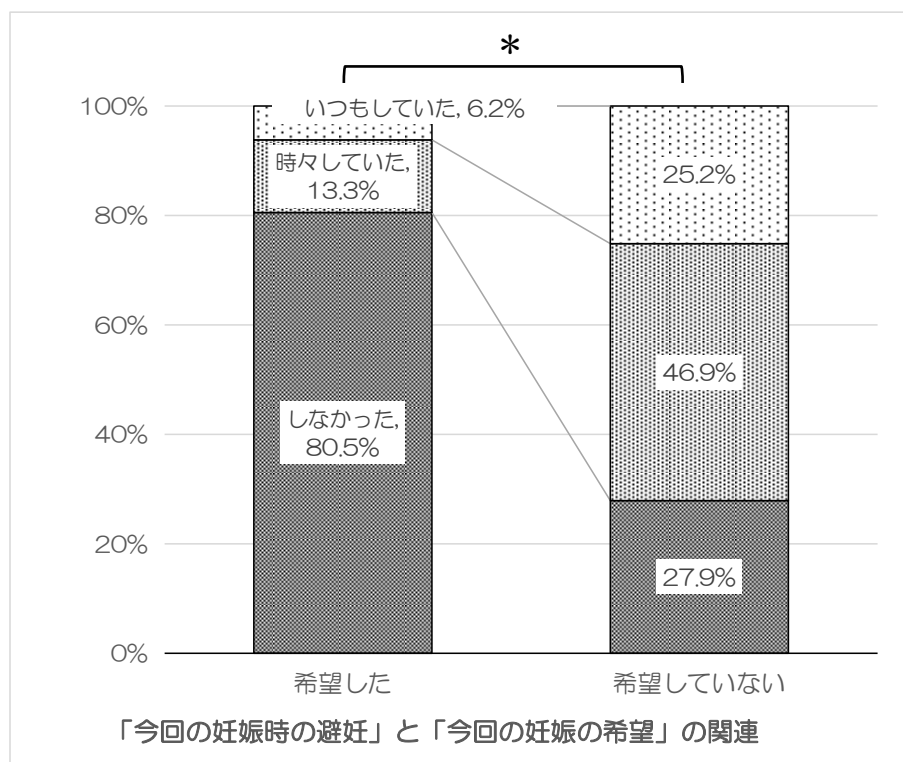
[表1 パートナーの避妊への協力と今回の妊娠の希望との関連]

	妊娠の希望		合計
	希望した	希望していない	
いつも協力する	75 66.4%	65 44.2%	140 53.8%
頼めばいつも協力する	32 28.3%	48 32.7%	80 30.8%
頼めば時々協力する	5 4.4%	23 15.6%	28 10.8%
全く協力しない	1 0.9%	11 7.5%	12 4.6%
回答者	113	147	260

(2) 「今回の妊娠時の避妊」と「今回の妊娠の希望」

今回の妊娠時の避妊について、「しなかった」と回答した割合は、今回の妊娠を「希望した」と回答した者が80.5%、「希望していない」と回答した者が27.9%であった。また、「いつもしていた」「時々していた」と回答した割合は、「希望した」と回答した者が19.5%、「希望していない」と回答した者が72.1%であった。今回の妊娠を「希望していない」と回答した者の方が、今回の妊娠時に避妊しており、統計的な有意差が認められた。(*:p<0.05)

[図2 今回の妊娠時の避妊と今回の妊娠の希望との関連



傾向性の検定 *:p<0.05

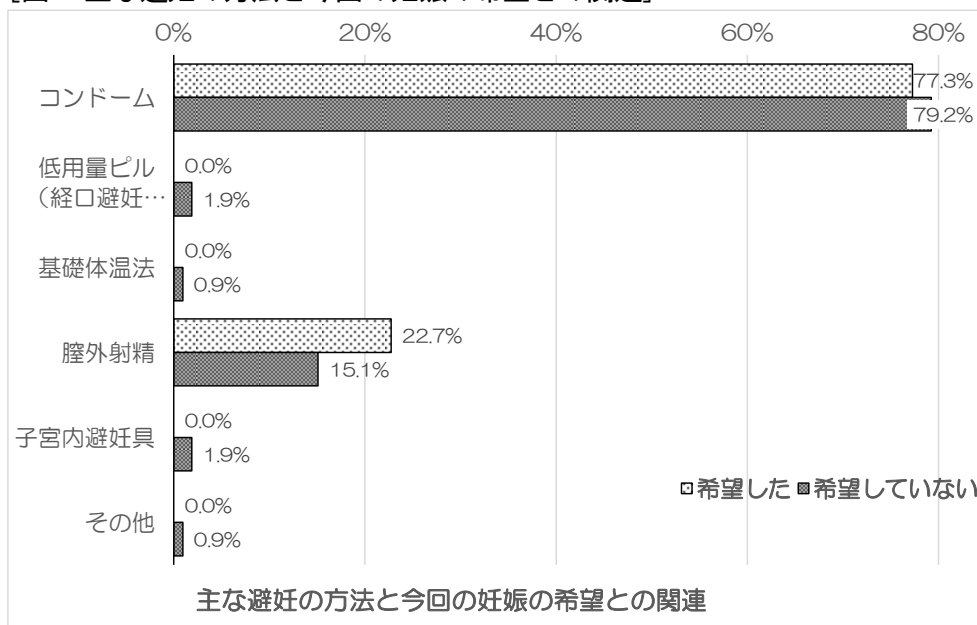
[表2 今回の妊娠時の避妊と今回の妊娠の希望との関連

	妊娠の希望		合計
	希望した	希望していない	
いつもしていた	7	37	44
	6.2%	25.2%	16.9%
時々していた	15	69	84
	13.3%	46.9%	32.3%
しなかった	91	41	132
	80.5%	27.9%	50.8%
回答者	113	147	260

(3) 「主な避妊の方法」と「今回の妊娠の希望」

今回の妊娠時の避妊の主な避妊の方法について、今回の妊娠を「希望した」と回答した者も、「希望していない」と回答した者も、「コンドーム」と回答した割合が80%弱で最も多く、次に「膣外射精」が20%前後であり、統計的な有意差はなかった。

[図3 主な避妊の方法と今回の妊娠の希望との関連]



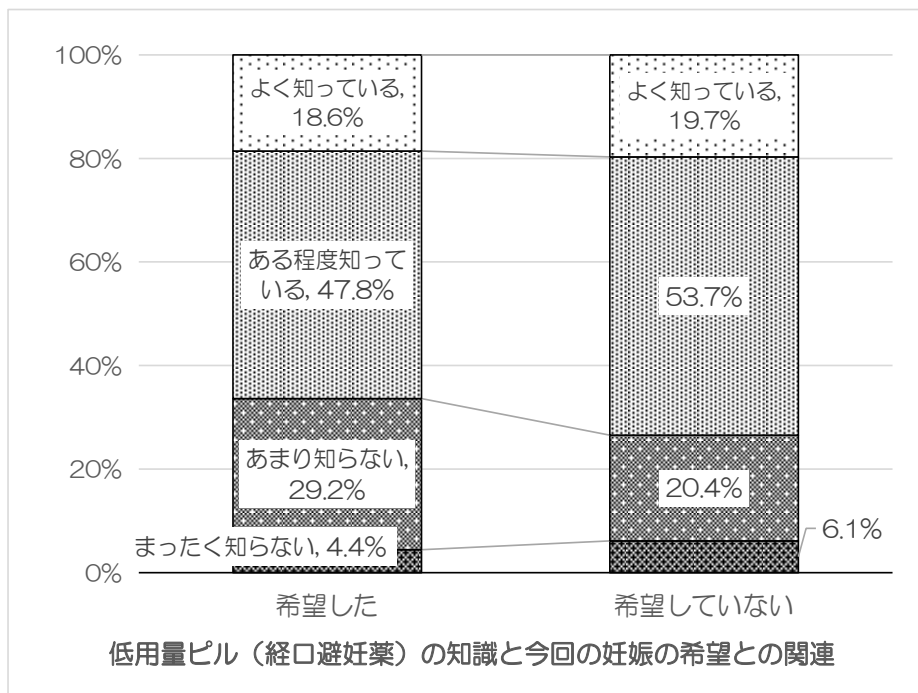
[表3 主な避妊の方法と妊娠の希望との関連]

	妊娠の希望		合計
	希望した	希望していない	
コンドーム	17	84	101
	77.3%	79.2%	78.9%
低用量ピル(経口避妊薬)	0	2	2
	0.0%	1.9%	1.6%
基礎体温法	0	1	1
	0.0%	0.9%	0.8%
膣外射精	5	16	21
	22.7%	15.1%	16.4%
子宮内避妊具	0	2	2
	0.0%	1.9%	1.6%
その他	0	1	1
	0.0%	0.9%	0.8%
回答数	22	106	128

(4) 「低用量ピル(経口避妊薬)の知識」と「今回の妊娠の希望」

低用量ピル(経口避妊薬)の知識について、今回の妊娠を「希望した」と回答した者も、「希望していない」と回答した者も、「ある程度知っている」と回答した割合が半数前後で最も多く、次に「よく知っている」が20%弱であったが、統計的な有意差はなかった。

[図4 低用量ピル(経口避妊薬)の知識と今回の妊娠の希望との関連]



[表4 低用量ピル(経口避妊薬)の知識と今回の妊娠の希望との関連]

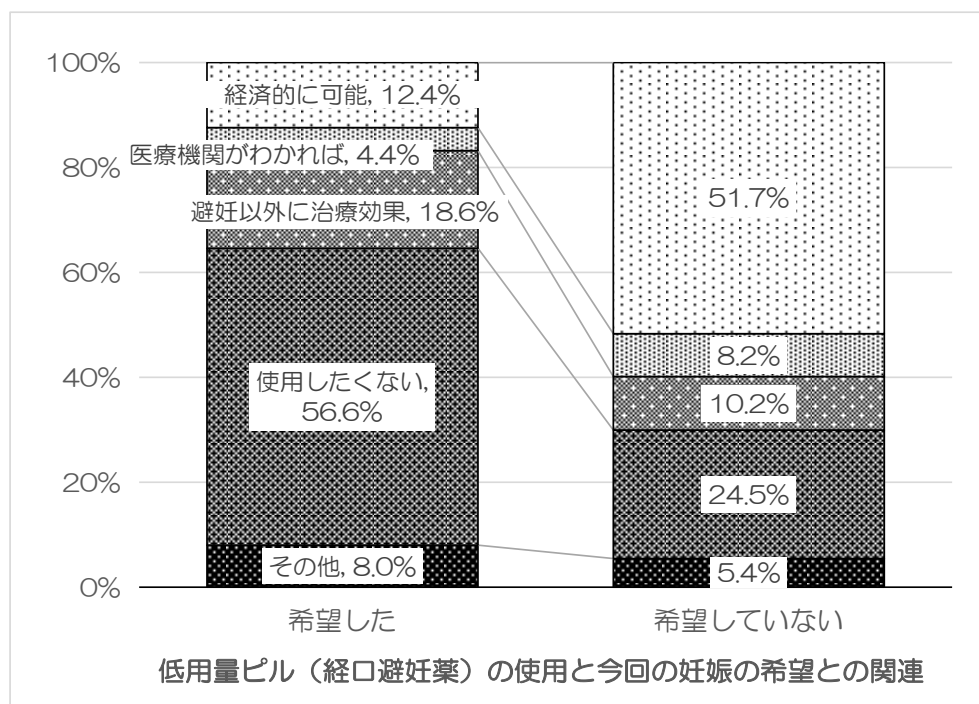
表18-3 低用量ピル(経口避妊薬)の知識と妊娠の希望との関連

	妊娠の希望		合計
	希望した	希望していない	
よく知っている	21 18.6%	29 19.7%	50 19.2%
ある程度知っている	54 47.8%	79 53.7%	133 51.2%
あまり知らない	33 29.2%	30 20.4%	63 24.2%
まったく知らない	5 4.4%	9 6.1%	14 5.4%
回答者	113	147	260

(5) 「低用量ピル(経口避妊薬)の使用」と「今回の妊娠の希望」

低用量ピル(経口避妊薬)の使用について、今回の妊娠を「希望した」と回答した者は、「使用したくない」が56.6%と最も多く、「希望していない」と回答した者は、「経済的に可能であれば使用したい」が51.7%で最も多かった。妊娠を希望していない者の方が使用したいと回答している割合が多かったが、統計的な有意差はなかった。

[図5 低用量ピル(経口避妊薬)の使用と今回の妊娠の希望との関連]



[表5 低用量ピル(経口避妊薬)の使用と今回の妊娠の希望との関連]

	妊娠の希望		合計
	希望した	希望していない	
経済的に可能であれば使用したい	14	76	90
	12.4%	51.7%	34.6%
処方する医療機関がわかれば使用したい	5	12	17
	4.4%	8.2%	6.5%
避妊以外に治療効果(月経不順や子宮内膜症等の治療)もあるので使用したい	21	15	36
	18.6%	10.2%	13.8%
使用したくない	64	36	100
	56.6%	24.5%	38.5%
その他	9	8	17
	8.0%	5.4%	6.5%
回答数	113	147	260

(6) 「妊娠が継続できなかった理由（複数回答）」と「今回の妊娠の希望」

妊娠が継続できなかった理由の「子どもは欲しかったが経済的な理由で産めなかった」と回答した割合では、今回の妊娠を「希望した」と回答した者が 62.5%、「希望していない」と回答した者が 40.9%で最も多かった。

また、「自分は産みたかったが、パートナーが反対した」と回答した割合では、「希望した」と回答した者の方が多く、「望んだ妊娠ではなかった」と「産み育てる自信がなかった」では、「希望しなかった」と回答した物の方が多かったが、統計的な有意差はなかった。

[表 6 妊娠が継続できなかった理由と今回の妊娠の希望との関連]

	今回の妊娠の希望		合計
	希望した	希望していない	
自分は産みたかったがパートナーが反対した	2 25.0%	13 9.5%	15 10.3%
産みたかったが周囲(パートナー以外)の反対が強かった	0 0.0%	11 8.0%	11 7.6%
まだ子どもがほしくなかった	1 12.5%	22 16.1%	23 15.9%
子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった	0 0.0%	24 17.5%	24 16.6%
子どもはほしかったが、経済的な理由で産めなかった	5 62.5%	56 40.9%	61 42.1%
学校をやめたくなかった	0 0.0%	8 5.8%	8 5.5%
仕事をやめたくなかった	1 12.5%	22 16.1%	23 15.9%
産み育てる自信がなかった	1 12.5%	42 30.7%	43 29.7%
望んだ妊娠ではなかった	0 0.0%	44 32.1%	44 30.3%
その他	0 0.0%	10 7.3%	10 6.9%
回答者の数	8	137	145

子どもの希望との関連

令和6年度調査の人工妊娠中絶群において、「子どもの希望」とその他の項目との比較を行った。

(1) 「妊娠が継続できなかった理由（複数回答）」と「子どもの希望」

妊娠が継続できなかった理由の「子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった」と回答した割合では、子どもが「ほしい」と回答した者が11.6%、「ほしくない」と回答した者が26.0%で、「ほしくない」と回答した者の方が多く、統計的な有意差が認められた。（* : $p < 0.05$ ）

また、「子どもは欲しかったが経済的な理由で産めなかった」と回答した割合では、「ほしい」と回答した者が50.5%、「ほしくない」と回答した者が26.0%で、「ほしい」と回答した者の方が多く、統計的な有意差が認められた。（* : $p < 0.05$ ）

「まだ子どもはほしくなかった」と回答した割合は、「ほしくない」と回答した者の方が多く、統計的な有意差はないが、関連の可能性が認められた。（# : $p < 0.1$ ）

[表1 子どもの希望と「妊娠が継続できなかった理由」の関連]

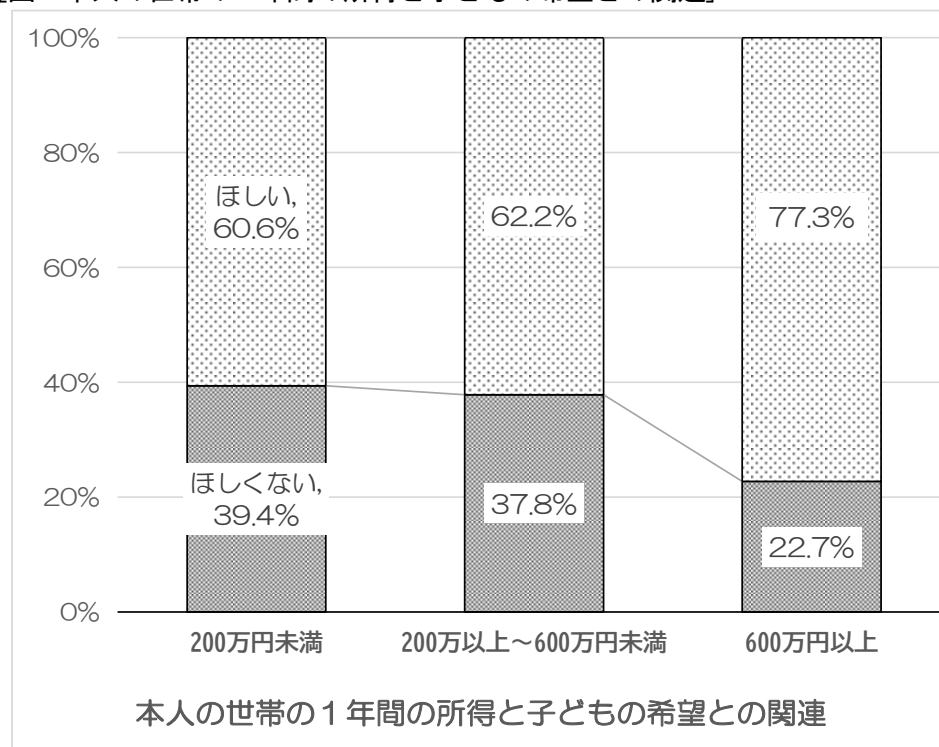
	子どもの希望		合計
	ほしくない	ほしい	
自分は産みたかったがパートナーが反対した	3 6.0%	12 12.6%	15 10.3%
産みたかったが周囲(パートナー以外)の反対が強かった	3 6.0%	8 8.4%	11 7.6%
まだ子どもがほしくなかった	12 24.0%	11 11.6%	23 # 15.9%
子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった	13 26.0%	11 11.6%	24 * 16.6%
子どもはほしかったが、経済的な理由で産めなかった	13 26.0%	48 50.5%	61 * 42.1%
学校をやめたくなかった	3 6.0%	5 5.3%	8 5.5%
仕事をやめたくなかった	8 16.0%	15 15.8%	23 15.9%
産み育てる自信がなかった	15 30.0%	27 28.4%	42 29.0%
望んだ妊娠ではなかった	18 36.0%	26 27.4%	44 30.3%
その他	3 6.0%	7 7.4%	10 6.9%
回答者の数	50	95	145

カイ2乗検定 * : $p < 0.05$ # : $p < 0.1$

(2) 「本人の世帯の1年間の所得」と「子どもの希望」

本人の世帯の1年間の所得が600万円以上で、子どもが「ほしい」と回答した割合は77.3%、「ほしくない」と回答した割合が22.7%で、所得が高いほど「ほしい」と回答した者の割合が多かったが、統計的な有意差はなかった。

[図2 本人の世帯の1年間の所得と子どもの希望との関連]



[表2 子どもの希望と本人の世帯の1年間の所得の関連 (人工妊娠中絶群)]

	200万円未満	200万以上～600万円未満	600万円以上	合計	
子どもの希望	ほしい	20 60.6%	46 62.2%	17 77.3%	83 64.3%
	ほしくない	13 39.4%	28 37.8%	5 22.7%	46 35.7%
合計	33	74	22	129	

妊娠が継続できなかった理由と所得との関連

令和6年度調査の人工妊娠中絶群において、「本人の世帯の1年間の所得」と「妊娠が継続できなかった理由」との比較を行った。

(1) 「本人の世帯の1年間の所得」と「妊娠が継続できなかった理由」

妊娠が継続できなかった理由の「仕事をやめたくなかった」と回答した割合では、本人の世帯の1年間の所得が「600万円以上」と回答した者が27.3%、「200万以上～600万円未満」と回答した者が21.6%、「200万円未満」と回答した者が3.1%で、統計的な有意差が認められた。

(* : $p < 0.05$)

「子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった」と回答した割合では、「600万円以上」と回答した者が27.3%、「200万以上～600万円未満」と回答した者が18.9%、「200万円未満」と回答した者が9.1%で、統計的な有意差が認められた。(* : $p < 0.05$)

「学校をやめたくなかった」と回答した割合は、「200万円未満」と回答した者の方が多く、統計的な有意差はないが、関連の可能性が認められた。(# : $p < 0.1$)

[表1 本人の世帯の1年間の所得と妊娠が継続できなかった理由との関連]

	200万円未満	200万以上～ 600万円未満	600万円以上	合計
自分は産みたかったがパートナーが反対した	5 15.2%	8 10.8%	1 4.5%	14 10.9%
産みたかったが周囲(パートナー以外)の反対が強かった	4 12.1%	6 8.1%	1 4.5%	11 8.5%
まだ子どもがほしくなかった	5 15.2%	13 17.6%	2 9.1%	20 15.5%
子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった	3 9.1%	14 18.9%	6 27.3%	23 17.8% #
子どもはほしかったが、経済的な理由で産めなかった	13 39.4%	33 44.6%	6 27.3%	52 40.3%
学校をやめたくなかった	4 12.1%	0 0.0%	1 4.5%	5 3.9% #
仕事をやめたくなかった	1 3.0%	16 21.6%	6 27.3%	23 17.8% *
産み育てる自信がなかった	8 24.2%	24 32.4%	7 31.8%	39 30.2%
望んだ妊娠ではなかった	8 24.2%	24 32.4%	7 31.8%	39 30.2%
その他	1 3.0%	5 6.8%	3 13.6%	9 7.0%
回答者の数	33	74	22	129

傾向性の検定 * : $p < 0.05$ # : $p < 0.1$

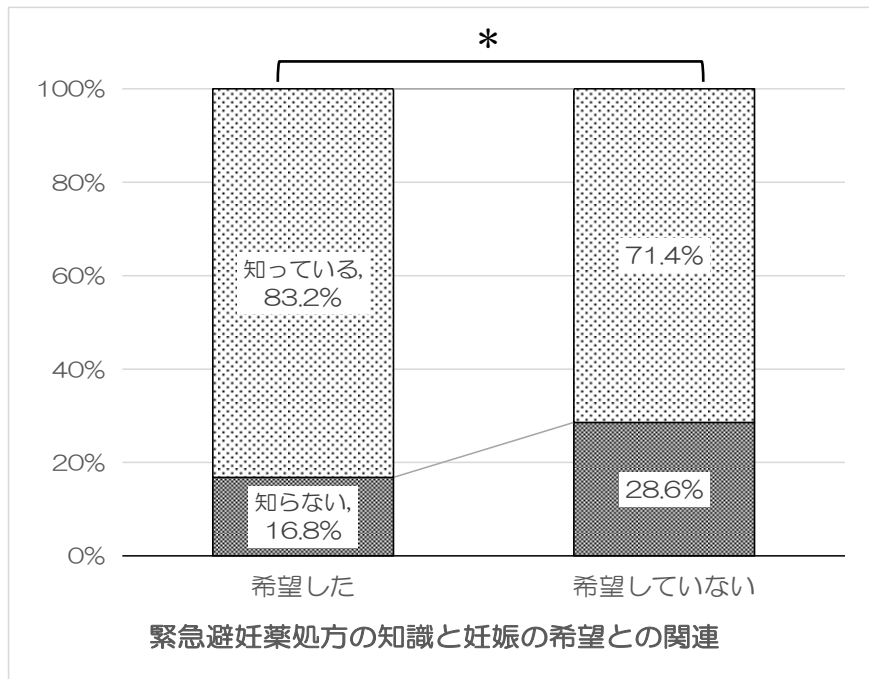
緊急避妊薬との関連

令和6年度調査において、「緊急避妊薬」とその他の項目との比較を行った。

(1) 「緊急避妊薬処方知識」と「今回の妊娠の希望」 (人工妊娠中絶群と妊産婦群)

緊急避妊薬処方知識について、今回の妊娠を「希望した」と回答した者では、「知っている」と回答した割合が83.2%と多く、「希望していない」と回答した者では、「知っている」と回答した割合は71.4%であり、妊娠を希望した者ほど緊急避妊薬処方知識があり、統計的な有意差が認められた。(*:p<0.05)

[図1 緊急避妊薬処方知識と今回の妊娠の希望との関連]



カイ2乗検定 *:p<0.05

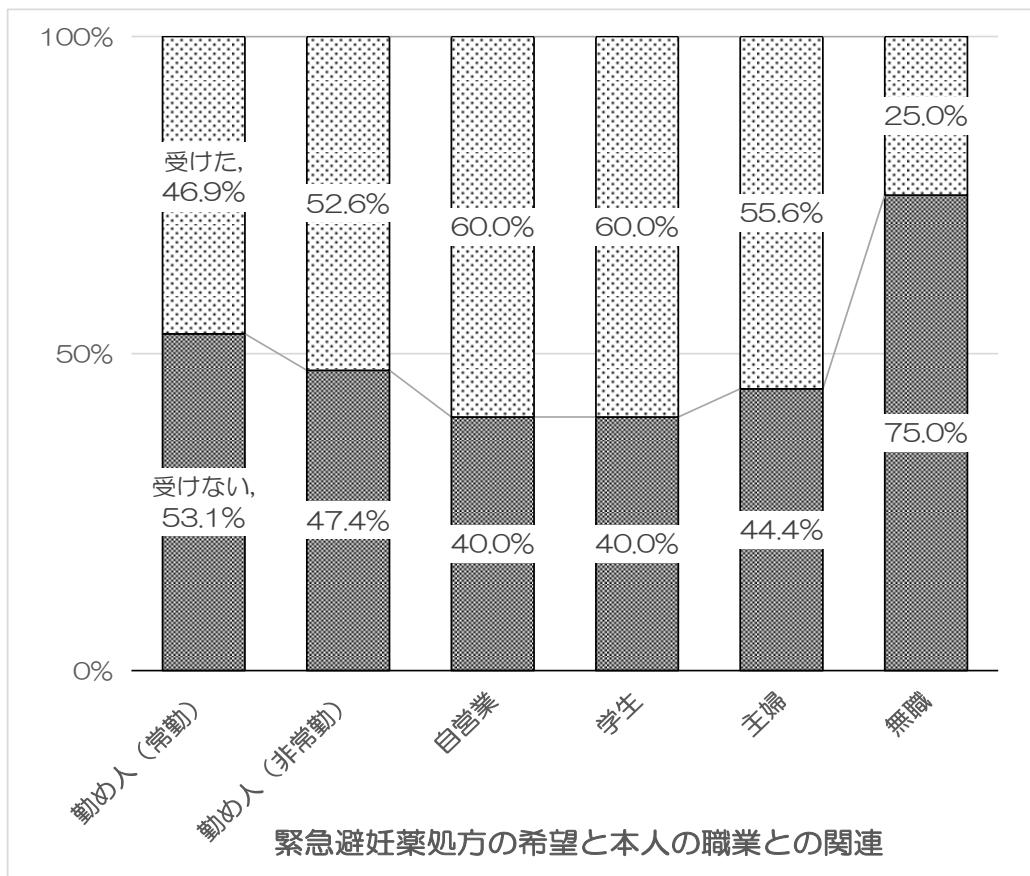
[表1 緊急避妊薬処方知識と妊娠の希望との関連]

	妊娠の希望		合計
	希望した	希望していない	
知っている	94 83.2%	105 71.4%	199 76.5%
知らない	19 16.8%	42 28.6%	61 23.5%
回答者	113	147	260

(2) 「緊急避妊薬処方の希望」と「本人の職業」 (人工妊娠中絶群のみ)

緊急避妊薬処方の希望について、本人の職業が「無職」と回答した者以外は、半数以上が医療機関で緊急避妊薬の処方を「受けた」と回答しており、「無職」の回答は 25.0%であったが、統計的な有意差はなかった。

[図2 緊急避妊薬処方の希望と本人の職業との関連]



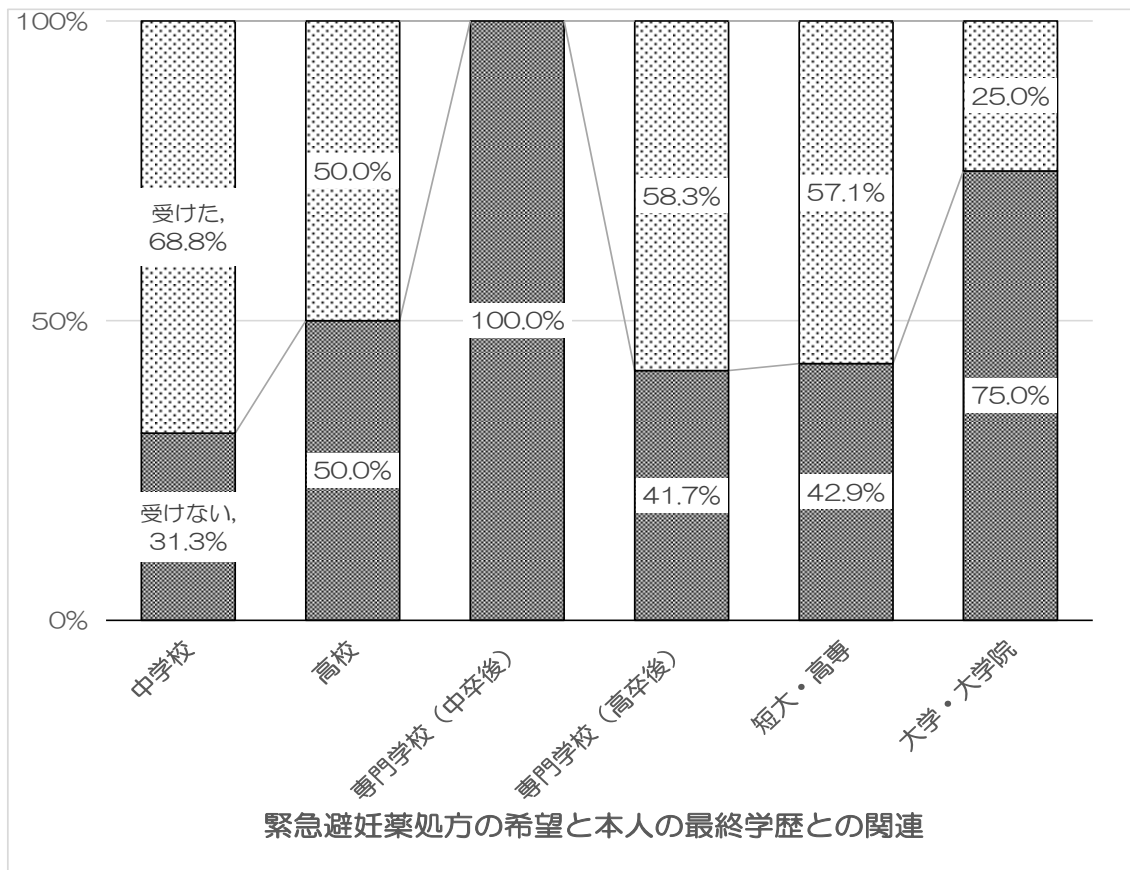
[表2 緊急避妊薬処方の希望と本人の職業との関連]

	勤め人(常勤)	勤め人(非常勤)	自営業	学生	主婦	無職	合計
受けた	30 46.9%	20 52.6%	9 60.0%	9 60.0%	5 55.6%	1 25.0%	74 51.0%
受けない	34 53.1%	18 47.4%	6 40.0%	6 40.0%	4 44.4%	3 75.0%	71 49.0%
回答数	64	38	15	15	9	4	145

(3) 「緊急避妊薬処方の希望」と「本人の最終学歴」 (人工妊娠中絶群のみ)

緊急避妊薬処方の希望について「受けた」と回答した割合は、本人の最終学歴で「中学校」が68.8%と最も多く、次いで「専門学校（高卒後）」「短大・高専」の順に多かったが、統計的な有意差は認められなかった。

[図3 緊急避妊薬処方の希望と本人の最終学歴との関連]



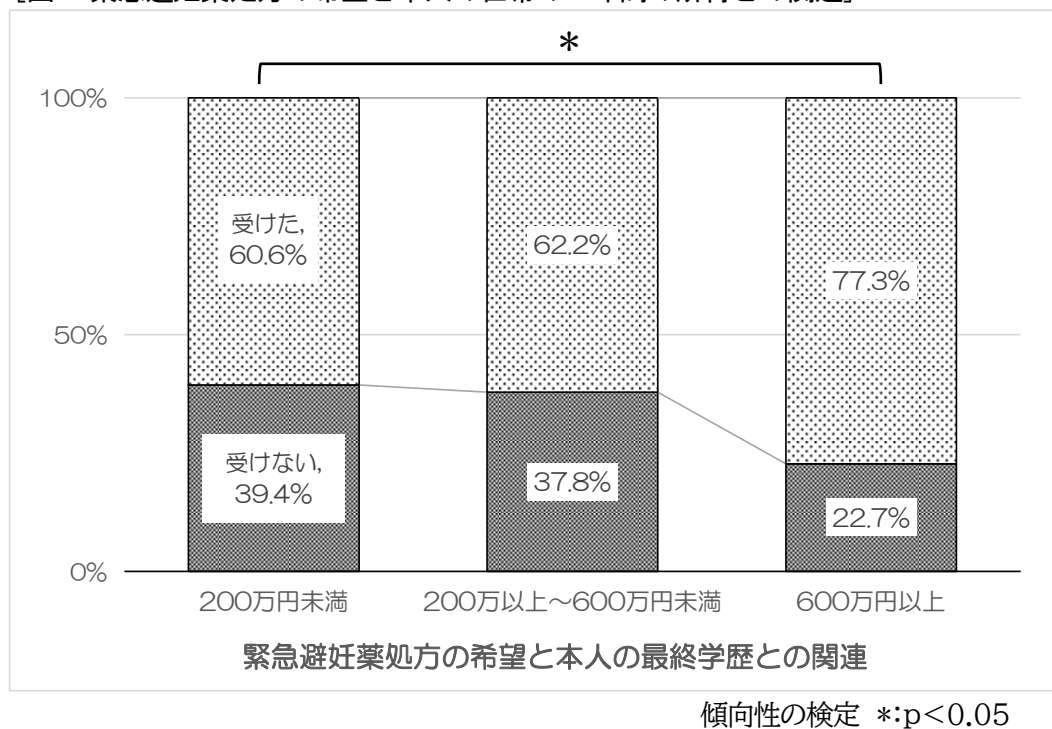
[表3 緊急避妊薬処方の希望と本人の最終学歴との関連 (人工妊娠中絶群)]

	中学校	高校	専門学校(中卒後)	専門学校(高卒後)	短大・高専	大学・大学院	合計
受けた	11 68.8%	37 50.0%	0 0.0%	14 58.3%	8 57.1%	4 25.0%	74 51.0%
受けない	5 31.3%	37 50.0%	1 100.0%	10 41.7%	6 42.9%	12 75.0%	71 49.0%
回答数	16	74	1	24	14	16	145

(4) 「緊急避妊薬処方の希望」と「本人の世帯の1年間の所得」(人工妊娠中絶群のみ)

緊急避妊薬処方の希望について「受けた」と回答した割合は、本人の世帯の1年間の所得で「600万円以上」と回答した割合が77.3%と最も多く、「200万円未満」が60.6%と少なく、緊急避妊薬処方の希望と所得との間に、統計的な有意差が認められた。(*:p<0.05)

[図4 緊急避妊薬処方の希望と本人の世帯の1年間の所得との関連]



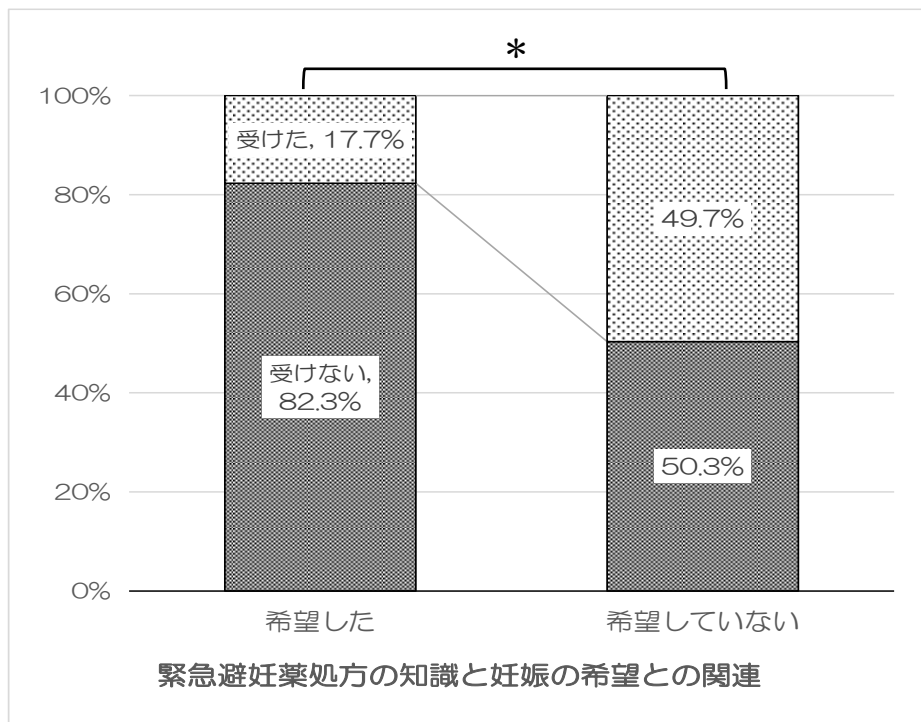
[表4 緊急避妊薬処方の希望と本人の世帯の1年間の所得との関連 (人工妊娠中絶群)]

	200万円未満	200万以上~600万円未満	600万円以上	合計
受けた	20 60.6%	46 62.2%	17 77.3%	83 64.3%
受けない	13 39.4%	28 37.8%	5 22.7%	46 35.7%
合計	33	74	22	129

(5) 「緊急避妊薬処方希望」と「今回の妊娠希望」 (人工妊娠中絶群、妊産婦群)

緊急避妊薬処方希望について「受けた」と回答した割合は、今回の妊娠を「希望した」と回答した割合が 17.7%で、「希望していない」が 49.7%であり、今回の妊娠を希望していない者の半数は緊急避妊薬処方を受けたと回答しており、統計的な有意差が認められた。(* : $p < 0.05$)

[図 5 緊急避妊薬処方の希望と妊娠希望との関連]



カイ2乗検定 *: $p < 0.05$

[表 5 緊急避妊薬処方の希望と妊娠希望との関連]

	妊娠希望		合計
	希望した	希望していない	
受けた	20	73	93
	17.7%	49.7%	35.8%
受けない	93	74	167
	82.3%	50.3%	64.2%
回答者	113	147	260

3 平成 26 年度調査との比較

3 平成 26 年度調査との比較

【12 週未満の人工妊娠中絶群の比較】55

- (1) アンケート調査への協力者の概要
- (2) 人工妊娠中絶の時期
- (3) 今回の妊娠に初めて気づいた理由
- (4) 今回の妊娠に気づいた週数
- (5) 妊娠に気づく時期
- (6) 妊娠に気づくのが遅くなったと思う理由
- (7) 市販の妊娠検査試薬での確認
- (8) 妊娠に気づいてから医療機関受診に1週間以上を要した理由
- (9) 手術の時期が妊娠第12週より早かった理由
- (10) 妊娠・出産について身近に相談できる人
- (11) 今回の妊娠について最初に相談した人
- (12) 公的な専門相談窓口の把握
- (13) パートナーの避妊への協力
- (14) 「今回の妊娠時の避妊」と「妊娠の希望」との関連
- (15) 主な避妊の方法
- (16) 避妊をしなかった理由
- (17) 「避妊をしなかった理由」と「妊娠の希望」との関連
- (18) 低用量ピル(経口避妊薬)の知識
- (19) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要だと思う情報
- (20) 今回の妊娠の希望
- (21) 希望していない妊娠に至った理由
- (22) 妊娠が継続できなかった理由
- (23) 人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識
- (24) 本人の最終学歴
- (25) 本人の世帯の1年間の所得
- (26) パートナーの最終学歴

【人工妊娠中絶群の年齢階層における10年前との比較】77

平成26年度調査の20歳代と令和6年度調査の30歳代の比較77

- (1) 妊娠に気づいてから医療機関受診に1週間以上を要した理由
- (2) 公的な専門相談窓口の把握
- (3) パートナーの避妊への協力
- (4) 今回の妊娠時の避妊
- (5) 主な避妊の方法
- (6) 避妊をしなかった理由
- (7) 低用量ピル(経口避妊薬)の知識

- (8) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要だと思う情報
- (9) 今回の妊娠の希望
- (10) 希望していない妊娠に至った理由
- (11) 妊娠が継続できなかった理由

平成 26 年度調査の 30 歳代と令和 6 年度調査の 40 歳代の比較86

- (1) 妊娠に気づいてから医療機関受診に 1 週間以上を要した理由
- (2) 公的な専門相談窓口の把握
- (3) パートナーの避妊への協力
- (4) 今回の妊娠時の避妊
- (5) 主な避妊の方法
- (6) 避妊をしなかった理由
- (7) 低用量ピル(経口避妊薬)の知識
- (8) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要だと思う情報
- (9) 今回の妊娠の希望
- (10) 希望していない妊娠に至った理由
- (11) 妊娠が継続できなかった理由

12 週未満の人工妊娠中絶群の比較

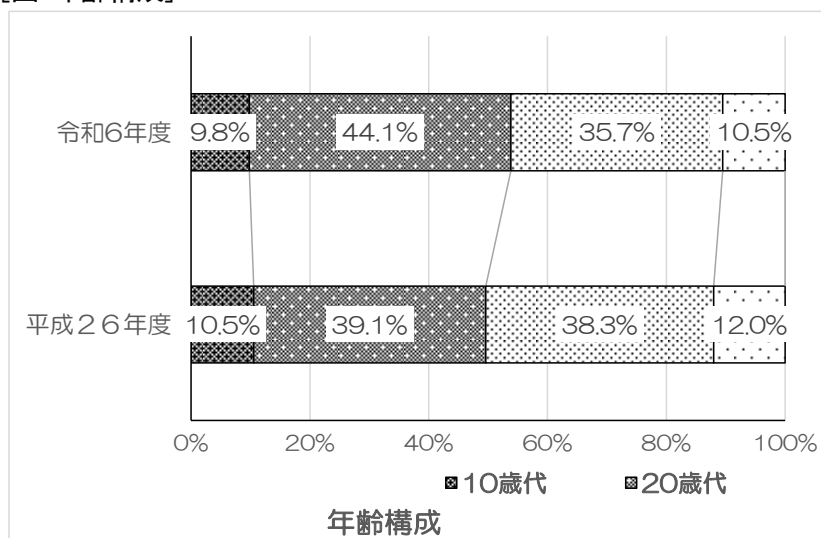
令和 6 年度調査と平成 26 年度調査との比較では、調査回答者のうち妊娠 12 週未満の人工妊娠中絶者に絞って比較を行った。

(1) アンケート調査への協力者の概要（人工妊娠中絶：妊娠 12 週未満）

令和 6 年調査と平成 26 年度調査の協力者において、令和 6 年度の総数は平成 26 年度に比べて 10 人多いが、婚姻（既婚・未婚）の割合に変化はなかった。また、年代別では、令和 6 年度は 20 歳代の割合が平成 26 年度調査に比べて多かった。

	総数	婚姻	
		既婚	未婚
令和6年度	143人	68人	75人
平成26年度	133人	70人	63人

[図 年齢構成]



[表 年齢構成]

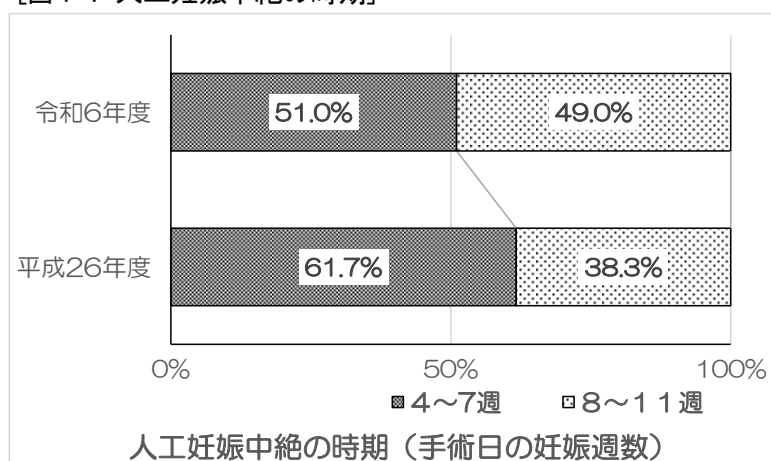
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
令和6年度	14	63	51	15	143
	9.8%	44.1%	35.7%	10.5%	
平成26年度	14	52	51	16	133
	10.5%	39.1%	38.3%	12.0%	

(2) 人工妊娠中絶の時期（手術日の妊娠週数）

令和6年度調査は、人工妊娠中絶の時期で「4～7週」の割合が51.0%であり、平成26年度調査と比べて減少していた。

年代別では、20歳代以外の年代で、人工妊娠中絶の時期で「4～7週」の割合が、令和6年度調査は平成26年度調査に比べて減少しており、特に10歳代は他の年代と比べて、妊娠4～7週の割合が28.6%と割合が少なかった。

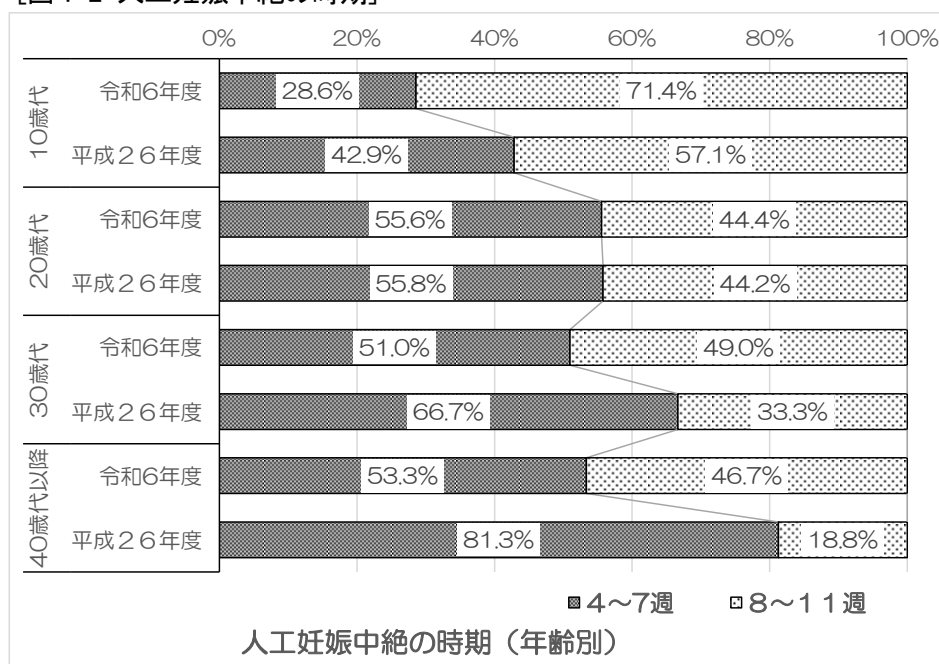
[図 1-1 人工妊娠中絶の時期]



[表 1-1 人工妊娠中絶の時期]

	4～7週	8～11週	合計
令和6年度	73	70	143
	51.0%	49.0%	
平成26年度	82	51	133
	61.7%	38.3%	

[図 1-2 人工妊娠中絶の時期]



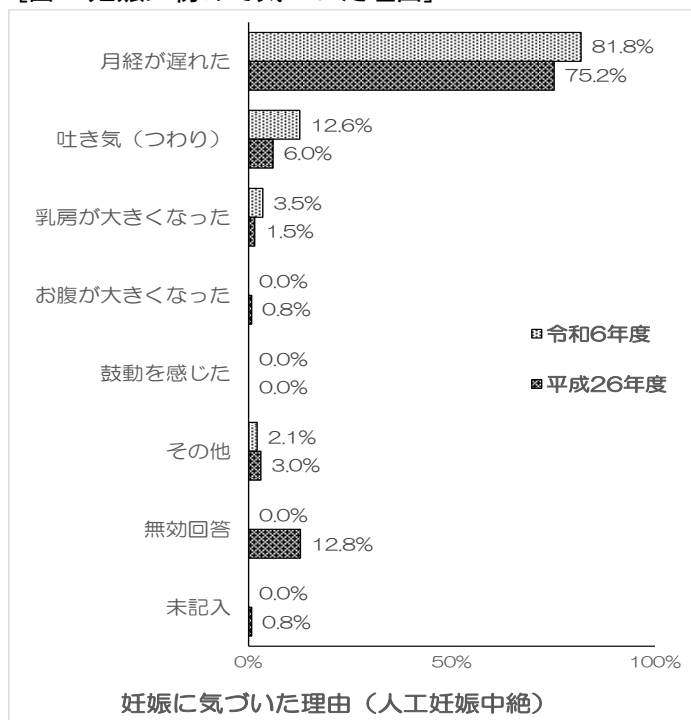
[表 1-2 人工妊娠中絶の時期]

		4～7週	8～11週	合計
10歳代	令和6年度	4 28.6%	10 71.4%	14
	平成26年度	6 42.9%	8 57.1%	14
20歳代	令和6年度	35 55.6%	28 44.4%	63
	平成26年度	29 55.8%	23 44.2%	52
30歳代	令和6年度	26 51.0%	25 49.0%	51
	平成26年度	34 66.7%	17 33.3%	51
40歳代以降	令和6年度	8 53.3%	7 46.7%	15
	平成26年度	13 81.3%	3 18.8%	16
合計	令和6年度	73 51.0%	70 49.0%	143
	平成26年度	82 61.7%	51 38.3%	133

(3) 今回の妊娠に初めて気づいた理由

妊娠に気づいた理由について、令和6年調査では平成26年度調査と比べて、「月経が遅れた」「吐き気(つわり)」と回答した割合が多かった。

[図 3 妊娠に初めて気づいた理由]



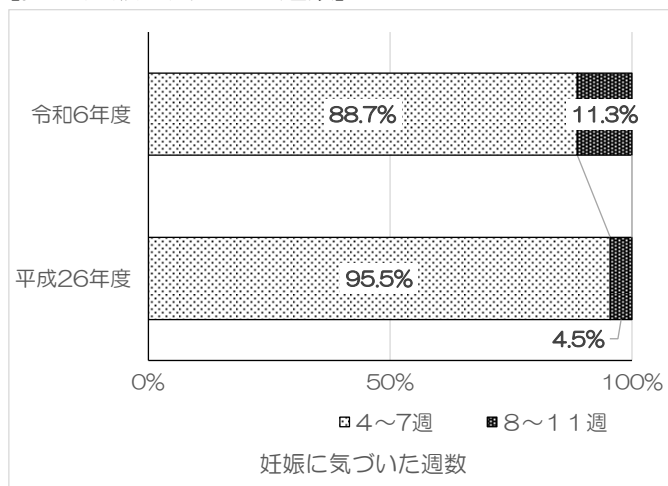
[表 3 妊娠に初めて気づいた理由]

	令和6年度	平成26年度
月経が遅れた	117 81.8%	100 75.2%
吐き気(つわり)	18 12.6%	8 6.0%
乳房が大きくなった	5 3.5%	2 1.5%
お腹が大きくなった	0 0.0%	1 0.8%
鼓動を感じた	0 0.0%	0 0.0%
その他	3 2.1%	4 3.0%
無効回答	0 0.0%	17 12.8%
未記入	0 0.0%	1 0.8%
合計	143	133

(4) 今回の妊娠に気づいた週数

今回の妊娠に気づいた週数について、令和6年度調査及び平成26年度調査ともに「4～7週」と回答した割合が9割前後であったが、令和6年度調査では平成26年度調査と比べて減少していた。

[図4 妊娠に気づいた週数]



[表4 妊娠に気づいた週数]

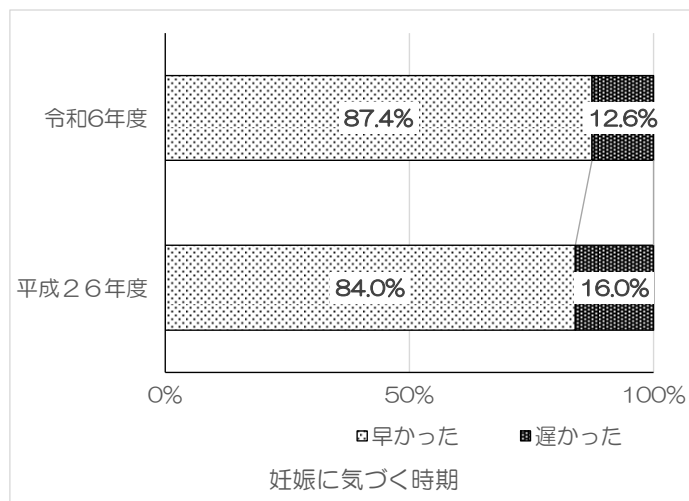
	4～7週	8～11週	合計
令和6年度	128	6	134
	95.5%	4.5%	
平成26年度	94	12	106
	88.7%	11.3%	

※無回答、未記入、4週未満の回答を除く

(5) 妊娠に気づく時期

今回の妊娠に気づく時期について、「早かった」と回答した割合は、令和6年度調査が87.4%で、平成26年度調査と比べて増加していた。

[図5 妊娠に気づく時期]



[表5 妊娠に気づく時期]

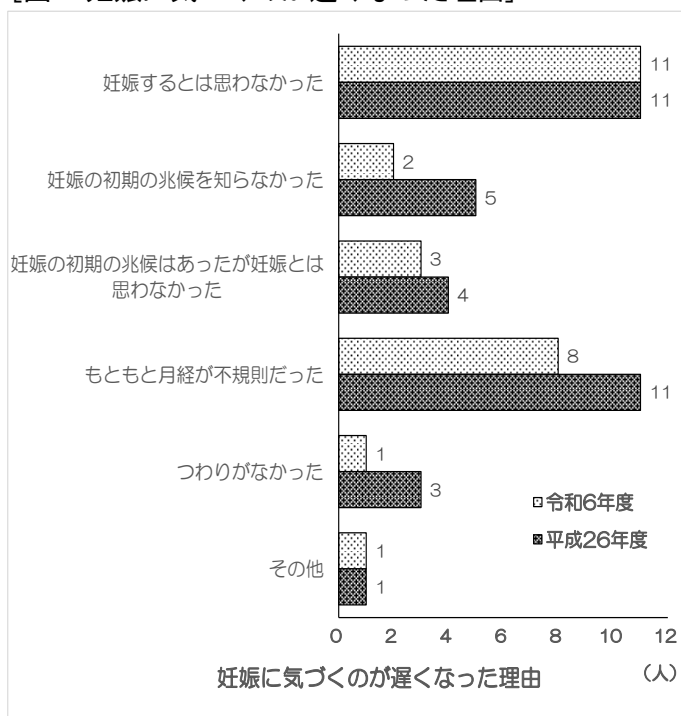
	早かった	遅かった	合計
令和6年度	125	18	143
	87.4%	12.6%	
平成26年度	110	21	131
	84.0%	16.0%	

※無回答、未記入を除く

(6) 妊娠に気づくのが遅くなったと思う理由（「遅かった」と回答した方）（複数回答）

妊娠に気づくのが遅くなった理由について、令和6年度調査及び平成26年度調査ともに「妊娠するとは思わなかった」「もともと月経が不規則だった」と回答した者が上位を占めていた。

[図6 妊娠に気づくのが遅くなった理由]



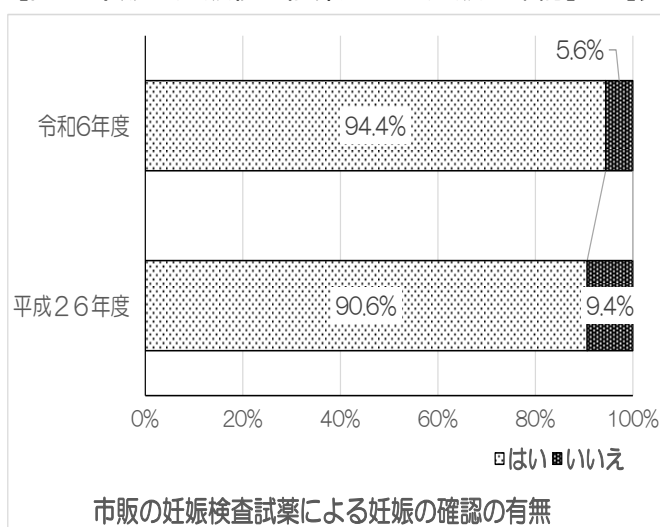
[表6 妊娠に気づくのが遅くなった理由]

	令和6年度	平成26年度
妊娠するとは思わなかった	11 57.9%	11 52.4%
妊娠の初期の兆候を知らなかった	2 10.5%	5 23.8%
妊娠の初期の兆候はあったが妊娠とは思わなかった	3 15.8%	4 19.0%
もともと月経が不規則だった	8 42.1%	11 52.4%
つわりがなかった	1 5.3%	3 14.3%
その他	1 5.3%	1 4.8%
対象者	19	21

(7) 市販の妊娠検査試薬での確認

市販の妊娠検査試薬で妊娠の確認をした割合では、令和6年度調査は平成26年度調査に比べて増加していた。

[図7 市販の妊娠検査試薬による妊娠の確認]



[表7 市販の妊娠検査試薬による妊娠の確認]

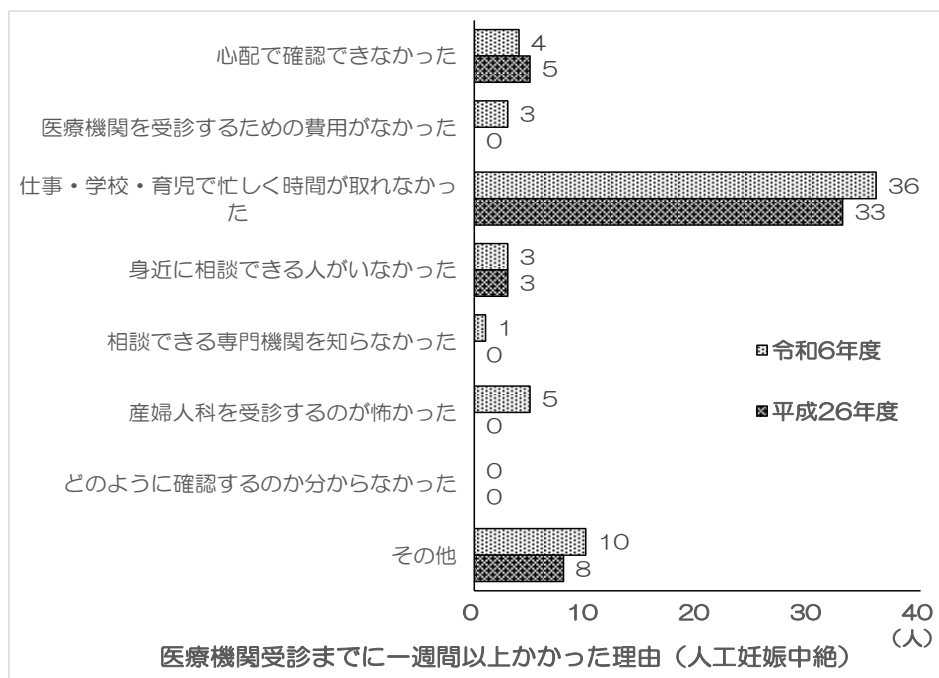
	はい	いいえ	合計
令和6年度	135 94.4%	8 5.6%	143
平成26年度	116 90.6%	12 9.4%	128

※無回答、未記入を除く

(8) 妊娠に気づいてから医療機関受診に1週間以上を要した理由（複数回答）
 （医療機関受診に1週間以上を要した方のみ回答）

医療機関受診までに一週間以上かかった理由について、令和6年度調査及び平成26年度調査ともに「仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった」と回答した者が最も多かった。

[図8 医療機関受診までに一週間以上かかった理由]



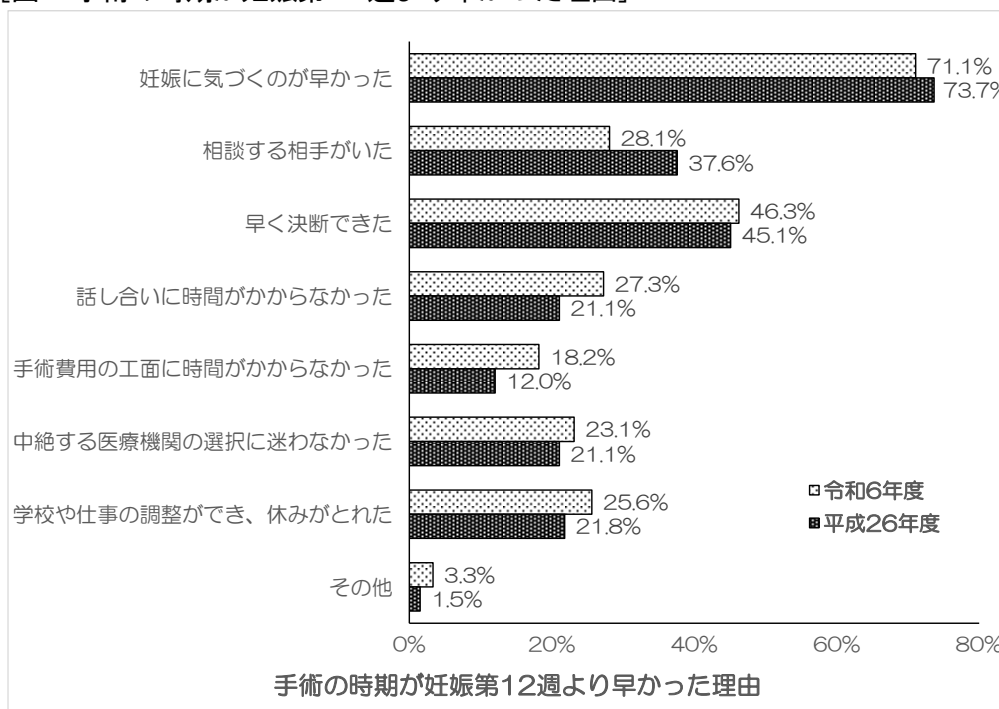
[表8 医療機関受診までに一週間以上かかった理由]

	令和6年度	平成26年度
心配で確認できなかった	4 7.4%	5 6.7%
医療機関を受診するための費用がなかった	3 5.6%	-
仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった	36 66.7%	33 44.0%
身近に相談できる人がいなかった	3 5.6%	3 4.0%
相談できる専門機関を知らなかった	1 1.9%	0 0.0%
産婦人科を受診するのが怖かった	5 9.3%	-
どのように確認するのか分からなかった	-	0 0.0%
その他	10 18.5%	8 10.7%
対象者	54	75

(9) 手術の時期が妊娠第12週より早かった理由（複数回答）

手術の時期が妊娠第12週より早かった理由について、令和6年度調査及び平成26年度調査ともに「妊娠に気づくのが早かった」と回答した者が最も多く、次に「早く決断できた」であった。

[図9 手術の時期が妊娠第12週より早かった理由]



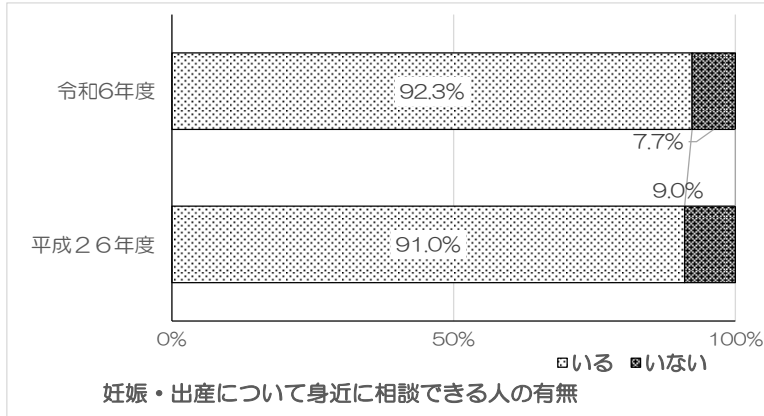
[表9 手術の時期が妊娠第12週より早かった理由]

	令和6年度	平成26年度
妊娠に気づくのが早かった	86 71.1%	98 73.7%
相談する相手があった	34 28.1%	50 37.6%
早く決断できた	56 46.3%	60 45.1%
話し合いに時間がかからなかった	33 27.3%	28 21.1%
手術費用の工面に時間がかからなかった	22 18.2%	16 12.0%
中絶する医療機関の選択に迷わなかった	28 23.1%	28 21.1%
学校や仕事の調整ができ、休みがとれた	31 25.6%	29 21.8%
その他	4 3.3%	2 1.5%
対象者	121	133

(10) 妊娠・出産について身近に相談できる人

妊娠・出産について身近に相談できる人について、令和6年度調査及び平成26年度調査ともに「いる」と回答した割合が9割強であった。「いない」と回答した割合が1割弱であった。

[図10 妊娠・出産について身近に相談できる人の有無]



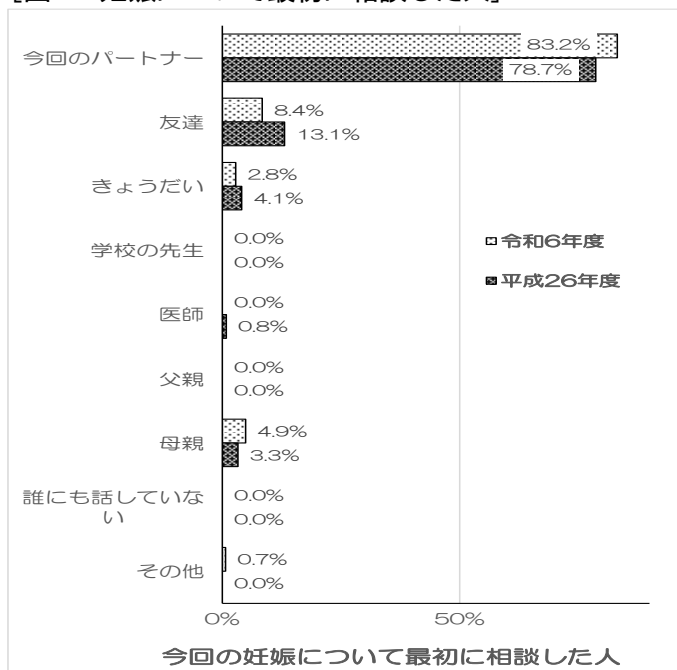
[表10 妊娠・出産について身近に相談できる人の有無]

	いる	いない	合計
令和6年度	132	11	143
	92.3%	7.7%	
平成26年度	121	12	133
	91.0%	9.0%	

(11) 今回の妊娠について最初に相談した人

今回の妊娠について最初に相談した人は、令和6年度調査及び平成26年度調査ともに、「今回のパートナー」と回答した割合が最も多かった。また、令和6年度調査の方が「友達」「きょうだい」と回答した割合が少なかった。

[図11 妊娠について最初に相談した人]



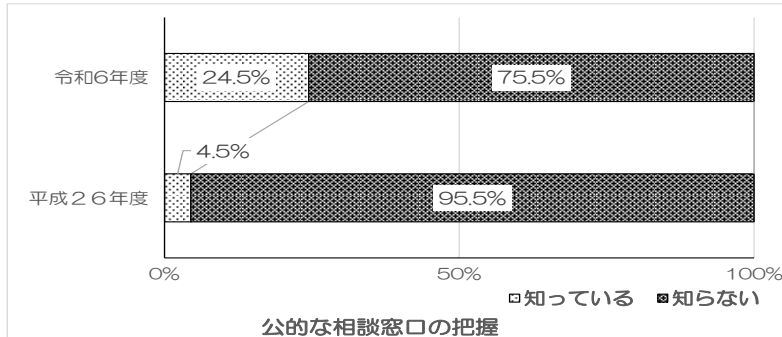
[表11 妊娠について最初に相談した人]

	令和6年度	平成26年度
今回のパートナ	119	94
	83.2%	78.3%
友達	12	16
	8.4%	13.3%
きょうだい	4	5
	2.8%	4.2%
学校の先生	0	0
	0.0%	0.0%
医師	0	1
	0.0%	0.8%
父親	0	0
	0.0%	0.0%
母親	7	4
	4.9%	3.3%
誰にも話してい	0	0
ない	0.0%	0.0%
その他	1	0
	0.7%	0.0%
対象者	143	120

(12) 公的な専門相談窓口の把握

公的な専門相談窓口の把握について、令和6年度調査は「知っている」と回答している割合が24.5%で、平成26年度調査に比べて増加していた。

[図12 公的な専門相談窓口の把握]



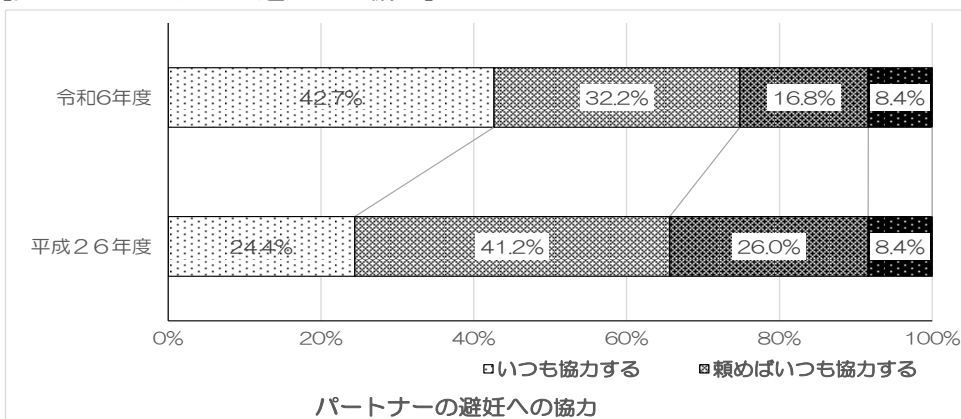
[表12 公的な専門相談窓口の把握]

	知っている	知らない	合計
令和6年度	35 24.5%	108 75.5%	143
平成26年度	6 4.5%	127 95.5%	133

(13) パートナーの避妊への協力

パートナーの避妊への協力について、令和6年度調査は「いつも協力する」と回答している割合が42.7%で、平成26年度調査に比べて2倍弱増加していた。また、「いつも協力する」「頼めば協力する」と回答した割合は、令和6年度調査では74.6%で平成26年度調査65.6%に比べてやや増加した。

[図13 パートナーの避妊への協力]



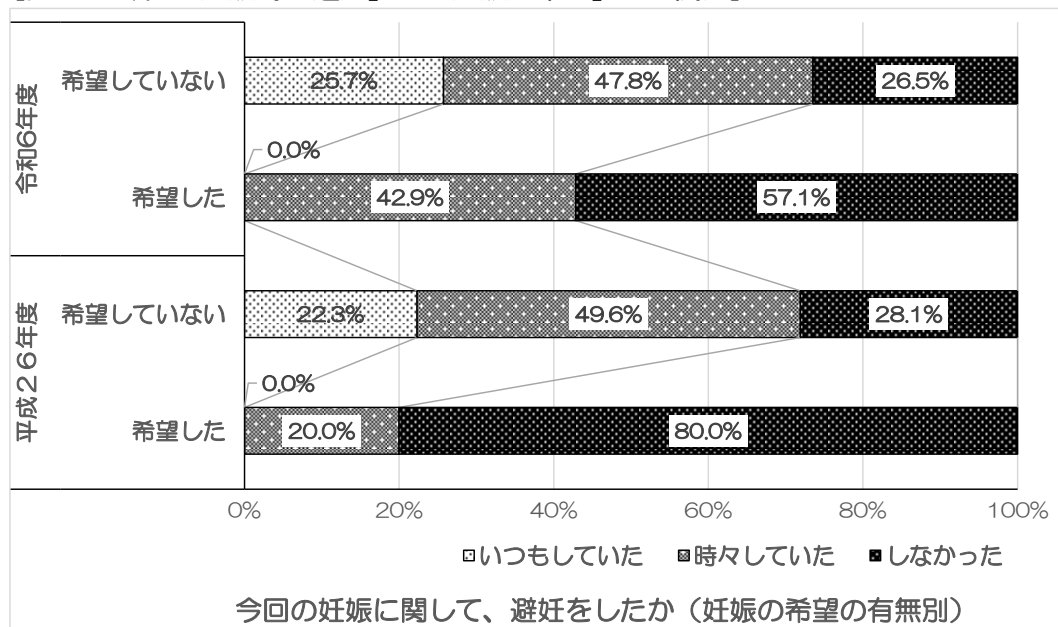
[表13 パートナーの避妊への協力]

	いつも協力する	頼めばいつも協力する	頼めば時々協力する	全く協力しない	合計
令和6年度	61 42.7%	46 32.2%	24 16.8%	12 8.4%	143
平成26年度	32 24.4%	54 41.2%	34 26.0%	11 8.4%	131

(14) 「今回の妊娠時の避妊」と「今回の妊娠の希望」との関連

今回の妊娠時の避妊について、今回の妊娠を「希望していない」と回答した者で、「いつもしていた」と回答した割合は、令和6年度調査では25.7%で、平成26年度調査に比べて増加していた。

[図14 「今回の妊娠時の避妊」と「妊娠の希望」との関連]



[表14 「今回の妊娠に関する避妊」と「妊娠の希望」との関連]

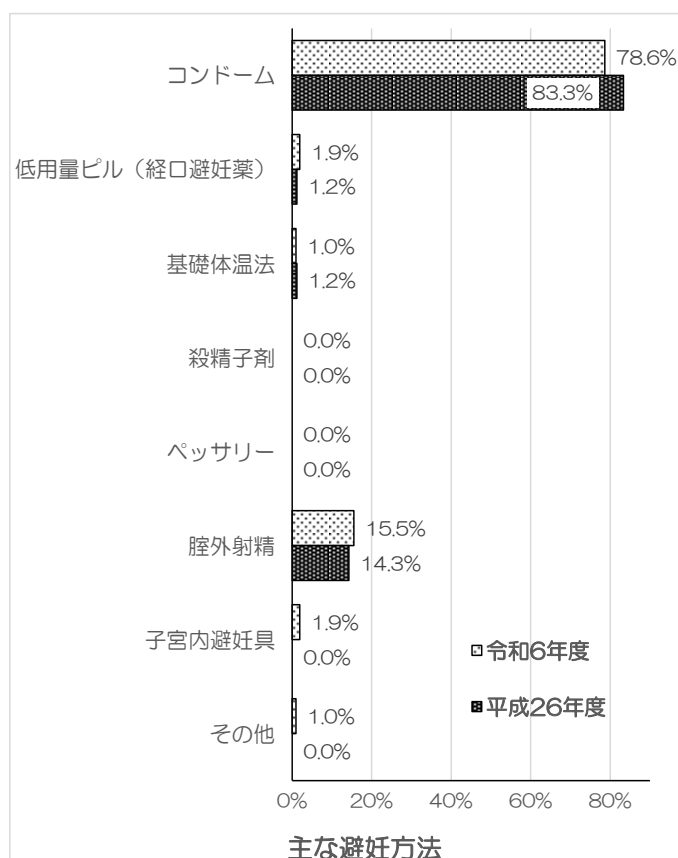
	妊娠の希望	いつもしていた	時々していた	しなかった	合計
令和6年度	希望した	0	3	4	7
		0.0%	42.9%	57.1%	
	希望していない	35	65	36	136
		25.7%	47.8%	26.5%	
平成26年度	希望した	0	2	8	10
		0.0%	20.0%	80.0%	
	希望していない	27	60	34	121
		22.3%	49.6%	28.1%	

(15) 主な避妊の方法（問 16 で「いつもしていた」「時々していた」と回答した方）

主な避妊の方法について、令和 6 年度調査及び平成 26 年度調査ともに、「コンドーム」と回答した割合が最も多く、避妊方法はコンドームがほとんどを占めた。

また、「膣外射精」と回答した割合は、令和 6 年度調査の方が若干増加し、低用量ピル（経口避妊薬）の回答割合は、平成 26 年度調査 1.2%から令和 6 年度調査 1.9%であった。

[図 15 主な避妊の方法]



[表 15 主な避妊の方法]

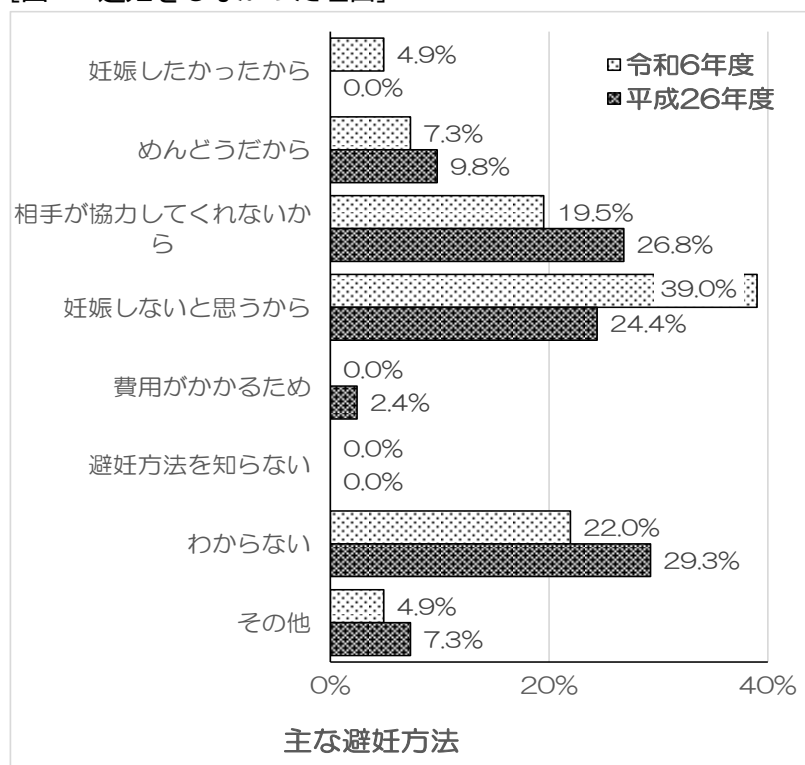
	令和6年度	平成26年度
コンドーム	81	70
	78.6%	83.3%
低用量ピル(経口避妊薬)	2	1
	1.9%	1.2%
基礎体温法	1	1
	1.0%	1.2%
殺精子剤	0	0
	0.0%	0.0%
バツサリー	0	0
	0.0%	0.0%
膣外射精	16	12
	15.5%	14.3%
子宮内避妊具	2	0
	1.9%	0.0%
その他	1	0
	1.0%	0.0%
合計	103	84

(16) 避妊をしなかった理由（問 16 で「しなかった」と回答した方）

避妊をしなかった理由について、令和 6 年度調査では「妊娠しないと思うから」が 39.0%で、平成 26 年度調査 24.4%に比べて増加した。平成 6 年度調査で「妊娠したかったから」と回答した割合が 4.9%であったが、平成 26 年度調査では 0%であった。

また、「相手が協力してくれないから」が、令和 6 年度調査 19.5%で、平成 26 年度調査 26.8%に比べて減少した。

[図 16 避妊をしなかった理由]



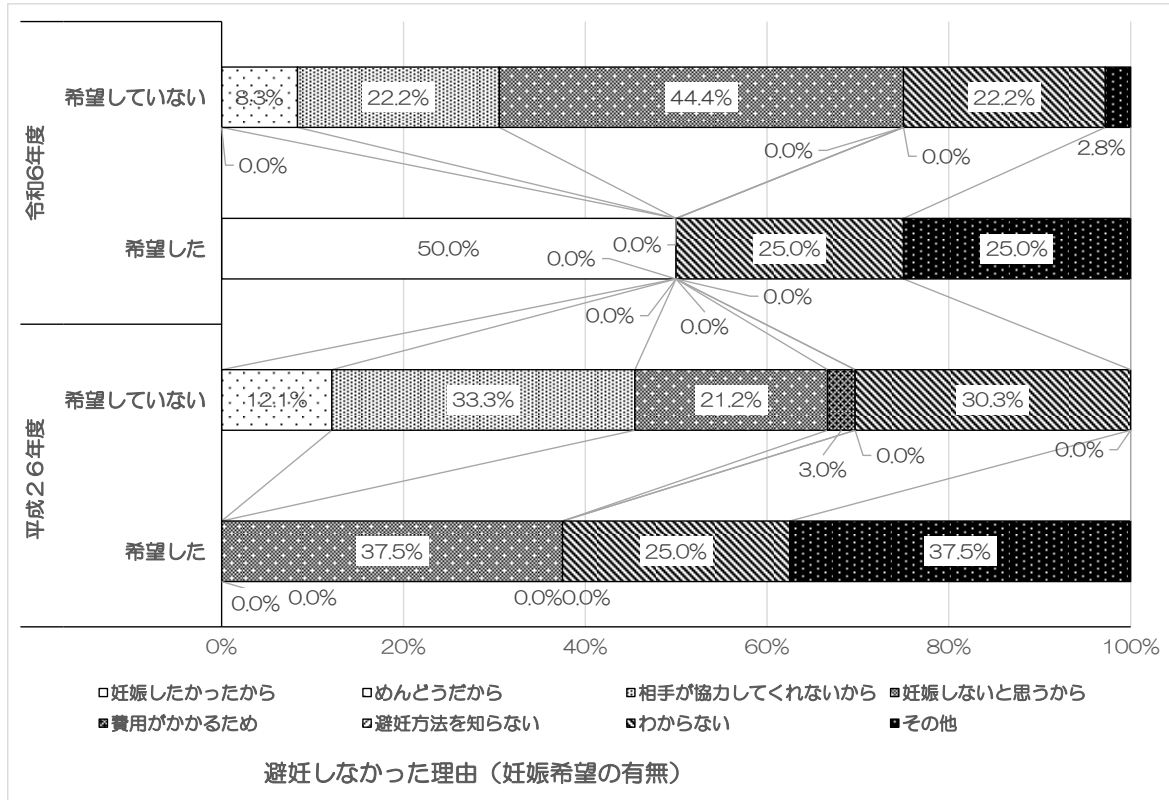
[表 16 避妊をしなかった理由]

	令和6年度	平成26年度
妊娠したかったから	2 4.9%	- -
めんどうだから	3 7.3%	4 9.8%
相手が協力してくれないから	8 19.5%	11 26.8%
妊娠しないと思うから	16 39.0%	10 24.4%
費用がかかるため	0 0.0%	1 2.4%
避妊方法を知らない	0 0.0%	0 0.0%
わからない	9 22.0%	12 29.3%
その他	2 4.9%	3 7.3%
合計	41	41

(17) 「避妊をしなかった理由」と「妊娠の希望」との関係

今回の妊娠について妊娠を希望していない者のうち、避妊しなかった理由について、平成26年調査では「相手が協力してくれないから」と回答した割合が33.3%と最も多かったが、令和6年調査では「妊娠しないと思うから」と回答した割合が44.4%と最も多かった。

[図17 「避妊をしなかった理由」と「妊娠の希望」との関係]



[表17 「避妊をしなかった理由」と「妊娠の希望」との関係]

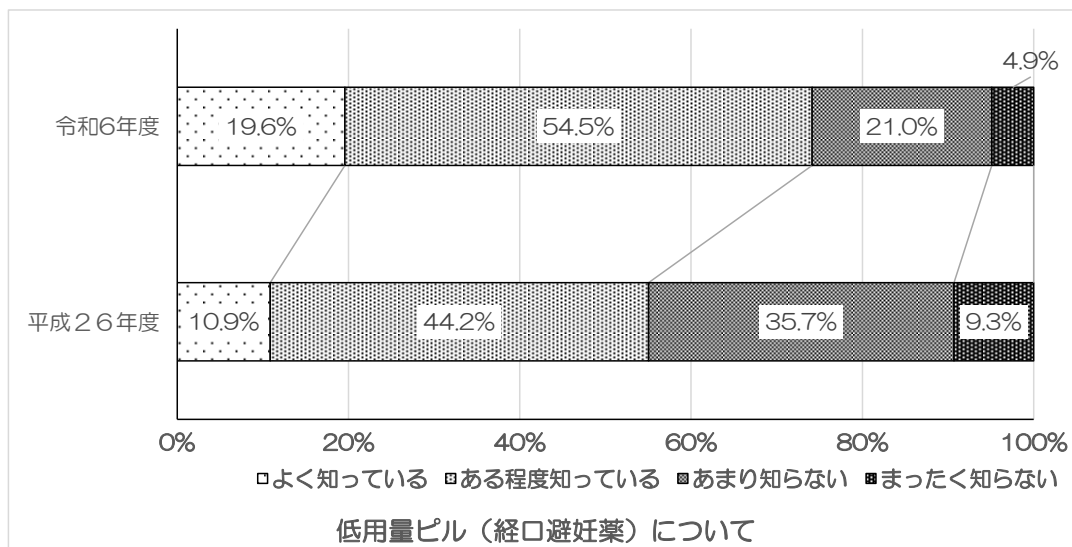
調査年度	妊娠の希望	妊娠したかったから	めんどろだから	相手が協力してくれないから	妊娠しないと思うから	費用がかかるため	避妊方法を知らない	わからない	その他	回答者
令和6年	希望した	2	0	0	0	0	0	1	1	4
	希望していない	0	3	8	16	0	0	8	1	36
平成26年	希望した	-	0	0	3	0	0	2	3	8
	希望していない	-	4	11	7	1	0	10	0	33

(18) 低用量ピル(経口避妊薬)の知識

低用量ピル(経口避妊薬)の知識について、令和6年度調査では「よく知っている」と回答した割合が19.6%で、平成26年度調査に比べて多く、統計学的な有意差が認められた(*:p<0.05)。

また、「よく知っている」と「ある程度知っている」を併せた割合は、平成6年度調査の方が平成26年度調査に比べて増加していた。

[図18 低用量ピル(経口避妊薬)の知識]



[表18 低用量ピル(経口避妊薬)の知識]

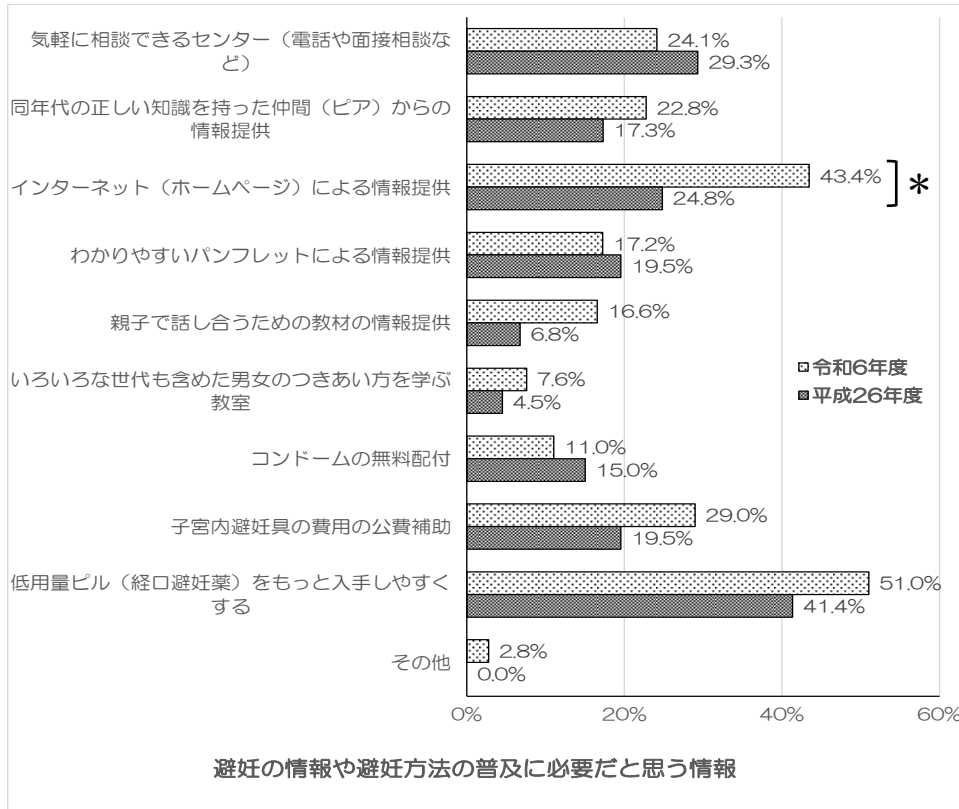
	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない	合計
令和6年度	28 19.6%	78 54.5%	30 21.0%	7 4.9%	143
平成26年	14 10.9%	57 44.2%	46 35.7%	12 9.3%	129

カイ2乗の検定 *:p<0.05

(19) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なだと思う情報

避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報について、令和6年度調査では「低用量ピル（経口避妊薬）をもっと入手しやすくする」、「インターネット（ホームページ）による情報提供」、「子宮内避妊具の費用の公費補助」の順で回答割合が多く、平成26年度調査に比べて増加していた。

[図19 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報]



カイ2乗の検定 * : p < 0.001

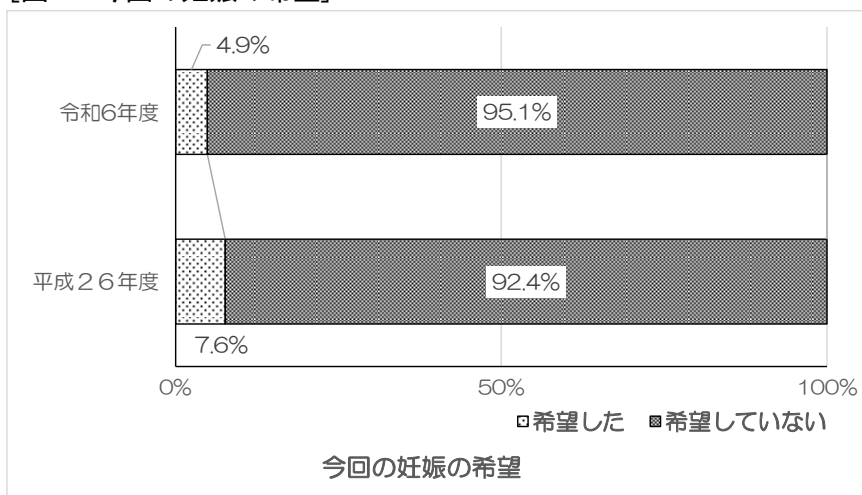
[表19 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報]

	令和6年度	平成26年度
気軽に相談できるセンター（電話や面接相談など）	35 24.1%	39 29.3%
同年代の正しい知識を持った仲間（ピア）からの情報提供	33 22.8%	23 17.3%
インターネット（ホームページ）による情報提供	63 43.4%	33 24.8%
わかりやすいパンフレットによる情報提供	25 17.2%	26 19.5%
親子で話し合うための教材の情報提供	24 16.6%	9 6.8%
いろいろな世代も含めた男女のつきあい方を学ぶ教室	11 7.6%	6 4.5%
コンドームの無料配付	16 11.0%	20 15.0%
子宮内避妊具の費用の公費補助	41 28.3%	26 19.5%
低用量ピル（経口避妊薬）をもっと入手しやすくする	73 50.3%	55 41.4%
その他	4 2.8%	0 0.0%
回答者の数	145	133

(20) 今回の妊娠の希望

今回の妊娠の希望について、令和6年度調査では「希望していない」と回答した割合が95.1%で、平成26年度調査に比べて増加していた。

[図 20 今回の妊娠の希望]



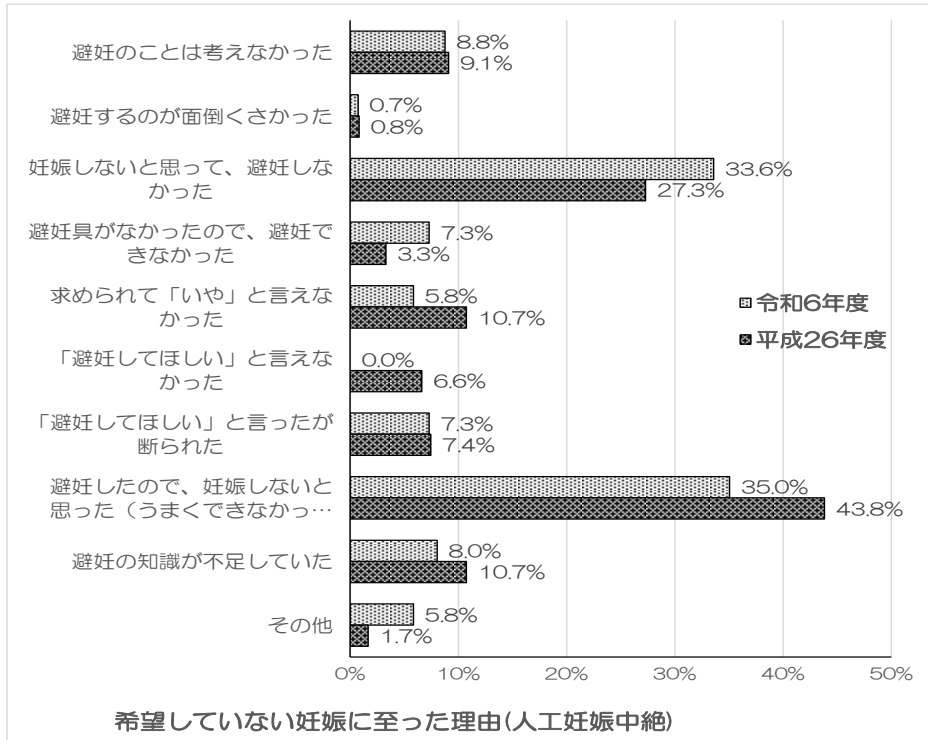
[表 20 今回の妊娠の希望]

	希望した	希望していない	合計
令和6年度	7	136	143
	4.9%	95.1%	
平成26年度	10	121	131
	7.6%	92.4%	

(21) 希望していない妊娠に至った理由

希望していない妊娠に至った理由について、令和6年度調査では「妊娠しないと思って避妊しなかった」と回答した割合が33.6%で、平成26年度調査に比べて多かったが、「避妊したので妊娠しないと思った」と回答した令和6年度調査の割合は、平成26年度調査に比べて減少していた。

[図21 希望していない妊娠に至った理由]



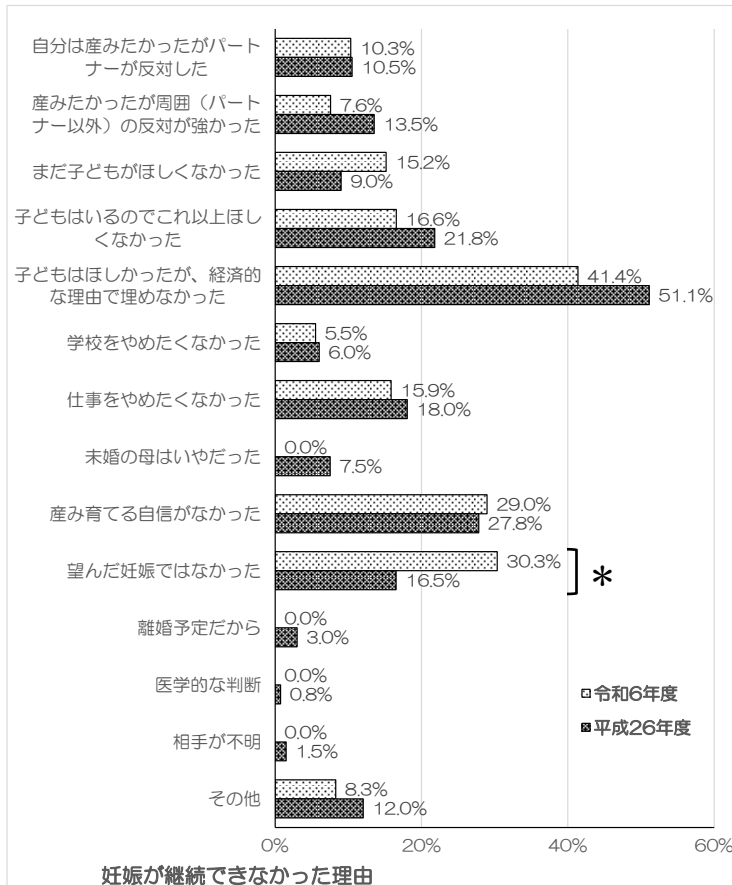
[表21 希望していない妊娠に至った理由]

	令和6年度	平成26年度
避妊のことは考えなかった	12 8.8%	11 9.1%
避妊するのが面倒くさかった	1 0.7%	1 0.8%
妊娠しないと思って、避妊しなかった	46 33.6%	33 27.3%
避妊具がなかったので、避妊できなかった	10 7.3%	4 3.3%
求められて「いや」と言えなかった	8 5.8%	13 10.7%
「避妊してほしい」と言えなかった	0 0.0%	8 6.6%
「避妊してほしい」と言ったが断られた	10 7.3%	9 7.4%
避妊したので、妊娠しないと思った(うまくできなかった。失敗した。)	48 35.0%	53 43.8%
避妊の知識が不足していた	11 8.0%	13 10.7%
その他	8 5.8%	2 1.7%
対象者	137	121

(22) 妊娠が継続できなかった理由

妊娠が継続できなかった理由について、令和6年度調査では「子どもはほしかったが経済的な理由で産めなかった」と回答した割合が41.4%で最も多かったが、平成26年度調査に比べて少なかった。また、「望んだ妊娠ではなかった」と「産み育てる自信がなかった」と回答した令和6年度調査の割合は、平成26年度調査に比べて増加していた。

[図 22 妊娠が継続できなかった理由]



カイ2乗の検定 *:p<0.01

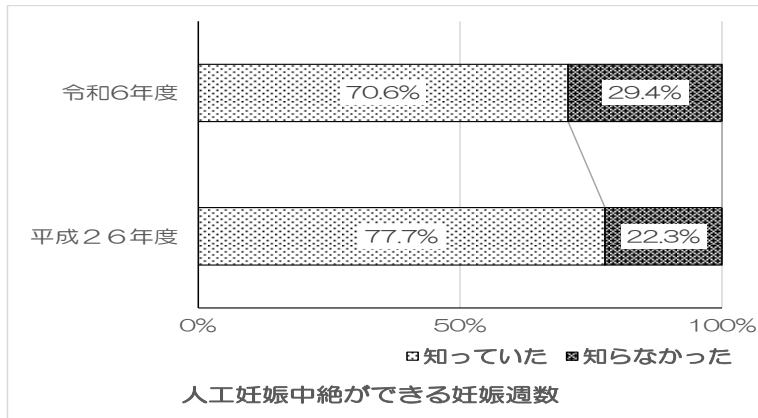
[表 22 妊娠が継続できなかった理由]

	令和6年度	平成26年度
自分は産みたかったがパートナーが反対した	15	14
産みたかったが周囲(パートナー以外)の反対が強かった	11	18
まだ子どもがほしくなかった	22	12
子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった	24	29
子どもはほしかったが、経済的な理由で埋めなかった	60	68
学校をやめたくなかった	8	8
仕事をやめたくなかった	23	24
未婚の母はいやだった	0	10
産み育てる自信がなかった	42	37
望んだ妊娠ではなかった	44	22
離婚予定だから	0	4
医学的な判断	0	1
相手が不明	0	2
その他	12	16
回答者の数	145	133

(23) 人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識

人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識について、令和6年度調査では「知っていた」と回答した割合が70.6%で、平成26年度調査に比べて減少していた。また、人工妊娠中絶ができる妊娠週数について、令和6年度調査では「22週未満」と回答した割合が増加し58.4%で最も多く、平成26年度調査では「12週未満」と回答した割合が最も多かった。

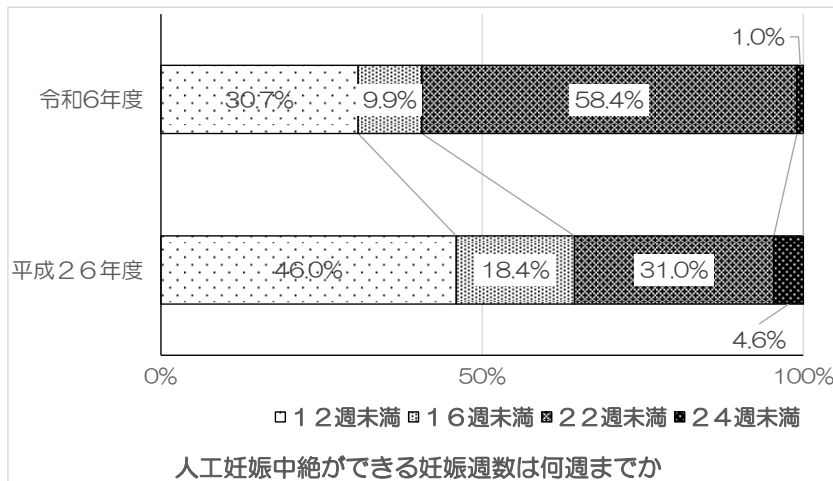
[図 23-1 人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識]



[表 23-1 人工妊娠中絶ができる妊娠週数の知識]

	知っていた	知らなかった	合計
令和6年度	101	42	143
	70.6%	29.4%	
平成26年度	101	29	130
	77.7%	22.3%	

[図 23-2 人工妊娠中絶ができる妊娠週数]



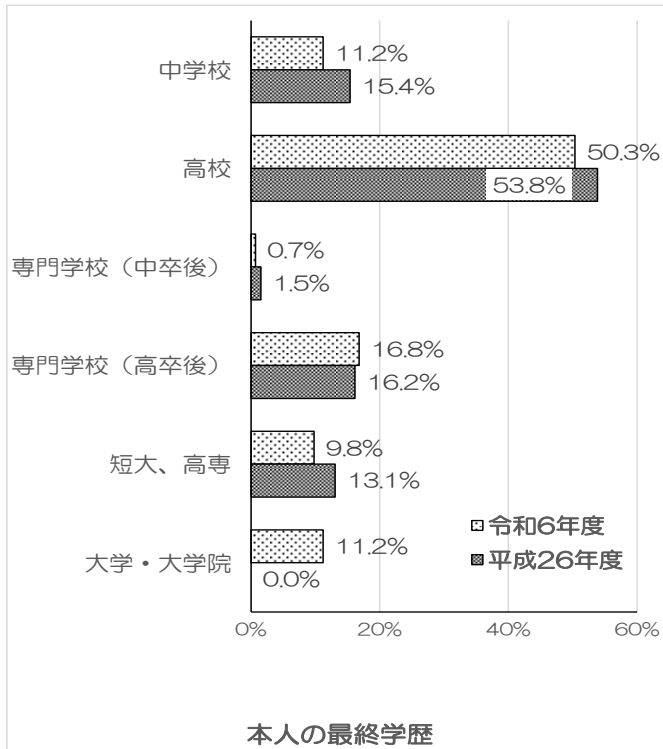
[表 23-2 人工妊娠中絶ができる妊娠週数]

	12週未満	16週未満	22週未満	24週未満	合計
令和6年度	31	10	59	1	101
	30.7%	9.9%	58.4%	1.0%	
平成26年度	40	16	27	4	87
	46.0%	18.4%	31.0%	4.6%	

(24) 本人の最終学歴

本人の最終学歴について、令和6年度調査及び平成26年度調査とも「高校」と回答した割合が最も多かった。また、令和6年度調査では「大学・大学院」と回答した割合が11.2%であったが、平成26年度調査では0%であった。

[図 24 本人の職業]



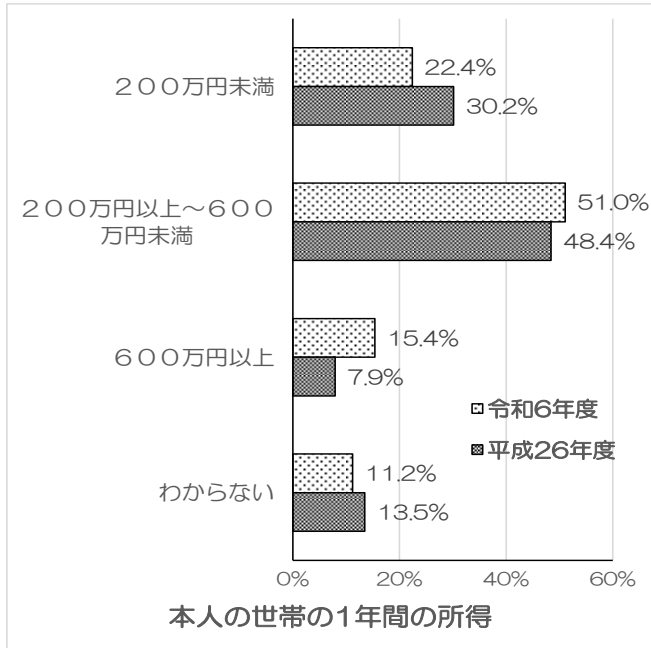
[表 24 本人の最終学歴]

	令和6年度	平成26年度
中学校	16	20
	11.2%	15.4%
高校	72	70
	50.3%	53.8%
専門学校(中卒後)	1	2
	0.7%	1.5%
専門学校(高卒後)	24	21
	16.8%	16.2%
短大、高専	14	17
	9.8%	13.1%
大学・大学院	16	—
	11.2%	—
合計	143	130

(25) 本人の世帯の1年間の所得

本人の世帯の1年間の所得について、令和6年度調査では「200万円以上～600万円未満」と回答した割合が51.0%で最も多く、次に「600万円以上」と回答した割合が15.4%であり、平成26年度調査と比べて増加した。また、既婚のみで比較すると、令和6年度調査の「200万円未満」が平成26年度調査に比べて減少しており、「600万円以上」が平成26年度調査と比べて増加していたことから、既婚者は、令和6年度調査の方が高収入の者が増加した。

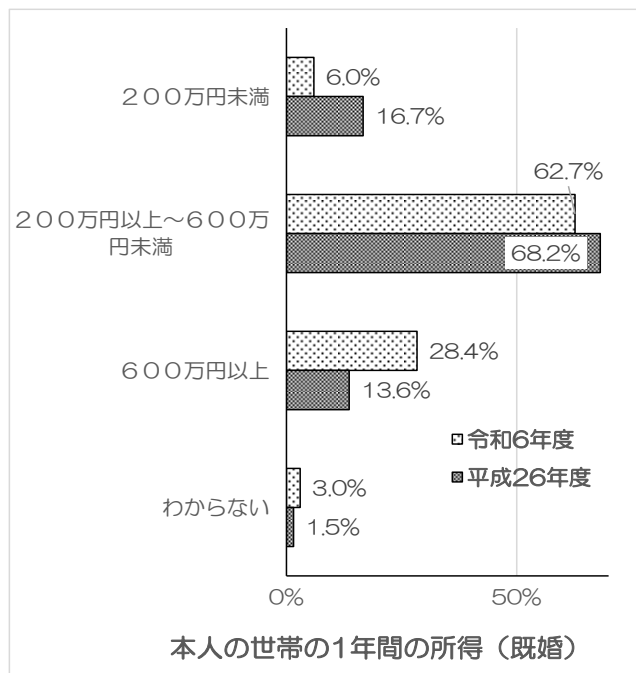
[図 25-1 本人の世帯の1年間の所得]



[表 25-1 本人の世帯の1年間の所得]

	令和6年度	平成26年度
200万円未満	32	38
	22.4%	30.2%
200万円以上～600万円未満	73	61
	51.0%	48.4%
600万円以上	22	10
	15.4%	7.9%
わからない	16	17
	11.2%	13.5%
合計	143	126

[図 25-2 本人の世帯の1年間の所得(既婚)]



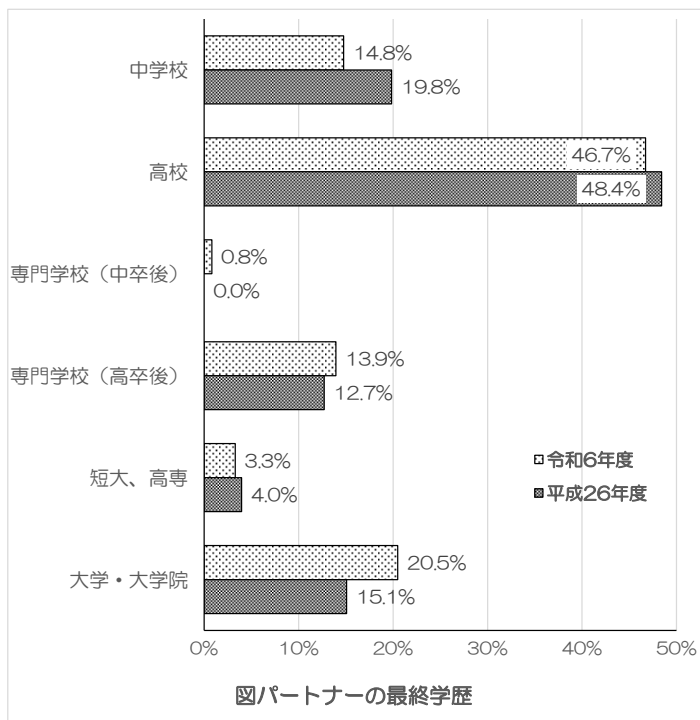
[表 25-2 本人の世帯の1年間の所得(既婚)]

	令和6年度	平成26年度
200万円未満	4	11
	6.0%	16.7%
200万円以上～600万円未満	42	45
	62.7%	68.2%
600万円以上	19	9
	28.4%	13.6%
わからない	2	1
	3.0%	1.5%
合計	67	66

(26) パートナーの最終学歴

パートナーの最終学歴について、令和6年度調査では「高校」と回答した割合が46.7%で最も多かったが、平成26年度調査と比べて減少していた。また、令和6年度調査では平成26年度調査と比べて、「専門学校(高卒)」及び「大学・大学院」と回答した割合が増加しており、令和6年度調査の方が平成26年度調査より高学歴の者が増加した。

[図 26 パートナーの最終学歴]



[表 26 パートナーの最終学歴]

	令和6年度	平成26年度
中学校	18	25
	14.6%	19.8%
高校	57	61
	46.3%	48.4%
専門学校(中卒後)	1	0
	0.8%	0.0%
専門学校(高卒後)	17	16
	13.8%	12.7%
短大、高専	4	5
	3.3%	4.0%
大学・大学院	26	19
	21.1%	15.1%
合計	123	126

人工妊娠中絶群の年齢階層における 10 年前との比較

平成 26 年度時点で回答している年齢集団における 10 年後の平成 6 年度調査との比較を行った。調査回答者のうち妊娠 12 週未満の人工妊娠中絶者に絞って行った。

年齢集団の比較対象は、平成 26 年度調査の「20 歳代 (51 人)」と令和 6 年度調査の「30 歳代 (52 人)」、及び平成 26 年度調査の「30 歳代 (51 人)」と令和 6 年度調査の「40 歳代 (15 人)」とした。

平成 26 年度調査の 20 歳代と令和 6 年度調査の 30 歳代の比較

(1) 妊娠に気づいてから医療機関を受診するまでに一週間以上を要した理由 (複数回答)

医療機関受診までに一週間以上かかった理由について、令和 6 年度調査 (30 歳代) 及び平成 26 年度調査 (20 歳代) とともに「仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった」と回答した者が 7 割強と最も多かったが、有意差はなかった。

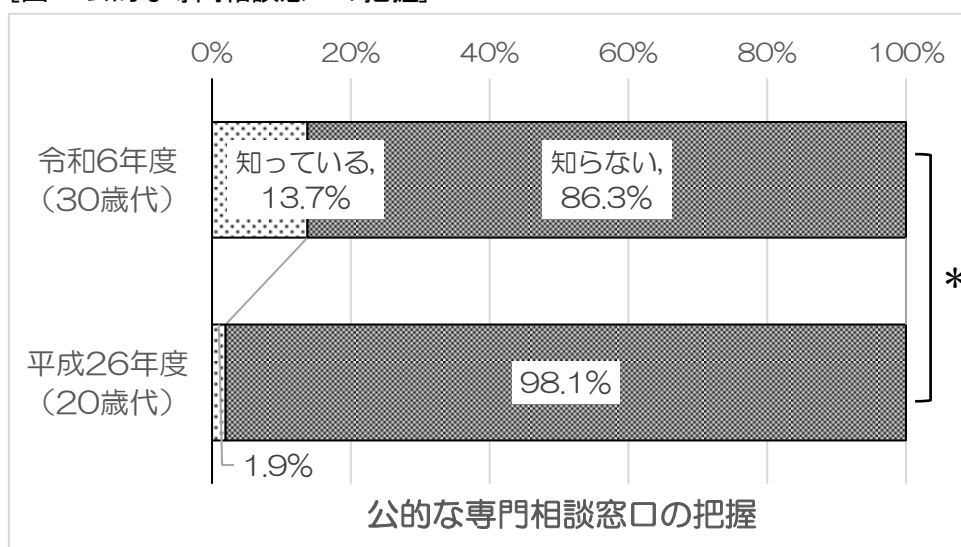
[表 1 医療機関受診までに一週間以上かかった理由]

	令和6年度 (30歳代)	平成26年度 (20歳代)	合計
心配で確認できなかった	1 5.0%	4 18.2%	5 11.9%
医療機関を受診するための費用がなかった	2 10.0%	- -	2 10.0%
仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった	15 75.0%	17 77.3%	32 76.2%
身近に相談できる人がいなかった	1 5.0%	2 9.1%	3 7.1%
相談できる専門機関を知らなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
産婦人科を受診するのが怖かった	2 10.0%	- -	2 10.0%
その他	3 15.0%	2 9.1%	5 11.9%
対象者	20	22	42

(2) 公的な専門相談窓口の把握

公的な専門相談窓口の把握について、令和6年度調査（30歳代）では「知っている」と回答した割合が13.7%で、平成26年度調査（20歳代）では1.9%に比べて増加しており、令和6年度調査（30歳代）と平成26年度調査（20歳代）に統計学的な有意差が認められた。
 (*:p<0.05)

[図2 公的な専門相談窓口の把握]



フィッシャーの正確検定 *:p<0.05

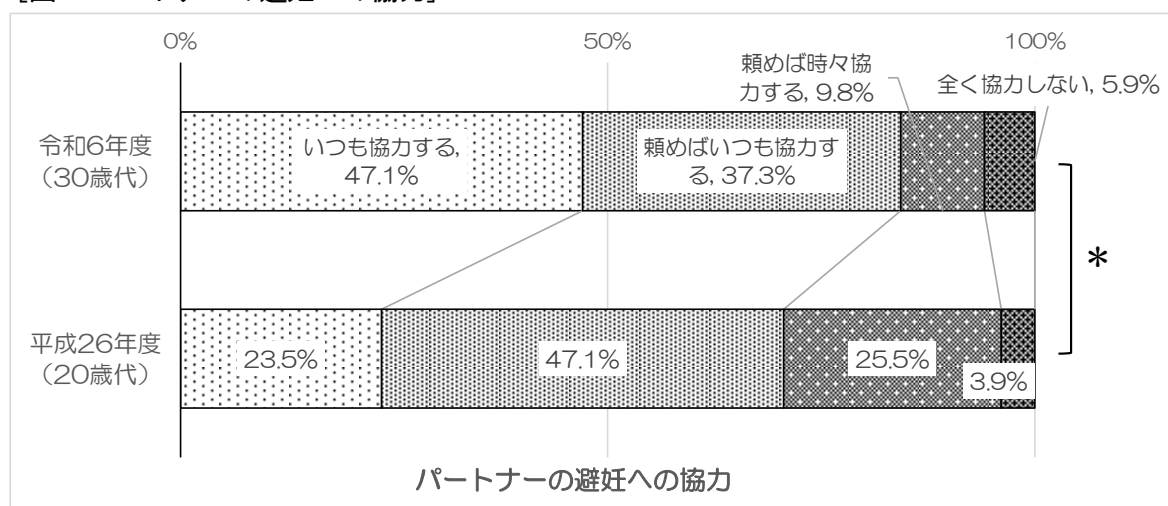
[表2 公的な専門相談窓口の把握]

	知っている	知らない	対象者
令和6年度 (30歳代)	7 13.7%	44 86.3%	51 100.0%
平成26年度 (20歳代)	1 1.9%	51 98.1%	52 100.0%
合計	8	95	103

(3) パートナーの避妊への協力

パートナーの避妊への協力について、令和6年度調査（30歳代）では「いつも協力する」と回答した割合が47.1%で、平成26年度調査（20歳代）の23.5%に比べて2倍以上増加しており、令和6年度調査（30歳代）と平成26年度調査（20歳代）に統計学的な有意差が認められた。（* : $p < 0.05$ ）

[図3 パートナーの避妊への協力]



傾向性の検定 * : $p < 0.05$

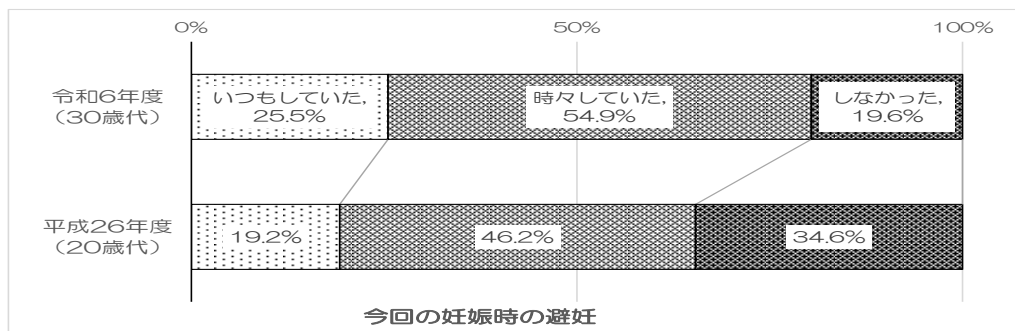
[表3 パートナーの避妊への協力]

	いつも協力する	頼めばいつも協力する	頼めば時々協力する	全く協力しない	対象者
令和6年度 (30歳代)	24	19	5	3	51
	47.1%	37.3%	9.8%	5.9%	100.0%
平成26年度 (20歳代)	12	24	13	2	51
	23.5%	47.1%	25.5%	3.9%	100.0%
合計	36	43	18	5	102

(4) 今回の妊娠時の避妊

今回の妊娠時の避妊について、令和6年度調査（30歳代）では「いつもしていた」と回答した割合が25.5%で、平成26年度調査（20歳代）の19.2%に比べて増加しており、「時々していた」と回答した割合も令和6年度調査（30歳代）の方が増加していたが、令和6年度調査（30歳代）と平成26年度調査（20歳代）に統計学的な有意差はなかった。

[図4 今回の妊娠時の避妊]



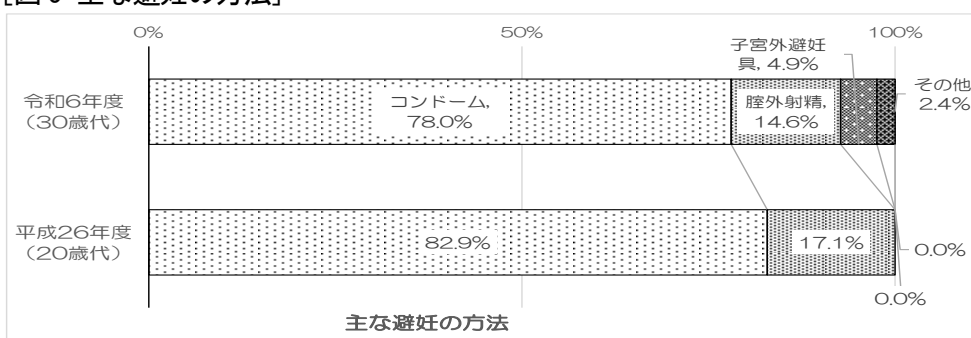
[表4 今回の妊娠時の避妊]

	いつもしていた	時々していた	しなかった	対象者
令和6年度 (30歳代)	13 25.5%	28 54.9%	10 19.6%	51 100.0%
平成26年度 (20歳代)	10 19.2%	24 46.2%	18 34.6%	52 100.0%
合計	23	52	28	103

(5) 主な避妊の方法

主な避妊の方法について、令和6年度調査（30歳代）では「コンドーム」及び「膣外射精」と回答した割合が、平成26年度調査（20歳代）に比べて減少していた。また、「子宮内避妊具」と回答した割合が、平成26年度調査（20歳代）では0%であったが、令和6年度調査（30歳代）では4.9%に増加していた。令和6年度調査（30歳代）と平成26年度調査（20歳代）に統計学的な有意差はなかった。

[図5 主な避妊の方法]



[表5 主な避妊の方法]

	コンドーム	膣外射精	子宮外避妊具	その他	対象者
令和6年度 (30歳代)	32 78.0%	6 14.6%	2 4.9%	1 2.4%	41 100.0%
平成26年度 (20歳代)	29 82.9%	6 17.1%	0 0.0%	0 0.0%	35 100.0%
合計	61	12	2	1	76

(6) 避妊をしなかった理由（複数回答）

避妊をしなかった理由について、令和6年度調査（30歳代）では「妊娠しないと思うから」と回答している割合が、平成26年度調査（20歳代）に比べて増加していた。令和6年度調査（30歳代）と平成26年度調査（20歳代）に統計学的な有意差はなかった。

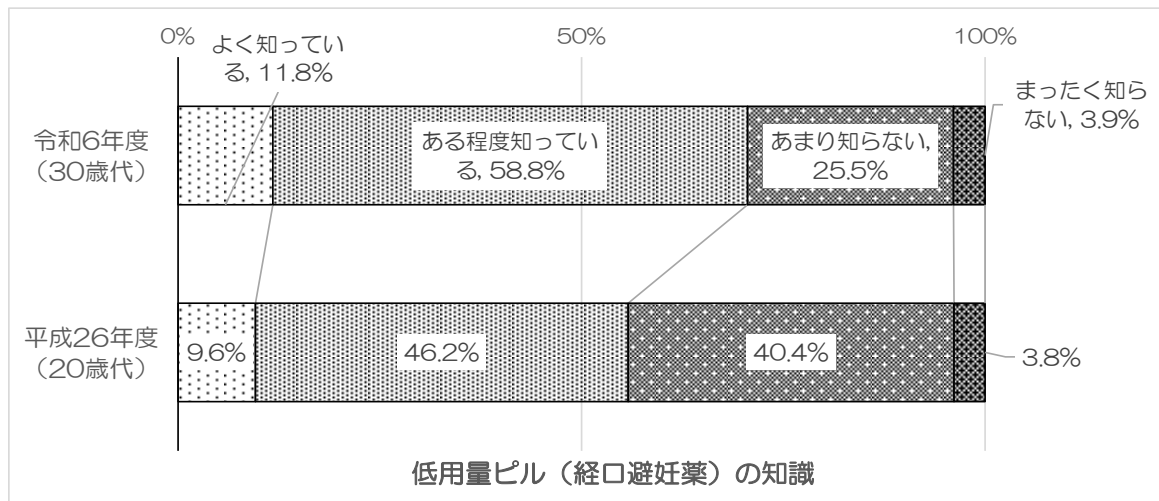
[表6 避妊をしなかった理由]

	めんどうだから	相手が協力してくれないから	妊娠しないと思うから	費用がかかるため	わからない	その他	対象者
令和6年度 (30歳代)	0 0.0%	1 10.0%	5 50.0%	0 0.0%	4 40.0%	0 0.0%	10 100.0%
平成26年度 (20歳代)	1 5.9%	2 11.8%	2 11.8%	1 5.9%	9 52.9%	2 11.8%	17 100.0%
合計	1	3	7	1	13	2	27

(7) 低用量ピル（経口避妊薬）の知識

低用量ピル（経口避妊薬）の知識について、令和6年度調査（30歳代）では「よく知っている」及び「ある程度知っている」と回答した割合が、平成26年度調査（20歳代）に比べて増加していた。令和6年度調査（30歳代）と平成26年度調査（20歳代）に統計学的な有意差はなかった。

[図7 低用量ピル（経口避妊薬）の知識]



[表7 低用量ピル（経口避妊薬）の知識]

	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない	対象者
令和6年度 (30歳代)	6 11.8%	30 58.8%	13 25.5%	2 3.9%	51 100.0%
平成26年度 (20歳代)	5 9.6%	24 46.2%	21 40.4%	2 3.8%	52 100.0%
合計	11	54	34	4	103

(8) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なだと思う情報（複数回答）

避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報について、令和6年度調査（30歳代）では「インターネット（ホームページ）による情報提供」と回答した割合が、平成26年度調査（20歳代）に比べて増加しており、統計学的な有意差はないが関連の可能性が認められた。

（#:p<0.1）

また、令和6年度調査（30歳代）では「わかりやすいパンフレットによる情報提供」と回答した割合が、平成26年度調査（20歳代）に比べて増加しており、統計学的な有意差が認められた。

（*:p<0.05）

「コンドームの無料配付」と回答した割合では、平成26年度調査（20歳代）の方が令和6年度調査（30歳代）に比べて多く、統計学的な有意差が認められた。（*:p<0.05）

[表8 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報]

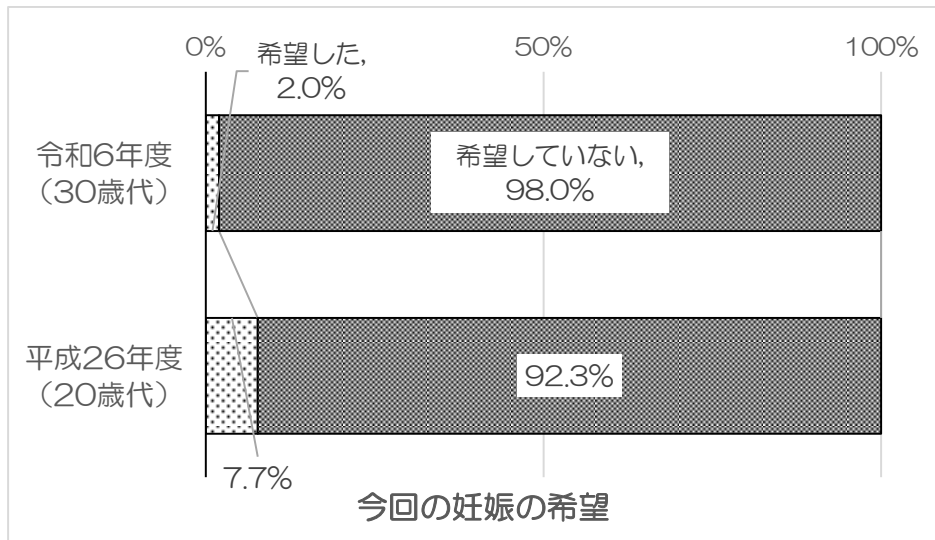
	令和6年度 (30歳代)	平成26年度 (20歳代)	合計
気軽に相談できるセンター (電話や面接相談など)	11 21.6%	14 30.4%	25 25.8%
同年代の正しい知識を持った 仲間(ピア)からの情報提供	10 19.6%	9 19.6%	19 19.6%
インターネット(ホームページ) による情報提供	24 47.1%	13 28.3%	37 38.1% #
わかりやすいパンフレットに よる情報提供	8 15.7%	7 15.2%	15 15.5%
親子で話し合うための教材 の情報提供	7 13.7%	2 4.3%	9 9.3%
いろいろな世代も含めた男 女のつきあい方を学ぶ教室	3 5.9%	1 2.2%	4 4.1%
コンドームの無料配付	2 3.9%	9 19.6%	11 11.3% *
子宮内避妊具の費用の公費 補助	16 31.4%	9 19.6%	25 25.8%
低用量ピル(経口避妊薬)を もっと入手しやすくする	27 52.9%	24 52.2%	51 52.6%
その他	1 2.0%	0 0.0%	1 1.0%
回答者の数	51	46	97

カイ2乗の検定 * : p < 0.05 # : p < 0.1

(9) 今回の妊娠の希望

今回の妊娠の希望について、令和6年度調査（30歳代）では「希望していない」と回答した割合が98.0%で、平成26年度調査（20歳代）に比べて増加していた。令和6年度調査（30歳代）と平成26年度調査（20歳代）に統計学的な有意差はなかった。

[図9 今回の妊娠の希望]



[表9 今回の妊娠の希望]

	希望した	希望していない	対象者
令和6年度 (30歳代)	1 2.0%	50 98.0%	51 100.0%
平成26年度 (20歳代)	4 7.7%	48 92.3%	52 100.0%
合計	5	98	103

(10) 希望していない妊娠に至った理由（複数回答）

希望していない妊娠に至った理由について、令和6年度調査（30歳代）では「避妊して欲しいと言えなかった」と回答した割合が0%であるが、平成26年度調査（20歳代）では10.6%あり、統計学的な有意差が認められた。（* : $p < 0.05$ ）

また、令和6年度調査（30歳代）及び平成26年度調査（20歳代）ともに、「避妊したので妊娠しないと思った」と「妊娠しないと思って避妊しなかった」と回答した割合が多かったが、統計学的な有意差はなかった。

[表 10 希望していない妊娠に至った理由]

	令和6年度 (30歳代)	平成26年度 (20歳代)	合計
避妊のことは考えなかった	6 12.0%	4 8.5%	10 10.3%
避妊するのが面倒くさかった	1 2.0%	0 0.0%	1 1.0%
妊娠しないと思って、避妊しなかった	19 38.0%	17 36.2%	36 37.1%
避妊具がなかったので、避妊できなかった	4 8.0%	1 2.1%	5 5.2%
求められて「いや」と言えなかった	3 6.0%	4 8.5%	7 7.2%
「避妊してほしい」と言えなかった	0 0.0%	5 10.6%	5 5.2% *
「避妊してほしい」と言ったが断られた	1 2.0%	4 8.5%	5 5.2%
避妊したので、妊娠しないと思った(うまくできなかった。失敗した。)	20 40.0%	18 38.3%	38 39.2%
避妊の知識が不足していた	1 2.0%	3 6.4%	4 4.1%
その他	0 0.0%	1 2.1%	1 1.0%
回答数	50	47	97

フィッシャーの正確検定 * : $p < 0.05$

(11) 妊娠が継続できなかった理由（複数回答）

妊娠が継続できなかった理由について、「子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった」「産み育てる自信がなかった」「望んだ妊娠ではなかった」と回答した割合が、令和6年度調査（30歳代）の方が平成26年度調査（20歳代）に比べて多かったが、令和6年度調査（30歳代）と平成26年度調査（20歳代）に統計学的な有意差はなかった。

[表1 妊娠が継続できなかった理由]

	令和6年度 (30歳代)	平成26年度 (20歳代)	合計
自分は産みたかったがパートナーが反対した	4 7.8%	4 7.7%	8 7.8%
産みたかったが周囲(パートナー以外)の反対が強かった	3 5.9%	8 15.4%	11 10.7%
まだ子どもがほしくなかった	5 9.8%	6 11.5%	11 10.7%
子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった	14 27.5%	8 15.4%	22 21.4%
子どもはほしかったが、経済的な理由で産めなかった	19 37.3%	26 50.0%	45 43.7%
学校をやめたくなかった	0 0.0%	2 3.8%	2 1.9%
仕事をやめたくなかった	9 17.6%	12 23.1%	21 20.4%
未婚の母はいやだった	-	4 7.7%	4 3.9%
産み育てる自信がなかった	17 33.3%	11 21.2%	28 27.2%
望んだ妊娠ではなかった	15 29.4%	11 21.2%	26 25.2%
離婚予定だから	-	1 1.9%	1 1.0%
医学的な判断	-	3 5.8%	3 2.9%
相手が不明	-	2 3.8%	2 1.9%
その他	4 7.8%	2 3.8%	6 5.8%
回答数	51	52	103

平成 26 年度調査の 30 歳代と令和 6 年度調査の 40 歳代の比較

(1) 妊娠に気づいてから医療機関を受診するまでに一週間以上を要した理由（複数回答）

医療機関受診までに一週間以上かかった理由について、令和 6 年度調査（40 歳代）及び平成 26 年度調査（30 歳代）ともに「仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった」と回答した者が最も多かったが、令和 6 年度調査（40 歳代）と平成 26 年度調査（30 歳代）に統計学的な有意差はなかった。

また、令和 6 年度調査（40 歳代）では、「医療機関を受診するための費用がなかった」と回答した割合が 100%であったが、平成 26 年度調査（30 歳代）では選択肢がなく比較できなかった。

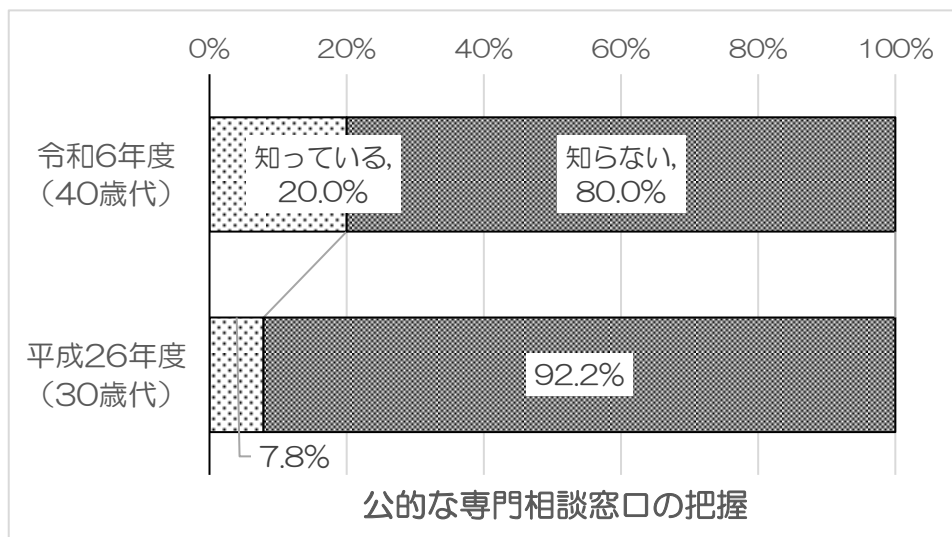
[表 1 医療機関受診までに一週間以上かかった理由]

	令和6年度 (40歳代)	平成26年度 (30歳代)	合計
心配で確認できなかった	1 14.3%	0 0.0%	1 4.3%
医療機関を受診するための費用がなかった	7 100.0%	- -	7 100.0%
仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった	5 71.4%	13 81.3%	18 78.3%
身近に相談できる人がいなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
相談できる専門機関を知らなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
産婦人科を受診するのが怖かった	0 0.0%	- -	0 0.0%
その他	1 14.3%	2 12.5%	3 13.0%
対象者	7	16	23

(2) 公的な専門相談窓口の把握

公的な専門相談窓口の把握について、令和6年度調査（40歳代）では「知っている」と回答した割合は20.0%で、平成26年度調査（30歳代）の7.8%に比べて増加していたが、令和6年度調査（40歳代）と平成26年度調査（30歳代）に統計学的な有意差はなかった。

[図2 公的な専門相談窓口の把握]



[表2 な専門相談窓口の把握]

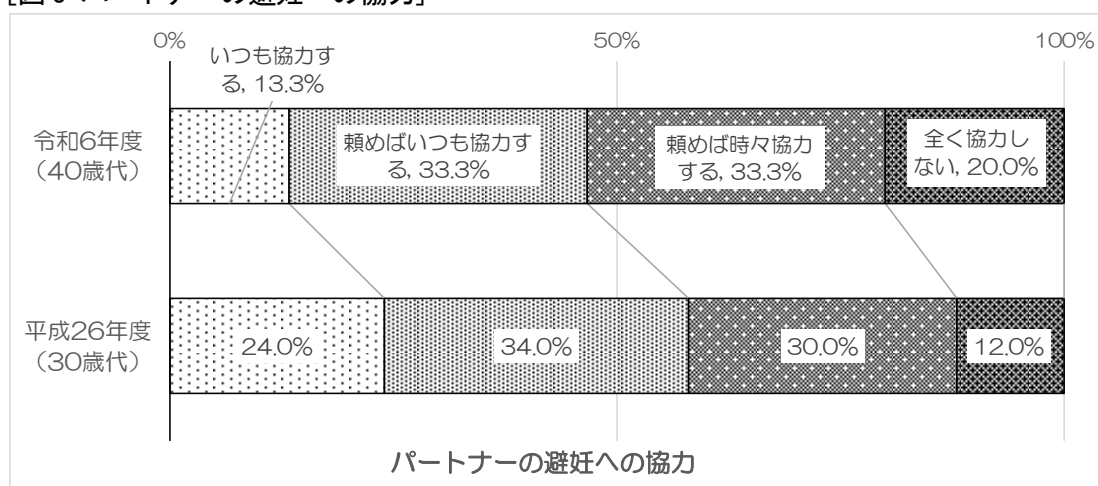
	知っている	知らない	対象者
令和6年度 (40歳代)	3	12	15
	20.0%	80.0%	100.0%
平成26年度 (30歳代)	4	47	51
	7.8%	92.2%	100.0%
合計	7	59	66

(3) パートナーの避妊への協力

パートナーの避妊への協力について、令和6年度調査（40歳代）では「いつも協力する」と回答した割合が13.3%で、平成26年度調査（30歳代）の24.0%に比べて減少していた。

また、令和6年度調査（40歳代）では「全く協力しない」と回答した割合は20.0%で平成26年度調査（30歳代）の12.0%に比べて増加していた。令和6年度調査（40歳代）と平成26年度調査（30歳代）に統計学的な有意差はなかった。

[図3 パートナーの避妊への協力]



[表3 パートナーの避妊への協力]

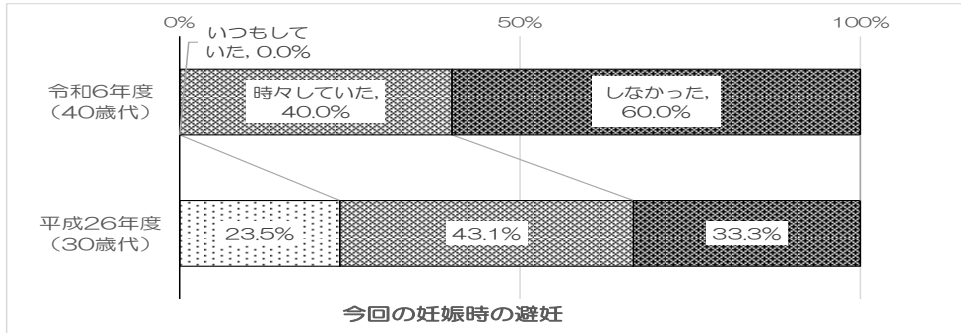
	いつも協力する	頼めばいつも協力する	頼めば時々協力する	全く協力しない	対象者
令和6年度 (40歳代)	2 13.3%	5 33.3%	5 33.3%	3 20.0%	15 100.0%
平成26年度 (30歳代)	12 24.0%	17 34.0%	15 30.0%	6 12.0%	50 100.0%
合計	14	22	20	9	65

(4) 今回の妊娠時の避妊

今回の妊娠時の避妊について、令和6年度調査（40歳代）では「いつもしていた」と回答した割合が0%で、平成26年度調査（30歳代）の23.5%で減少していた。

また、「しなかった」と回答した割合は、令和6年度調査（40歳代）では60.0%で、平成26年度調査（30歳代）の33.3%に比べて増加していた。令和6年度調査（40歳代）と平成26年度調査（30歳代）に統計学的な有意差はなかった。

[図4 今回の妊娠時の避妊]



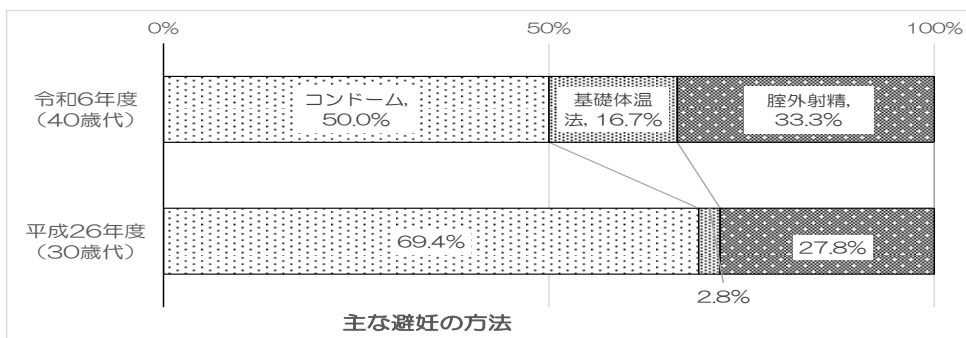
[表4 今回の妊娠時の避妊]

	いつもしていた	時々していた	しなかった	対象者
令和6年度(40歳代)	0 0.0%	6 40.0%	9 60.0%	15 100.0%
平成26年度(30歳代)	12 23.5%	22 43.1%	17 33.3%	51 100.0%
合計	12	28	26	66

(5) 主な避妊の方法

主な避妊の方法について、令和6年度調査（40歳代）では「コンドーム」と回答した割合が、50.0%で、平成26年度調査（30歳代）の69.4%に比べて減少していた。また、「子宮内避妊具」と回答した割合が、平成26年度調査（30歳代）では0%であったが、令和6年度調査（40歳代）では4.9%に増加していた。令和6年度調査（40歳代）と平成26年度調査（30歳代）に統計的な有意差はなかった。

[図5 主な避妊の方法]



[表5 主な避妊の方法]

	コンドーム	基礎体温法	膣外射精	対象者
令和6年度(40歳代)	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	6 100.0%
平成26年度(30歳代)	25 69.4%	1 2.8%	10 27.8%	36 100.0%
合計	28	2	12	42

(6) 避妊をしなかった理由（複数回答）

避妊をしなかった理由について、令和6年度調査（40歳代）では「相手が協力してくれないから」と「妊娠しないと思うから」を回答している割合が、平成26年度調査（30歳代）に比べて減少していたが、令和6年度調査（40歳代）と平成26年度調査（30歳代）に統計的な有意差はなかった。

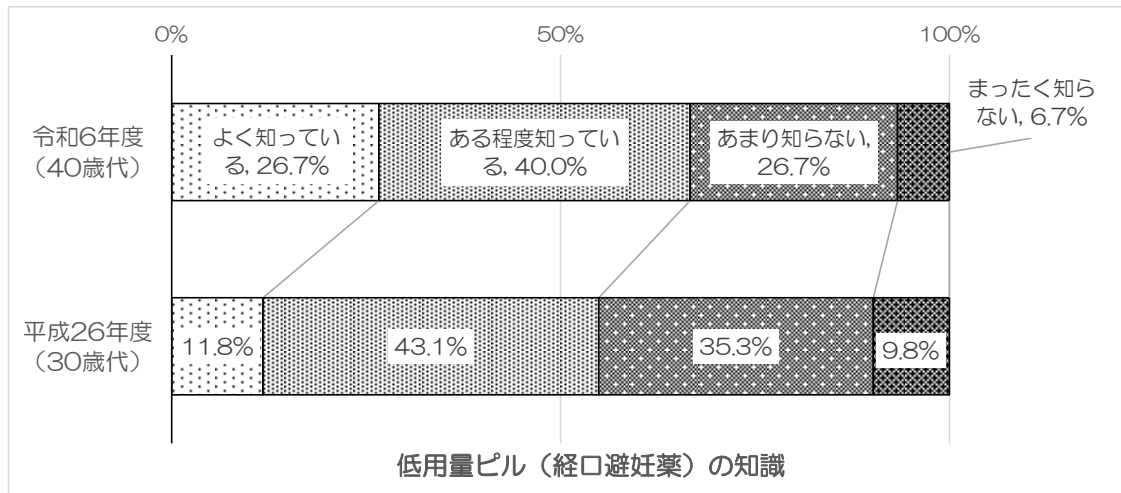
[表6 避妊をしなかった理由]

	めんどうだから	相手が協力してくれないから	妊娠しないと思うから	わからない	その他	対象者
令和6年度 (40歳代)	2 22.2%	2 22.2%	3 33.3%	2 22.2%	0 0.0%	9 100.0%
平成26年度 (30歳代)	1 5.3%	7 36.8%	9 47.4%	1 5.3%	1 5.3%	19 100.0%
合計	3	9	12	3	1	28

(7) 低用量ピル（経口避妊薬）の知識

低用量ピル（経口避妊薬）の知識について、令和6年度調査（40歳代）では「よく知っている」と回答した割合が26.7%で、平成26年度調査（30歳代）の11.8%に比べて増加していた。令和6年度調査（40歳代）と平成26年度調査（30歳代）に統計的な有意差はなかった。

[図7 低用量ピル（経口避妊薬）の知識]



[表7 低用量ピル（経口避妊薬）の知識]

	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない	対象者
令和6年度 (40歳代)	4 26.7%	6 40.0%	4 26.7%	1 6.7%	15 100.0%
平成26年度 (30歳代)	6 11.8%	22 43.1%	18 35.3%	5 9.8%	51 100.0%
合計	10	28	22	6	66

(8) 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なだと思う情報（複数回答）

避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報について、令和6年度調査（40歳代）では「わかりやすいパンフレットによる情報提供」と回答した割合が40.0%で、平成26年度調査（30歳代）の0%に比べて増加しており、統計的な有意差が認められた。（* : $p < 0.05$ ）

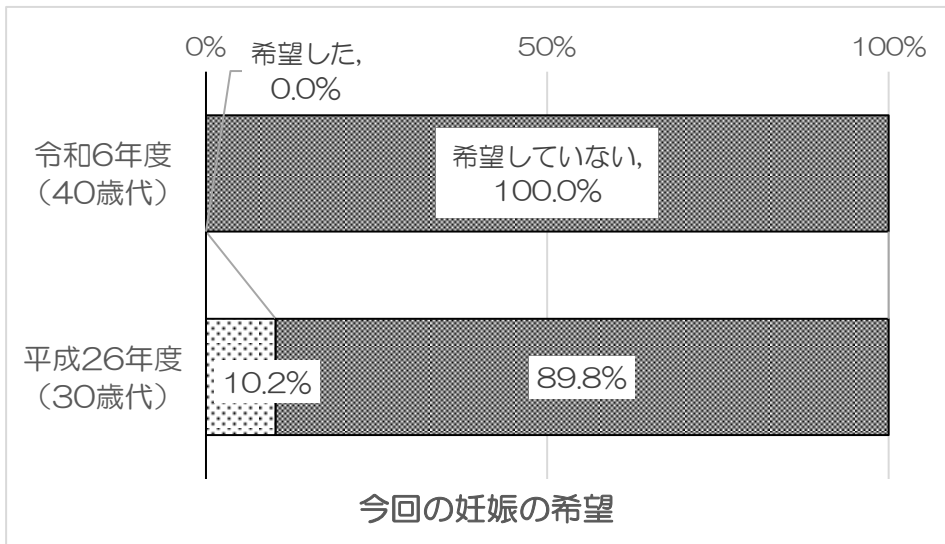
[表8 避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報]

	令和6年度 (40歳代)	平成26年度 (30歳代)	合計
気軽に相談できるセンター (電話や面接相談など)	3 20.0%	17 36.2%	20 32.3%
同年代の正しい知識を持った 仲間(ピア)からの情報提供	2 13.3%	5 10.6%	7 11.3%
インターネット(ホームページ) による情報提供	6 40.0%	11 23.4%	17 27.4%
わかりやすいパンフレットに よる情報提供	6 40.0%	15 31.9%	21 33.9%
親子で話し合うための教材 の情報提供	3 20.0%	4 8.5%	7 11.3%
いろいろな世代も含めた男女 のつきあい方を学ぶ教室	0 0.0%	2 4.3%	2 3.2%
コンドームの無料配付	0 0.0%	6 12.8%	6 9.7%
子宮内避妊具の費用の公費 補助	6 40.0%	13 27.7%	19 30.6%
低用量ピル(経口避妊薬)を もっと入手しやすくする	8 53.3%	22 46.8%	30 48.4%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
回答者の数	15	47	62

(9) 今回の妊娠の希望

今回の妊娠の希望について、令和6年度調査（40歳代）では「希望していない」と回答した割合が100%で、平成26年度調査（30歳代）の89.8%に比べて増加していた。令和6年度調査（40歳代）と平成26年度調査（30歳代）に統計的な有意差はなかった。

[図9 今回の妊娠の希望]



[表9 今回の妊娠の希望]

	希望した	希望していない	対象者
令和6年度 (40歳代)	0 0.0%	15 100.0%	15 100.0%
平成26年度 (30歳代)	5 10.2%	44 89.8%	49 100.0%
合計	5	59	64

(10) 希望していない妊娠に至った理由（複数回答）

希望していない妊娠に至った理由について、令和6年度調査（40歳代）では「妊娠しないと思って避妊しなかった」と回答した割合が53.3%であるが、平成26年度調査（30歳代）では22.2%あり、統計的な有意差が認められた。（* : $p < 0.05$ ）

また、「避妊してほしいと言ったが断られた」は、令和6年度調査（40歳代）の方が回答した割合が多かったが、統計学的な有意差はなかった。

[表 10 希望していない妊娠に至った理由]

	令和6年度 (40歳代)	平成26年度 (30歳代)	合計
避妊のことは考えなかった	1 6.7%	4 8.9%	5 8.3%
避妊するのが面倒くさかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
妊娠しないと思って、避妊しなかった	8 53.3%	10 22.2%	18 30.0%
避妊具がなかったので、避妊できなかった	0 0.0%	1 2.2%	1 1.7%
求められて「いや」と言えなかった	1 6.7%	5 11.1%	6 10.0%
「避妊してほしい」と言えなかった	0 0.0%	2 4.4%	2 3.3%
「避妊してほしい」と言ったが断られた	2 13.3%	4 8.9%	6 10.0%
避妊したので、妊娠しないと思った(うまくできなかった。失敗した。)	2 13.3%	23 51.1%	25 41.7%
避妊の知識が不足していた	1 6.7%	3 6.7%	4 6.7%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
回答数	15	45	60

* カイ2乗の検定
* : $p < 0.05$

* フィッシャーの正確検定
* : $p < 0.05$

(11) 妊娠が継続できなかった理由（複数回答）

妊娠が継続できなかった理由について、令和6年度調査（40歳代）では「子どもはほしかったが経済的な理由で産めなかった」と回答した割合が26.7%で、平成26年度調査（30歳代）の52.9%に比べて減少しており、統計的な有意差はないが関連の可能性が認められた。

（#:p<0.1）

令和6年度調査（40歳代）では「望んだ妊娠ではなかった」と回答した割合が33.3%で、平成26年度調査（30歳代）の9.8%に比べて多く、統計的な有意差が認められた。

（*:p<0.05）

[表1 妊娠が継続できなかった理由]

	令和6年度 (40歳代)	平成26年度 (30歳代)	合計
自分は産みたかったがパートナーが反対した	0 0.0%	7 13.7%	7 6.8%
産みたかったが周囲(パートナー以外)の反対が強かった	1 6.7%	5 9.8%	6 5.8%
まだ子どもがほしくなかった	2 13.3%	5 9.8%	7 6.8%
子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった	7 46.7%	15 29.4%	22 21.4%
子どもはほしかったが、経済的な理由で産めなかった	4 26.7%	27 52.9%	31 30.1% #
学校をやめたくなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
仕事をやめたくなかった	3 20.0%	11 21.6%	14 13.6%
未婚の母はいやだった	-	4 7.8%	4 3.9%
産み育てる自信がなかった	7 46.7%	16 31.4%	23 22.3%
望んだ妊娠ではなかった	5 33.3%	5 9.8%	10 9.7% *
離婚予定だから	-	2 3.9%	2 1.9%
医学的な判断	-	2 3.9%	2 1.9%
相手が不明	-	0 0.0%	0 0.0%
その他	2 13.3%	0 0.0%	2 1.9%
回答数	15	51	103

フィッシャーの正確の検定 * :p<0.05 # :p<0.1

4 考察とまとめ

【考察】

1 令和6年度調査の傾向と平成26年度調査との比較

令和6年度調査の傾向は、人工妊娠中絶群と妊産婦群の比較を行い、平成26年度調査との比較は、人工妊娠中絶群（妊娠12週未満）について行った。

(1) 妊娠に関する認識の傾向

令和6年度調査では人工妊娠中絶群は妊産婦群と比べて、妊娠に気づく時期が「遅かった」と回答した割合が多く、その理由として、「妊娠するとは思わなかった」や「もともと月経が不規則だった」と回答した者が多かった（P5）。一方で、令和6年度調査では平成26年度調査と比べると、妊娠に気づく時期が「早かった」と回答した割合が増加し、市販の妊娠検査薬で妊娠の確認をした割合も増加した（P58、P59）。

このことは、妊娠の兆候等の知識不足が、妊娠に至る経緯についての誤った理解や身体の変化における対応の遅れを招くことを示唆する一方、平成26年度調査時より正しい知識の習得やセルフケアの意識が徐々に向上していることが示唆される。

(2) 妊娠に関する相談先の傾向

令和6年度調査では、妊娠・出産について身近に相談できる人について、妊産婦群は全員が「いる」と回答しているのに対し、人工妊娠中絶群は「いない」と回答した割合が7.6%あり（P9）、平成26年度調査に比べると割合が若干減少しているが（P62）、ひとりで妊娠についての不安や悩みを抱えている者がいることが示唆された。

令和6年度調査では人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに、身近に相談できる人は「パートナー」と回答した割合が最も多かった（P9）。パートナーとの関係性をみると、人工妊娠中絶群では妊産婦群と比べてほとんどの項目で割合が下回っており、特に「思いやりがある」「協力してくれる」と回答した割合が低かった（P26）。

また、令和6年度調査では平成26年度調査と比べると、身近に相談できる人は「パートナー」や「母親」と回答した割合が増加した（P62）。

このことから、パートナーや家族との信頼関係の構築が重要であり、妊娠の捉え方にも影響することが考えられる。

公的な専門相談窓口の把握では、令和6年度調査では人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに「知っている」と回答した割合が3割弱であり依然として低い水準であるが（P10）、平成26年度調査と比べると、「知っている」と回答した割合が約5倍増加した（P63）。

このことから、公的専門相談窓口の周知に一定の効果があったと考えられるが、さらに多くの方が利用できるよう、情報発信の工夫の検討や、相談しやすい体制の充実が必要であることが考えられる。

(3) 避妊に関する認識と行動の傾向

パートナーの避妊への協力について、令和6年度調査では人工妊娠中絶群は妊産婦群と比べて、「いつも協力する」と回答した割合は低かったものの（P11）、平成26年度調査と比べると、「いつも協力する」と回答した割合が約2倍増加した（P63）。しかし、令和6年度調査の人工妊娠中絶群を年代別で見ると、10歳代と40歳代以降で「全く協力しない」と回答した割合が、それぞれ2割を占め、他の年代より多かった（P29）。

また、令和6年度調査では、妊娠を希望した者の方が、パートナーが避妊に協力的であり、統計

学的な有意差が認められた (P41)。さらに、避妊をしなかった理由で「相手が協力してくれないから」と回答した割合が、平成 26 年度調査の 26.8%に比べて令和 6 年度調査では 19.5%と減少した (P66)。

このことから、平成 26 年度調査時より避妊に関して協力する男性がやや増加傾向で男性側の協力が得られてきており、男女が互いに思いやり、対等な関係性が築ける教育など、男性側に対する指導の成果によるものと考えられる。しかし、人工妊娠中絶群では、パートナー間のコミュニケーション不足や避妊への意識の違いが、人工妊娠中絶の一因となっている可能性が考えられる。

今回の妊娠時の避妊について、令和 6 年度調査では人工妊娠中絶群は、「いつも避妊していた」と回答した割合が低く、「ときどきしていた」「しなかった」と回答した割合が約 7 割と高かった (P12)。令和 6 年度調査の人工妊娠中絶群を年代別でみると、40 歳代以降は「しなかった」と回答した割合が 60.0%で、他の年代よりも高い割合を示していた (P30)。

また、令和 6 年度調査における今回の妊娠時の避妊と今回の妊娠の希望との関連では、妊娠を希望しないと回答した者の方が、今回の妊娠時に避妊をしている割合が多く、統計学的な有意差が認められた (P42)。

このことから、妊娠の希望の有無により避妊行動に違いがあるのは当然であるが、閉経に近い年齢の 40 歳代以降は、妊娠への警戒感が薄れていることが考えられ、閉経前後の身体の変化等に関する正しい知識の習得とともに、パートナーの避妊への協力についてもパートナーシップにおける課題が残った。

主な避妊の方法として、令和 6 年度調査では人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに「コンドーム」と回答した割合が最も多く、次に「膣外射精」が続いており、平成 26 年度調査と同様の傾向がみられた (P12、P65)。

また、令和 6 年度調査の人工妊娠中絶群を年代別でみると、10 歳代は全ての者が「コンドーム」と回答しており、40 歳代以降では「膣外射精」の割合も多く、20 歳代では「低用量ピル」、30 歳代では「子宮内避妊具」を選択する者もいたが割合としては少なかった (P31)。

このことから、人工妊娠中絶群は避妊方法に対する誤った理解から避妊方法を選択している者が多く見受けられ、正しい避妊方法の情報を確実に提供することについて課題が残った。「知らなかった」をできるだけ減らせるような知識習得の機会の検討や啓発を進めていくことが必要である。

(4) 予期せぬ妊娠への認識と行動の傾向

避妊をしなかった理由として、令和 6 年度調査で人工妊娠中絶群では「妊娠しないと思うから」と回答した割合が 39.0%で最多であり、年代別では 10 歳代が 60.0%で最も多かった (P13、P32)。

また、平成 26 年度調査では「相手が協力してくれないから」と回答した割合が最多だったが、令和 6 年度調査では「妊娠しないと思うから」と回答した割合が最多となった (P66)。

このことから、妊娠のしくみについての女性自身の理解不足や、自分の身体の状態 (月経周期等) への関心の薄さが示唆された。

希望していない妊娠に至った理由として、令和 6 年度調査の人工妊娠中絶群では「妊娠しないと思って避妊しなかった」と回答した割合が 33.6%で、平成 26 年度調査に比べて多かった (P71)。

また、年代別では 40 歳代以降が 53.3%で最も多く、年齢が高いほど、妊娠しないと思って避妊しなかった割合が多く統計学的な有意差が認められた (P37)。

このことから、女性自身が自分の身体を理解し、自分の健康を守る行動を選択できる、プレコンセプションケアの視点で支援を継続することが必要である。

妊娠に気づいてから医療機関を受診するまでに一週間以上を要した理由として、令和 6 年度調査

では人工妊娠中絶群及び妊産婦群ともに「仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった」と回答した割合が最も多かった。これはすべての年代で最も多く、平成26年度調査でも同様の傾向がみられた（P27、P60）。

このことから、休みが取りやすい職場環境や一人で悩まず相談できる環境が早期受診に繋がると考えられる。

緊急避妊薬処方に関する知識について、令和6年度調査では人工妊娠中絶群の方が妊産婦群に比べ「知らない」と回答した割合が多かった（P22）。人工妊娠中絶群において、今回の妊娠の希望と比較したところ、妊娠を希望していない者は緊急避妊薬に関する知識が低く、統計学的な有意差が認められた（P50）。妊娠した可能性があっても緊急避妊薬の使用に繋がりにくいことが考えられる。

また、緊急避妊薬処方の希望について、令和6年度調査では人工妊娠中絶群の方が妊産婦群に比べ「知っていたら処方を受けた」と回答した割合が多く（P22）、年代別では10歳代が64.3%で最も多かった（P40）。人工妊娠中絶群において、今回の妊娠の希望と比較したところ、妊娠を希望していないの方が「受けた」と回答した割合が多く、統計学的な有意差が認められた（P54）。

このことから、緊急避妊薬の処方や費用および使用方法に関する正しい情報を確実に提供していくことが、女性の身体を守る行動に繋がることが考えられる。

（5）妊娠と社会経済的要因の傾向

妊娠が継続できなかった理由として、令和6年度調査の人工妊娠中絶群において「子どもは欲しかったが経済的な理由で産めなかった」が最も多く、次いで「望んだ妊娠ではなかった」、「産み育てる自信がなかった」の順で回答した割合が多かった（P20）。

また、令和6年度調査は平成26年度調査を比べると「子どもはほしかったが経済的な理由で産めなかった」と回答した割合は減少したが、「望んだ妊娠ではなかった」と「産み育てる自信がなかった」と回答した割合は増加した（P72）。

令和6年度調査の人工妊娠中絶群において、今回の妊娠の希望と比較したところ、妊娠を希望した者ほど「子どもは欲しかったが経済的な理由で産めなかった」と回答した割合が多く（P46）、経済的に安定していれば、妊娠を継続できた可能性が示唆された。

このことは、令和6年度調査の人工妊娠中絶群は妊産婦群と比べて、本人の職業は「勤め人（非常勤・パートタイム・アルバイト等）」の割合が多く、本人の最終学歴は「中学校・高校」の割合が多かったこととも関連していると考えられる（P23、P24）。さらに、人工妊娠中絶群は妊産婦群に比べ、本人の世帯の1年間の所得が「200万円未満」の割合が多かったことから（P25）、経済的な要因も妊娠を継続できなかったことに影響していることが考えられる。

低用量ピルの使用においても、令和6年度調査の人工妊娠中絶群では、経済的に可能であれば使用したいと考えている者が半数以上を占めていた（P15）。

人工妊娠中絶群の世帯所得は低い傾向にあることから鑑みても、経済的困窮が妊娠継続や低用量ピル使用の大きな障壁となっていることが強く示唆される。

一方、令和6年度調査時において、妊娠が継続できなかった理由として、「仕事をやめたくなかった」と回答した割合は、所得が高くなるほど増加しており、統計学的な有意差が認められた（P49）。

人工妊娠中絶を選択する層の所得は、依然として低所得の割合が多い。しかし一方で、年収が高いほど仕事を理由に中絶を選択する傾向がみられたことから、キャリアと子どもとの選択、将来への不安といった多角的要因を考慮した支援の検討が必要と考えられる。

2 年代別の比較

令和6年度調査における人工妊娠中絶群の年代別の傾向や、平成26年度調査時点の人工妊娠中絶群（妊娠12週未満）の20歳代・30歳代と、令和6年度調査時点の30歳代・40歳代とを比較した。

(1) 10歳代の傾向

妊娠に気づいて医療機関を受診するまでに一週間以上を要した理由として、「産婦人科を受診するのが怖かった」と回答した割合が他の年代よりも多く（P27）、産婦人科受診への抵抗感が受診の遅れの一因になることが考えられる。

パートナーの避妊への協力では、「全く協力しない」と回答した割合が他の年代よりも多く、「いつも協力する」と回答する割合は他の年代より低い傾向があり（P29）、妊娠が継続できなかった理由として、「自分は産みたかったがパートナーが反対した」と回答した割合は年齢が若いほど多く、統計的な有意差が認められた（P38）。このことから、他の年代に比べてパートナーの協力不足が予期せぬ妊娠に至った一因になっていると考えられ、自分やパートナーの人権を尊重することの大切さの更なる普及が必要である。

主な避妊の方法として、回答者全員が「コンドーム」を使用しており（P31）、希望していない妊娠に至った理由では「避妊したので妊娠しないと思った」と回答した割合が最も多く、「避妊の知識が不足していた」と回答した者は、年齢が若いほど多く統計的な有意差が認められた（P37）。避妊をしなかった理由として「妊娠しないと思うから」と回答した割合が各年代の中で最も多く、20歳代・40歳代以降の約2倍、30歳代の約1.5倍であった（P32）。

さらに、低用量ピル（経口避妊薬）の知識については、「よく知っている、ある程度知っている」と回答した割合は、20歳代と同率で最多であった（P33）。しかし一方で、低用量ピル（経口避妊薬）の使用については、「使用したくない」と回答した割合も最も多く、他の年代の約2倍という状況であった（P34）。

このことから、10歳代は避妊方法に関する誤った理解や知識不足という課題を抱えており、低用量ピルへの抵抗感も適切な避妊行動がとれないことに関連していることが考えられる。

避妊の情報や避妊方法の普及に必要なと思う情報について、「インターネットによる情報提供」と回答した割合が最も多く、「コンドームの無料配付」と回答した者は、年齢が若いほど多く統計的な有意差が認められた（P33）。また、低用量ピル（経口避妊薬）の使用について、「経済的に可能であれば使用したい」と回答した割合が半数であり、緊急避妊薬処方希望については、「受けた」と回答した割合が64.3%で、他の年代に比べて最も多かった（P34、P40）。

このことから、10歳代はインターネットやデジタルツールが身近にある世代であることから、情報提供の手段にデジタルツールを活用することが効果的であることが考えられる。また、10歳代の多くは月経周期等も安定しておらず身体的にも成熟していない世代であり、親の監護下で経済的にも社会的にも自立していない世代であることから、妊娠や避妊に関する正しい認識と自分自身の身体を守る行動が取れる支援の検討が必要である。

(2) 20歳代の傾向

令和6年度調査において回答数が最も多い年代で、平成26年度調査と比較すると全体に占める20歳代の割合は増加していた（P55）。

妊娠に気づいて医療機関を受診するまでに一週間以上を要した理由として、20歳代以降は「仕事、学校、育児で忙しくて時間が取れなかった」と回答する割合が最も多く（P27）、日々の生活の忙しさが受診の遅れの一因になっていることが考えられる。

パートナーの避妊への協力では、「いつも協力する」「頼めばいつも協力する」と回答した割合が30歳代に次いで78.1%と多く（P29）、パートナーの協力が得られやすいことが推測される。

主な避妊の方法が「コンドーム」であることは他の年代と同様の傾向であるが、「低用量ピル」と回答していた者は20歳代のみであった（P31）。また、低用量ピルについて「よく知っている、ある

程度知っている」と回答した者が10歳代と同率で最多であり、使用についても「治療効果もあるので使用したい」と回答している者が17.2%で各年代よりも突出して多く（P34）、避妊効果以外にも有用性を感じ使用を希望する傾向が見られ、低用量ピルの使用に肯定的であることが考えられる。その一方、避妊の知識はあるものの、適切な避妊行動に繋がっていない点も課題である。

妊娠を継続できなかった理由について、「経済的な理由で産めなかった」と回答した割合が10歳代の次に多く、「望んだ妊娠でなかった」と回答した割合は40歳代以降の次に多かった（P38）。このことから、20歳代は生物学的な妊孕性が最も高い時期である一方で、就職し社会的に自立していく世代で、ライフプランやキャリア形成の時期でもあることから、経済的・時間的制約から妊娠継続を断念するケースが多いことが推測される。

（3）30歳代

公的な専門相談窓口について、「知らない」と回答した割合が最も多かったが（P28）、平成26年度調査（20歳代）と、令和6年度調査（30歳代）を比較したところ、公的相談窓口について「知っている」と回答した者は、令和6年度調査（30歳代）の方が高く5.4倍に増加しており、統計学的な有意差が認められた（P78）。このことから、この10年間の啓発の取組に一定の効果があったと考えられる。

パートナーの避妊への協力では、「いつも協力する」「頼めばいつも協力する」と回答した割合が84.7%と最も多かった（P29）。また、平成26年度調査（20歳代）と、令和6年度調査（30歳代）を比較したところ、令和6年度調査（30歳代）では「いつも協力する」と回答した割合が、平成26年度調査（20歳代）より2倍以上増加しており、統計学的な有意差が認められた（P79）。このことから、年齢の成熟に伴い、避妊等に対する自分の意思を伝えることができ、パートナーの協力が得られやすくなっている傾向が見られた。

主な避妊の方法は、「コンドーム」であることは他の年代と同様の傾向であるが、「子宮内避妊具」と回答した者は30歳代のみであった（P31）。子宮内避妊具は出産経験がある者はしやすいことから、出産後の避妊方法の一つの選択肢として、30歳以上を対象に周知することは効果的と考えられる。

避妊をしなかった理由では、「妊娠しないと思うから」と回答した割合が10歳代の次に多く45.5%であった（P32）。また、希望していない妊娠に至った理由では、「避妊したので妊娠しないと思った」と回答した割合が最も多く、「妊娠しないと思って避妊しなかった」と回答した割合は40歳代以降に次いで多く、年齢が上がるごとに増加しており、統計学的な有意差が認められた（P37）。

30歳代は、既婚者は次子の出産に対する選択（家族計画）、未婚者は「産む・産まない」の選択を考え出す時期であると考えられる。一方で、社会的に仕事の責任が増し、家事や育児の多忙さにより、自身のケアが後回しになるなど、自分の体調への関心が薄れやすい時期でもあると予想される。これらの社会的な背景に加え、「30歳代は妊孕性の漸減が始まる時期」という情報をもって、避妊行動を行わない等により、予期せぬ妊娠に繋がっていると推測される。

（4）40歳代以上

今回の妊娠時の避妊について、40歳代以降の6割が「しなかった」と回答しており（P30）、主な避妊の方法についても、他の年代に比べて「膣外射精」と回答している割合が多く、他の年代で選択されていない「基礎体温法」の回答もあった（P31）。平成26年度調査（30歳代）と、令和6年度調査（40歳代）の比較では、「コンドーム」の回答が減少し、「基礎体温法」が増加していた（P89）。

また、希望していない妊娠に至った理由として、「妊娠しないと思って避妊しなかった」と回答する者の割合は40歳代以降が最多で、年齢が上がるごとに「妊娠しないと思って、避妊しなかった」と回答する割合が増加し、統計学的な有意差が認められた（P37）。

このことから、社会一般的に40歳代は男女とも妊孕性が低下すると認識されることが多いことから、避妊行動が軽視される傾向にあると考えられ、実際に避妊効果の低い方法を選択している傾向も見られている。このことから、閉経前後のホルモンのバランスが崩れる時期における有効な避妊方法の知識が不足していることが示唆される。

パートナーの避妊への協力について、「全く協力しない」と回答した割合が、10歳代の次に多く20.0%であり（P24）、平成26年度調査（30歳代）と令和6年度調査（40歳代）の比較では、「いつも協力する」と回答した割合が、令和6年度調査（40歳代）の方が減少しており、「全く協力しない」と回答した者の割合は、令和6年度調査（40歳代）の方が増加していた（P88）。

また、今回の妊娠時の避妊について、平成26年度調査（30歳代）は「いつもしていた」と回答した割合が23.5%であったが、令和6年度調査（40歳代）では0%と大幅に減少している（P89）。

このことから、30歳代から40歳代に変化する時期の行動の特徴として、パートナーの避妊行動も非協力的な傾向が見られ、年齢を重ねることで避妊行動が軽視される傾向が示唆される。

主な避妊の方法として、「低用量ピル」の回答はなく、低用量ピルの知識について「あまり知らない、全く知らない」と回答する割合が40歳以降で多く30%を越えている（P31、P33）。

また、公的相談窓口の把握について、令和6年度調査の年代別では、年齢が上がるごとに「知らない」と回答する割合が増える傾向があり（P28）、平成26年度調査（30歳代）と令和6年度調査（40歳代）との比較では、「知っている」と回答した割合が増加した（P87）。

また、避妊の情報や避妊の方法の普及に必要な情報として、「インターネット（ホームページ）による情報提供」と「わかりやすいパンフレットによる情報提供」の回答が同率上位で、特にパンフレットによる情報提供の希望は、年齢が上がるごとに増えており、統計学的な有意差が認められた（P35）。

このことから、40歳代は、更年期移行期に伴う不規則な排卵が継続する時期で、「月経不順を“閉経”と誤解しやすい」リスクがあるにもかかわらず、閉経前後の避妊方法や、公的相談窓口等の情報提供を受ける機会が少ないことが推測される。

【まとめ】

1 予期せぬ妊娠を防ぐために必要なことについて

(1) 自身の身体の状態に関心を持ち、適切な行動がとれる土台をつくること

今回の調査において、妊娠・出産により、生活に様々な影響が及ぶ可能性のある女性自身が、避妊しない理由を「妊娠しないと思って」と回答する傾向が強く、女性自身の身体の状態に対する関心の薄さ、知識不足、認識の不十分さや油断が背景にある可能性が示唆された。

高校までにほとんどの年代の者が健康教育を受けていたり、平成26年度調査時より相談窓口の認知度は上がっている一方で、人工妊娠中絶群の75%以上が相談窓口を知らないと回答している。

この現状を鑑みると、当事者としての実感のわきにくさから、指導を受けても、知識や情報が定着せず、いざというときに「それらの知識や情報を使うことができる」というところまで、「スキルとして到達していない」可能性がある。

知識や情報が定着していない状況では、女性自身が避妊なしの性行為後においても、「妊娠したかもしれない」と危機感を感じにくいと考えられる。

人工妊娠中絶に至るケースを減少させるためには、避妊行動に対し関心が低い者や、避妊の必要性を感じにくくなる時期の者が、予期せぬ妊娠につながりうる性行動をとらないよう、「女性自身が、自らの行動を変容できるような仕組み」を検討し、女性自身の認識や行動を変えることが大切である。

また、自身の身体の状態に対し関心が薄い状態では、情報を入手するなどの行動化には繋がらない。そのため、生活習慣改善を含め、自分の状態を知り、健康管理を行うプレコンセプションケアに、女性自身が積極的に取り組む必要がある。

そのためには、自身で行う健康管理や、避妊行動に対するメリットを理解し、「どのように自分は行動すべきか」を知るための情報を、本人が速やかにアクセスでき、知りたい情報を継続的に入手しやすく、活用しやすい環境づくりが求められるのではないかと考える。

(2) 予期せぬ妊娠の可能性があった場合に正しい対処行動がとれること

適切な避妊行動をとることができなかった場合において、まずは、「妊娠したかもしれない」と考えられる「認識の土台」をつくる取組が重要である。

その上で、「妊娠したかもしれない」と思った時取るべき行動（緊急避妊薬の内服をする、妊娠診断検査薬を使用し自己検査を行う、産婦人科を受診する等）を明確にし、選択肢を知った上で「速やかに、正しく」行動ができるよう、情報の啓発を行う必要がある。

また、情報の啓発を行う際は、対処行動に伴う費用や対応可能な時期を、具体的にわかりやすく、様々な年代がアクセスできるかたちで伝えることが必要と考える。

(3) 男女ともに避妊についての正しい知識や考え方を身につけること

人工妊娠中絶に至るケースを減少させるためには、女性だけでなく、パートナーの意識や協力が不可欠である。

この10年間の啓発や教育の成果として、特に若い世代への性に関する指導により、パートナー側の行動に改善が見られた。一方で、年齢が上がるにつれて、「もう妊娠しないだろう」といった認識へ変化していくと、避妊の必要性を感じづらく、結果的に避妊行動がおろそかになる、という傾向も明らかとなった。

そのため、加齢に伴う生殖能力の変化についての正しい知識や、「パートナーは相互に対等な立場であること」、「性行為をしたら妊娠や性感染症に罹患するリスクがあること」「妊娠した場合には身体的・経済的なリスクが生じること」「避妊に協力しないことはDV（ドメスティック・バイオレンス）に該当する可能性があること」などの知識や情報を、男女双方が知り、考えることができるよう、啓発を行うことが重要と考える。

(4) 家庭でもいのちの大切さや性のことを学び、安心して相談できること

人工妊娠中絶を選択した者の中には、妊娠・出産について身近に相談できる人がいないと回答しており、実母などの家族にも相談できず、ひとりで妊娠についての不安や悩みを抱えている者が存在していた。

家庭は、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育む、教育の出発点と言われており、基本的な生活習慣から健康管理の習慣づくり、身体の変化や相手との付き合い方など、日々の対話の中で性に関する健康管理の知識を身につけ、生きる土台の形成ができると考える。

一方、保護者自身が性に関する知識を得る機会が少なく、相談を受けても適切に対応することが難しい状況もあるのではないかと推測する。

そのため、保護者が性に関する知識を得る機会の創設や、家庭内でも日頃から性について話しやすい環境の醸成を図ることなど、子どもから性的な変化や、予期せぬ妊娠の可能性について相談をうけた時に、適切に対応ができるよう、保護者に対する教育や、親子で学べる仕組みづくりが今後必要と考える。

2 プレコンセプションケアの視点での支援の重要性について

今回の宮崎県における人工妊娠中絶に関する傾向分析を通じて、妊娠への気づきの遅れ、避妊の知識不足、パートナーとの協力不足、そして経済的・社会的な背景が複雑に絡み合い、予期せぬ妊娠や人工妊娠中絶につながる構造が改めて浮き彫りになった。

これらの課題に根本的にアプローチし、より健康で計画的な妊娠・出産、そして次世代の健やかな育ちを支えるためには、「プレコンセプションケア」の視点を取り入れた支援が不可欠であると強く考える。

今回の分析では、「妊娠するとは思わなかった」「もともと月経が不規則だった」といった理由で妊娠の気づきが遅れるケースが多く見られた。プレコンセプションケアを学ぶことは、男女ともに自身の生殖機能や体の変化、生活習慣が健康に与える影響などを理解するきっかけとなる。これにより、月経不順の早期発見や改善、栄養状態の最適化など、妊娠前から健康を整える意識が芽生えたと考える。

また、「効果の低い避妊方法の選択」や「避妊への過信」は、今回の調査で悪化傾向が見られた。

プレコンセプションケアの視点で行う支援により、妊娠が成立するメカニズムや、避妊方法の正しい知識とその効果、リスクを学ぶ機会の提供が可能と考える。この知識が定着することで、個々が自身とパートナーにとって最適な避妊方法を選択し、予期せぬ妊娠を未然に防ぐための行動化につながることを期待される。

加えて、「パートナーの協力不足」は、人工妊娠中絶群において顕著な傾向であり、特に予期せぬ妊娠の場合においては顕著だった。プレコンセプションケアは、妊娠・出産が男女双方の関わりであることを前提とし、お互いの健康状態や将来の希望について話し合い、理解し、協力する関係性を育むことを促す。相手のからだの状態や立場を理解することで、避妊行動や家族計画において、より責任のある行動へとつながると考える。

プレコンセプションケアは、男女が自身の健康に主体的に向き合い、パートナーと協力しながら、予期せぬ妊娠の減少、健康な妊娠・出産、そして次世代の健やかな育ちを実現するための重要な基盤となる。特に、今回の分析で明らかになった年代別の課題（若い世代の知識不足、30歳代～40歳代の避妊意識低下など）に対しても、それぞれのライフステージに応じたプレコンセプションケアの実践が必要と考える。

【今後の方向性】

これまでの考察内容を踏まえ、今後の本県の予期せぬ妊娠を防ぎ、県民が自分らしく、自分の理想の人生を歩むために、「知らなかった」がないよう、「正しく、広く、継続的に」届く啓発や、自らが気づき、考え、行動できるような仕組みについて、各機関の専門性を発揮しながら検討し、連携を図りながら支援体制を構築していく必要がある。

今回の分析により、年代ごとに、伝える情報や手法、伝えるメッセージが異なり、年代別特徴を踏まえたアプローチの必要性が示唆されたことから、効果的と思われる方法について整理した。

1 年代別アプローチについて

1) 10 歳代・・・ヘルスリテラシーの基盤形成とピア教育の推進

若い世代に対しては、日常的に使用するプラットフォームに情報を流し、無関心層にも繰り返し届くよう、SNS (Instagram、TikTok 等) のデジタル媒体を活用するなどして情報発信を強化する。

学校現場では、生命 (いのち) の安全教育に基づく「性的同意」に関して、児童生徒の発達段階に応じて教育活動全体を通して指導するとともに、加えて、プレコンセプションケアの視点も含め、将来のライフプランを具体的に描くシミュレーションができるよう取組を検討する。併せて、現在実施しているピア教育も、若い世代の共感が得られやすく、年代の近い者の体験談等を聞くことで、より「自分事」として考えることが可能となるため、引き続き実施をすることを検討する。

また、地域の医療分野や教育分野、行政 (福祉保健分野) との連携の中で、若い世代が性のことや身体のことなどを話しやすく、気軽に性について学べる場の提供や、産婦人科受診の心理的・物理的ハードルを下げるための取組の検討を通し、若い時期に専門家と繋がる環境の整備を図る。

2) 20 歳代・・・受診等へのアクセスの利便性向上とキャリアデザインの融合

就労等で多忙な層に向け、オンライン診療や薬局での緊急避妊薬へのアクセスを改善する。

低用量ピルや子宮内避妊具等について、費用対効果を含めた正しい知識を普及させる。

また、企業等への働きかけを通し、職場における「キャリアデザイン研修」の一環として、本調査にて得られた結果を踏まえた健康管理やライフイベントの両立に向けた家族計画の設計等に関する情報提供を男女ともに行き、予期せぬ妊娠によるキャリアデザインの変更を防ぐ。

3) 30 歳代・・・ライフステージに応じた家族計画の再設計と家庭内教育の支援

出産経験者を含むこの層には、産後から次の妊娠までの期間における健康管理 (インターコンセプションケア) も重要である。そのため、出産後の健診時や乳幼児健診、小児科受診等の場を捉えた「家族計画の再設計」を支援する。

企業においては、育児休業からの復職時などの面談を活用し、次の妊娠を含めたライフプランの相談体制を構築する。

また、保護者が子どもに性に関する指導を行うためのツールなどを検討する。

30 歳代以降は、SNS やインターネットメディア以外にも、パンフレットによる啓発も併用する。

4) 40 歳代以上・・・更年期へと向かう女性の身体と妊娠による母体リスクへの正しい理解

閉経に至るまでの確実な避妊と、高年齢妊娠に伴う母体リスクについての啓発を継続する。

更年期障害の相談やがん検診、かかりつけ医での受診機会を捉え、パンフレット配布等の対面型アプローチを実施する。

健康教育を受ける機会が減少する世代に対し、一次医療機関と連携したきめ細やかな情報提供を行う。

5) 全年齢・・・避妊は二人で一緒に考えることの浸透と社会制度の周知

避妊や予期せぬ妊娠を女性だけの問題とするのではなく、男女ともに考え、「避妊は二人で行う」ことが大切であることを、社会全体に浸透させるための取組を強化する。

その際、適切な避妊行動によって得られる精神的・身体的なメリットと、避妊を行わなかった際に生じる様々な影響 (身体的負担、経済的損失、ライフプランへの影響) を、具体的かつ科学的な根拠に基づいて提示し、主体的な選択を促す。

また、孤立の防止と支援情報の可視化を推進するため、「一人で悩まないでほしい」というメッセージとともに、幅広い対象年齢や相談内容、相談方法のニーズに応えられる様々な形態の公的な相談窓口の設置及び専門機関の存在を様々な機会や手法で周知し、心理的なセーフティネットを強化

する。

万が一、人工妊娠中絶を選択せざるを得ない場合であっても、いわゆる経口中絶薬や吸引法といった最新の知見を含め、早期に対応することで身体的・経済的負担を最小限に抑えられることを正しく伝えることができるよう、必要な情報が集約された見やすいホームページの設置など情報へのアクセス向上を促す。

さらに、個々の置かれた経済的・社会的背景に寄り添った支援を検討する。経済的理由や関係性の課題により避妊が困難な層に対し、最も実行しやすい避妊法は何かを当事者が主体的に考えられるような情報提供を行う。そして、妊娠・出産・育児資金や自信がないなどの理由で、人工妊娠中絶を選択する対象者が利用可能な福祉制度の情報に繋がるよう、各相談機関において情報提供を行う。

2 昨今の制度改正や社会情勢を踏まえた相談支援、援助の方法

1) SRHR やプレコンセプションケアの概念の普及、エンパワーメントの視点での支援

SRHR（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツ）とは、「性と生殖に関する健康と権利」を意味し、「性や子どもを産むことに関わる全てにおいて、身体的にも精神的にも社会的にも良好な状態であること」、「自分の意思が尊重され、自分の身体に関することを自分自身で決められる権利」を指す考え方である。

予期せぬ妊娠による「人工妊娠中絶を減らす」ことはもとより、女性自身が自分の身体を理解し、健康管理を行う中で自分の健康を守る行動を選択できる、プレコンセプションケアの考え方やSRHRの考え方を踏まえ、「将来の自分の健康と人生をデザインする」というポジティブな概念で対象にアプローチする。

2) 緊急避妊薬のOTC化に伴う、薬局での相談支援・指導

令和8年2月より、要指導医薬品である緊急避妊薬の販売が開始され、一定の要件を満たした薬局において処方が可能となった。このことは、医療職である薬剤師が、妊娠への不安を抱えながら、様々な背景を持って、緊急避妊薬の処方を希望する対象者と早期に接することができる機会が増えることとなる。

そこで、緊急避妊薬を販売する薬局が「相談の入り口」となって、薬剤師からの適切な避妊方法の情報提供が受けられることが望まれる。このため、内服指導の際に対象者へ配布するパンフレット等を県薬剤師会と協力しながら作成し、薬局での内服指導の際に配布するなどして、予期せぬ妊娠や性暴力等に関する相談先や避妊に関する情報の普及啓発を実施する。

3) プレコンサポーターによる普及啓発

プレコンサポーターとは、プレコンセプションケアを推進することを目的とし、自治体・企業・教育機関等において、性別を問わず、性や健康に関する正しい知識の普及を図り、健康管理を行うよう促す人材である。プレコンサポーター養成講座が、令和8年1月より開始となっている。

支援に携わる機関の職員、教員、医療職等にこの制度を周知し、広く受講してもらい、プレコンセプションケアの視点で、日頃の生活習慣や自身のからだの状態の把握、適切な避妊行動や不安になった時取るべき行動を伝えるなど、様々な場で支援を実施する。

3 予期せぬ妊娠で悩む対象者を地域で支える機関について

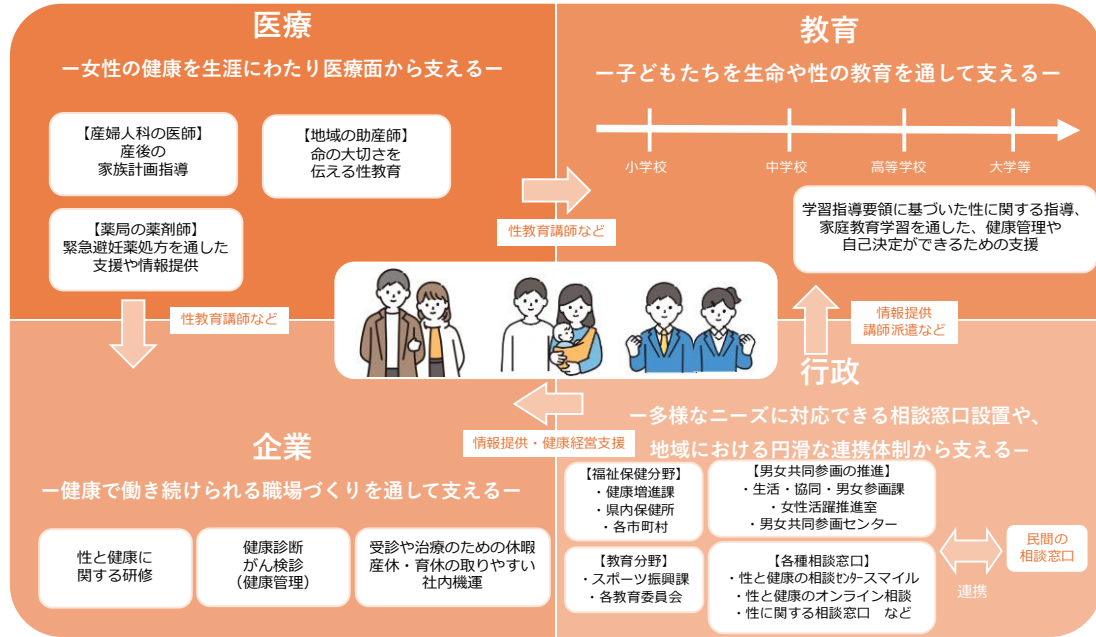
本県においては、医療、保健、福祉、教育などの分野の機関が、これまでも予期せぬ妊娠で悩む対象者等に対し、適切な対処行動を取ることができるよう、指導・助言・支援を行っている。

各機関が担う役割や特徴は多様であるが、ひとつの機関のみの取組では、様々な背景を持つ対象への支援は困難である。

あらゆる専門性を持つ地域の支援者同士がつながりを持ち、相互に情報交換や相談ができる関係性となることで、連携して対象者を支援していくことができ、誰もが取り残されることのない、自分らしい人生の選択ができる包括的な支援体制構築が可能となると考える。

以下の図は、予期せぬ妊娠で悩む対象者を地域で支える機関の関係性を示すものである。特に本県において設置している相談機関同士のより一層の連携や、企業に対し働きかけを積極的に行うなどして、幅広い年代の対象を包括的に支援する体制整備を引き続き行っていく。

【地域における支援機関の連携イメージ図】



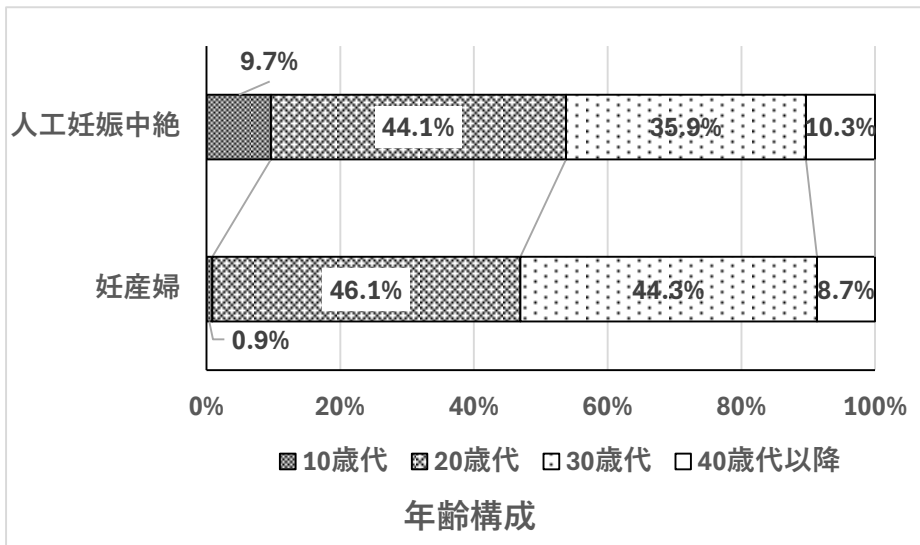
5 資料編

(1) アンケート結果	106
(2) アンケート調査票	111
【調査票①】人工妊娠中絶に関するアンケート調査票		
【調査票②】妊娠・出産に関するアンケート調査票		
(3) データ集	127

(1)アンケート結果

◆協力者の概要

[図1 年齢構成]

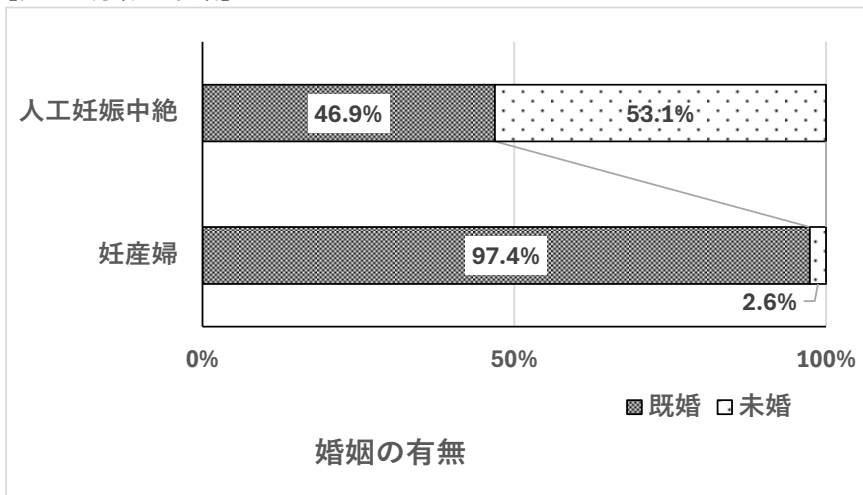


[表1 年齢構成]

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代以降	合計
人工妊娠中絶	14	64	52	15	145
	9.7%	44.1%	35.9%	10.3%	
妊産婦	1	53	51	10	115
	0.9%	46.1%	44.3%	8.7%	

◆既婚・未婚

[図2 既婚・未婚]

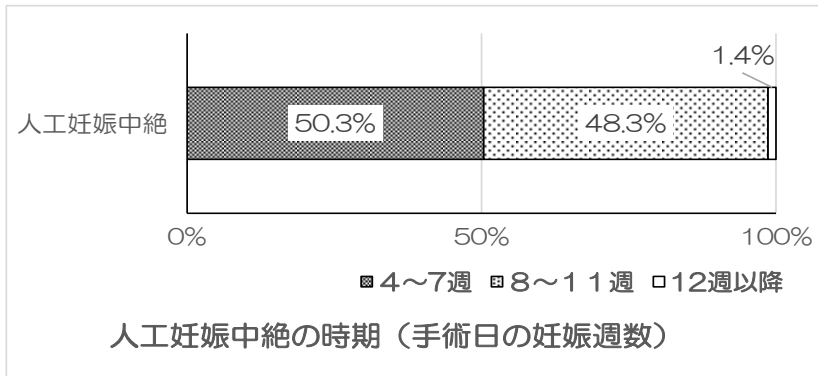


[表2 既婚・未婚]

	既婚	未婚	合計
人工妊娠中絶	68	77	145
	46.9%	53.1%	
妊産婦	112	3	115
	97.4%	2.6%	

◆人工妊娠中絶の時期

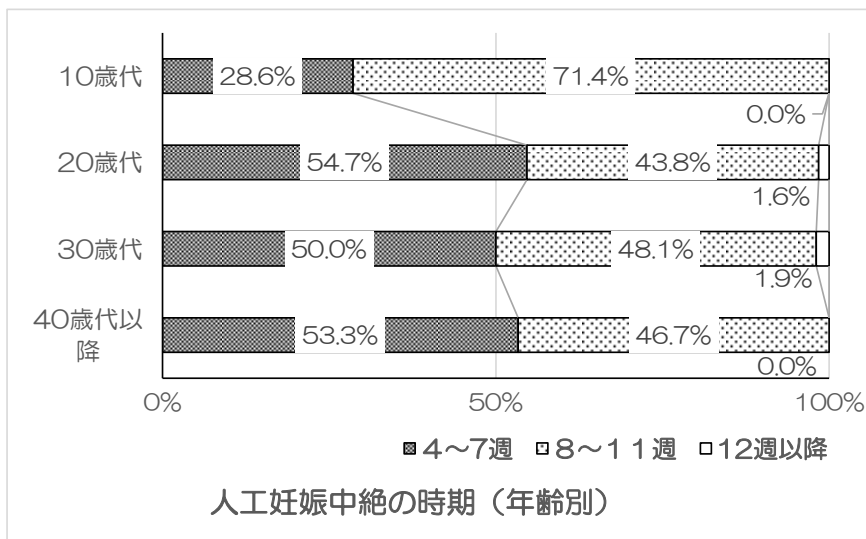
[図 3-1 人工妊娠中絶の時期]



[表 3-1 人工妊娠中絶の時期]

	4~7週	8~11週	12週以降	合計
人工妊娠中絶	73	70	2	145
	50.3%	48.3%	1.4%	

[図 3-2 人工妊娠中絶の時期 (年齢別)]



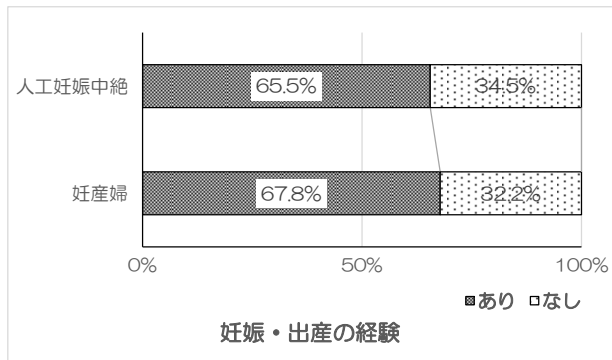
[表 3-2 人工妊娠中絶の時期 (年齢別)]

	4~7週	8~11週	12週以降	合計
10歳代	4	10	0	14
	28.6%	71.4%	0.0%	
20歳代	35	28	1	64
	54.7%	43.8%	1.6%	
30歳代	26	25	1	52
	50.0%	48.1%	1.9%	
40歳代以降	8	7	0	15
	53.3%	46.7%	0.0%	
合計	73	70	2	145
	50.3%	48.3%	1.4%	

◆ 「妊娠、出産の経験（今回の妊娠は含めない）はありますか。」

（人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問1）

[図 4-1 妊娠・出産の経験]

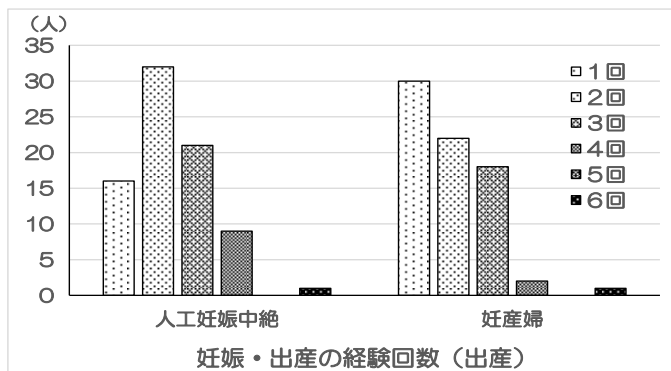


[表 4-1 妊娠・出産の経験]

	あり	なし	合計
人工妊娠中絶	95	50	145
	65.5%	34.5%	
妊産婦	78	37	115
	67.8%	32.2%	

○妊娠・出産の経験がある人の出産・流産・人工妊娠中絶の経験回数

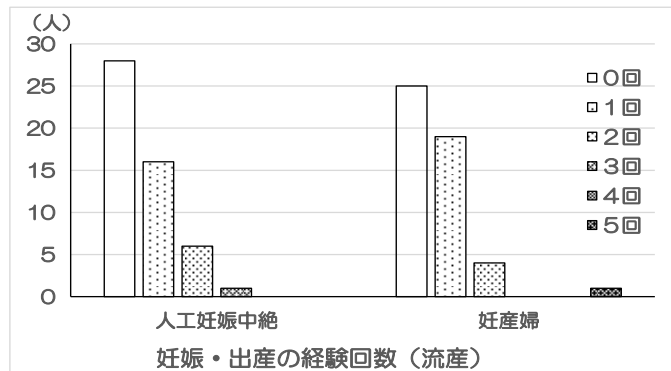
[図 4-2 妊娠・出産の経験(出産)]



[表 4-2 妊娠・出産の経験(出産)]

	人工妊娠中絶 (n=95)	妊産婦 (n=78)
1回	16	30
2回	32	22
3回	21	18
4回	9	2
5回	0	0
6回	1	1
合計	79	73

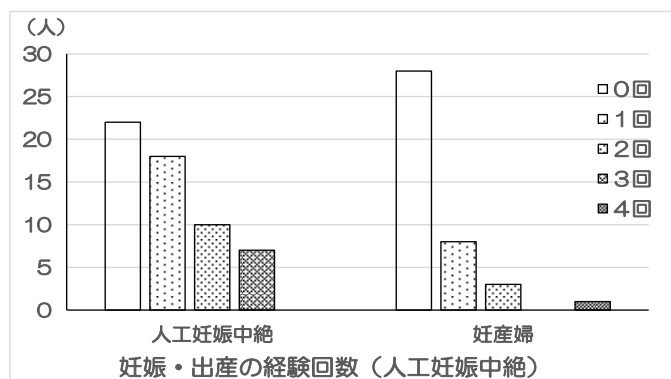
[図 4-3 妊娠・出産の経験(流産)]



[表 4-3 妊娠・出産の経験(流産)]

	人工妊娠中絶 (n=95)	妊産婦 (n=78)
0回	28	25
1回	16	19
2回	6	4
3回	1	0
4回	0	0
5回	0	1
合計	51	49

[図 4-4 妊娠・出産の経験(人工妊娠中絶)]

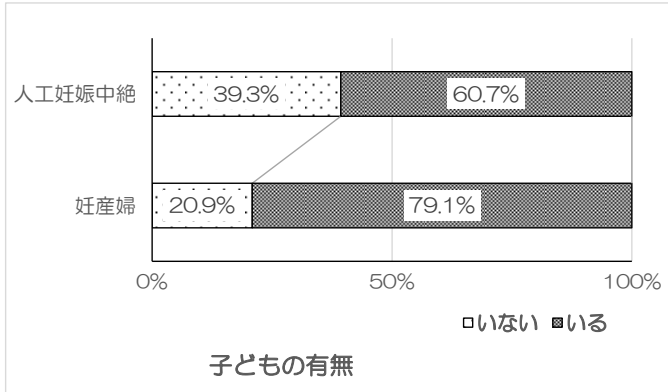


[表 4-4 妊娠・出産の経験(人工妊娠中絶)]

	人工妊娠中絶 (n=95)	妊産婦 (n=78)
0回	22	28
1回	18	8
2回	10	3
3回	7	0
4回	0	1
合計	57	40

- ◆ 「あなたには、現在お子さんがいますか。」
 (人工妊娠中絶調査票①、妊産婦調査票②：問2)

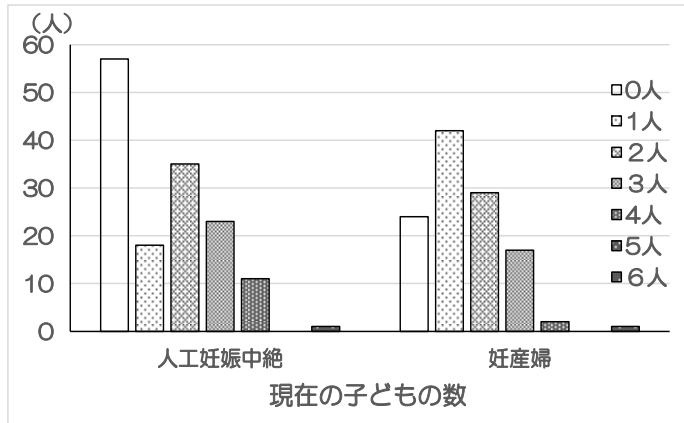
[図 5-1 子どもの有無]



[表 5-1 子どもの有無]

	いない	いる	合計
人工妊娠中絶	57	88	145
	39.3%	60.7%	
妊産婦	24	91	115
	20.9%	79.1%	

[図 5-2 現在の子どもの数]



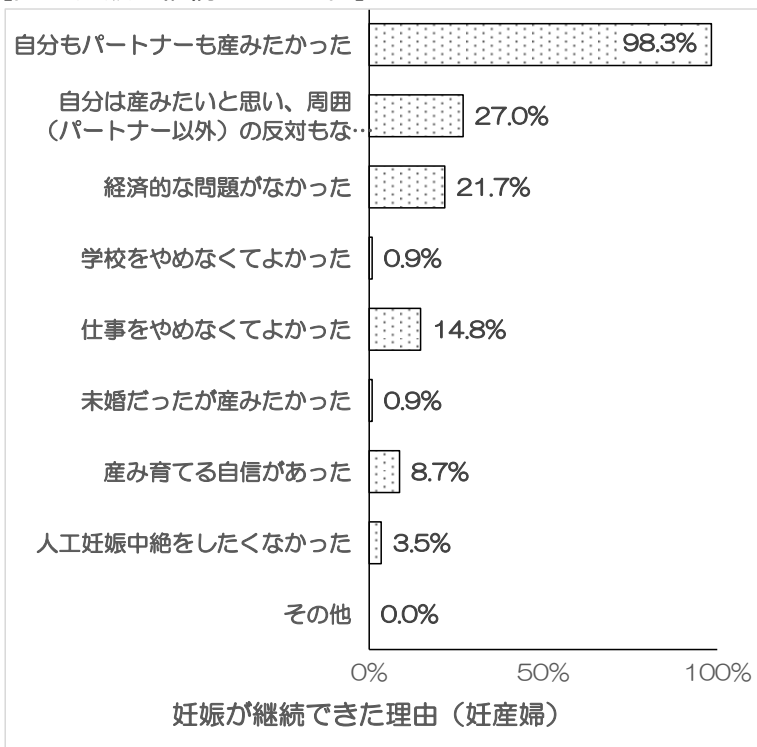
[表 5-2 現在の子どもの数]

	人工妊娠中絶	妊産婦
いない(0人)	57	24
いる	88	91
1人	18	42
2人	35	29
3人	23	17
4人	11	2
5人	0	0
6人	1	1
合計	145	115

(※問9「医療機関を受診したのは妊娠に気づいてから何週間後でしたか。」の回答と「人工妊娠中絶の時期」の回答で整合性がとれず、質問の仕方に問題があったため、問9の結果は記載しない。)

◆ 「妊娠が継続できた理由は何ですか。」（妊産婦調査票②：問 19）

[図 6 妊娠が継続できた理由]



[表 20 妊娠が継続できた理由]

	妊産婦
自分もパートナーも産みたかった	113
	98.3%
自分は産みたいと思い、周囲（パートナー以外）の反対もなかった	31
	27.0%
経済的な問題がなかった	25
	21.7%
学校をやめなくてよかった	1
	0.9%
仕事をやめなくてよかった	17
	14.8%
未婚だったが産みたかった	1
	0.9%
産み育てる自信があった	10
	8.7%
人工妊娠中絶をしなくなかった	4
	3.5%
その他	0
	0.0%
回答者の数	115

(2)アンケート調査票

【調査票①】人工妊娠中絶に関するアンケート調査票

【調査票②】妊娠・出産に関するアンケート調査票

人工妊娠中絶に関するアンケート調査票

◆調査への同意

この調査にご協力いただける場合は、□欄にチェックをお願いいたします。

この調査に協力します。

◆年齢

あなたの年代をお選びください。(アンケートを記入した年齢)

- 10代
- 20代
- 30代
- 40代以降

◆婚姻

既婚か未婚かお選びください。

- 既婚
- 未婚

◆手術の妊娠週数

妊娠週数についてご自身で分からない場合は、病院スタッフにお尋ねください。

- 妊娠 週

【1】妊娠、出産の経験

問1 妊娠、出産の経験(今回の妊娠は含めない)はありますか。

- 1 なし 2 あり

[2 あり] を選択した方]

出産の経験

出産された経験のある方は、回数を入力ください。

- 出産 回

流産の経験

流産された経験のある方は、回数を入力ください。

- 流産 回

人工妊娠中絶の経験

人工妊娠中絶された経験のある方は、回数を入力ください。

- 人工妊娠中絶 回

【2】現在のお子さんの数

問2 あなたには、現在お子さんがいますか。

- 1 いない 2 いる ()人

[2 いる] を選択した方]

お子さんの人数

お子さんがいる方は、人数を入力ください。

- 人

【3】お子さんの希望

問3 あなたは子どもを何人ほしいと思いますか。

- 1 ほしくない 2 ほしい

[2 ほしい] を選択した方]

ほしい子どもの人数

子どものほしい人数を入力ください。

(現在お子さんがいる方は、その子どもを含めて何人ほしいですか。)

- 人

【4】妊娠に初めて気づいた理由

問4 今回の妊娠について伺います。どのようなことで、妊娠に初めて気づきましたか。ひとつだけお選びください。

- 1 月経が遅れた 2 吐き気(つわり) 3 乳房が大きくなった 4 お腹が大きくなってきた
5 胎動を感じた 6 その他()

【5】今回の妊娠に気づいた週数

問5 今回の妊娠に気づいたのは妊娠何週目でしたか。

- 週目

【6】妊娠に気づく時期

問6 妊娠に気づく時期としては早かったと思いますか。遅かったと思いますか。

- 1 早かった 2 遅かった

【7】妊娠に気づくのが遅かったと思う理由 [問6で「2 遅かった」を選択した方]

問7 妊娠に気づくのが遅くなったと思う理由をお聞かせください。当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 妊娠するとは思わなかった
- 2 妊娠の初期の兆候を知らなかった
- 3 妊娠の初期の兆候はあったが妊娠とは思わなかった
- 4 もともと月経が不規則だった
- 5 つわりがなかった
- 6 その他()

【8】市販の妊娠検査試薬での確認

問8 受診前に市販の妊娠検査試薬で妊娠を確認しましたか。

- 1 はい 2 いいえ

[1 はい を選択した方]

- 妊娠週数
妊娠何週目で検査を行いましたか。
 週目

【9】妊娠に気づいてから医療機関受診した週数

問9 医療機関を受診したのは妊娠に気づいてから何週後でしたか。

- 週後

【10】妊娠に気づいてから医療機関受診に一週間以上を要した理由

問10 妊娠に気づいてから医療機関を受診するまでに一週間以上を要した方にお聞きします。

その理由に当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 心配で確認できなかった
- 2 医療機関を受診するための費用がなかった
- 3 仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった
- 4 身近に相談できる人がいなかった
- 5 相談できる専門機関を知らなかった
- 6 産婦人科を受診するのが怖かった
- 7 その他()

【11-1】手術の時期の理由 (手術の時期が妊娠第12週未満の方)

問11-1 手術の時期が妊娠12週より早かったのはなぜですか。理由に当てはまるものをいくつでも選んでください。

- 1 妊娠に気づくのが早かった
- 2 相談する相手がいた
- 3 早く決断できた
- 4 話し合いに時間がかからなかった
- 5 手術費用の工面に時間がかからなかった
- 6 中絶する医療機関の選択に迷わなかった
- 7 学校や仕事の調整ができ、休みがとれた
- 8 その他()

【11-2】手術の時期の理由（手術の時期が妊娠第12週以降の方）

問11-2 手術の時期が妊娠12週以降になったのはなぜですか。理由に当てはまるものをいくつでも選んでください。

- 1 妊娠に気づくのが遅れた
- 2 相談する相手がいないかった
- 3 どうしたらよいか決断できなかった
- 4 話し合いに時間がかかった
- 5 手術費用の工面に時間がかかった
- 6 中絶する医療機関の選択に迷った
- 7 学校や仕事の都合で休みがとることが難しかった
- 8 その他()

【12】妊娠・出産について身近に相談できる人

問12 妊娠・出産について身近に相談できる人がいますか。

- 1 いる 2 いない

[1 いる を選択した方]

相談者

身近に相談できる人は誰ですか。

当てはまるものをいくつでも選んでください。

- 1 パートナー 2 友達 3 きょうだい 4 学校の先生 5 父親 6 母親
- 7 その他()

【13】今回の妊娠について最初に相談した人

問13 今回の妊娠について最初に相談したのは誰ですか。

- 1 今回のパートナー 2 友達 3 きょうだい 4 学校の先生 5 医師 6 父親
- 7 母親 8 誰にも話していない 9 その他()

【14】公的な専門相談窓口

問14 思いがけない妊娠について、公的な専門相談窓口があることを知っていますか。

- 1 知っている(スマイル・あいにて・その他) 2 知らない

【15】パートナーの避妊への協力

問15 セックス(性交)の時、パートナーは避妊に協力をしますか。

- 1 いつも協力する 2 頼めばいつも協力する 3 頼めば時々協力する 4 全く協力しない

【16】避妊について

問16 今回の妊娠に関して、避妊をしましたか。

- 1 いつもしていた 2 時々していた 3 しなかった

【17】主な避妊方法 [問16で「1 いつもしていた」「2 時々していた」を選択した方]

問17 主な避妊の方法は何でしたか。ひとつだけお選びください。

- 1 コンドーム
- 2 低用量ピル(経口避妊薬)
- 3 基礎体温法
- 4 殺精子剤
- 5 ペッサリー
- 6 膣外射精
- 7 子宮内避妊具
- 8 その他()

【18】避妊をしなかった理由 [問16で「3 しなかった」を選択した方]

問18 避妊をしなかった理由で近いものをひとつだけお選びください。

- 1 妊娠したかったから
- 2 めんどうだから
- 3 相手が協力してくれないから
- 4 妊娠しないと思うから
- 5 費用がかかるため
- 6 避妊方法を知らない
- 7 わからない
- 8 その他()

【19】低用量ピル(経口避妊薬)

問19 あなたは、低用量ピル(経口避妊薬)を知っていますか。

- 1 よく知っている
- 2 ある程度知っている
- 3 あまり知らない
- 4 まったく知らない

【20】低用量ピル(経口避妊薬)の使用

問20 あなたは、低用量ピル(経口避妊薬)を使用してみたいと思いますか。

- 1 経済的に可能であれば使用したい
- 2 処方する医療機関が分かれば使用したい
- 3 避妊以外に治療効果(月経不順や子宮内膜症等の治療)もあるので使用したい
- 4 使用したくない
- 5 その他

【21】避妊についての情報等

問21 避妊についての情報や避妊方法が普及するには、どのようなことが必要だと思いますか。

当てはまるものをいくつでも選んでください。

- 1 気軽に相談できるセンター(電話や面接相談など)
- 2 同年代の正しい知識を持った仲間(ピア)からの情報提供
- 3 インターネット(ホームページ)による情報提供
- 4 わかりやすいパンフレットによる情報提供
- 5 親子で話し合うための教材の情報提供
- 6 いろいろな世代も含めた男女のつきあい方を学ぶ教室
- 7 コンドームの無料配付
- 8 子宮内避妊具の費用の公費補助
- 9 低用量ピル(経口避妊薬)をもっと入手しやすくする
- 10 その他()

【22】性に関する教育

問22 あなたは学生のころに、性に関する教育(性交、妊娠、出産、避妊等)を受けたことがありますか。
当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 小学生の時に受けた
- 2 中学生の時に受けた
- 3 高校生の時に受けた
- 4 専門学校、大学等(高卒後)で受けた
- 5 一度も受けたことがない
- 6 わからない

【23】妊娠の希望

問23 今回の妊娠は希望した妊娠ですか。

- 1 希望した
- 2 希望していない

【24】希望していない妊娠に至った理由 [問23で「2 希望していない」を選択した方]

問24 希望していない妊娠に至った理由に当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 避妊のことは考えなかった
- 2 避妊するのが面倒くさかった
- 3 妊娠しないと思って、避妊しなかった
- 4 避妊具がなかったので、避妊できなかった
- 5 求められて「いや」と言えなかった
- 6 「避妊してほしい」と言えなかった
- 7 「避妊してほしい」と言ったが断られた
- 8 避妊したので、妊娠しないと思った(うまくできなかった。失敗した)
- 9 避妊の知識が不足していた
- 10 その他()

【25】妊娠が継続できなかった理由

問25 妊娠が継続できなかった理由に当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 自分は産みたかったがパートナーが反対した
- 2 産みたかったが周囲(パートナー以外)の反対が強かった
- 3 まだ子どもがほしくなかった
- 4 子どもはいるのでこれ以上ほしくなかった
- 5 子どもはほしかったが、経済的な理由で産めなかった
- 6 学校をやめたくなかった
- 7 仕事をやめたくなかった
- 8 産み育てる自信がなかった
- 9 望んだ妊娠ではなかった
- 10 その他()

【26】人工妊娠中絶ができる妊娠週数

問26 人工妊娠中絶は、母体への影響が大きいので、人工妊娠中絶ができる妊娠週数が法律で定められていることを知っていましたか。

- 1 知っていた 2 知らなかった

[1 知っていた を選択した方]

法律で定められている妊娠週数

妊娠何週までかご存知ですか。

- 1 12 週未満 2 16 週未満 3 22 週未満 4 24 週未満

【27】緊急避妊薬

問27 避妊をしなかった、または避妊に失敗した時、医療機関で緊急避妊薬の処方を受けられることを知っていますか。(緊急避妊薬は、性交から 72 時間以内に薬を内服することで高い割合で妊娠を防ぐことができます)

- 1 知っている 2 知らない

【28】緊急避妊薬の希望

問28 緊急避妊薬のことを知っていたら、医療機関で緊急避妊薬の処方を受けましたか。

- 1 受けた 2 受けない

【29】あなたの職業

問29 あなたの職業は何ですか。ひとつだけお選びください。

- 1 勤め人(常勤)
- 2 勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)
- 3 自営業(事業の経営者・家事の手伝い・内職など)
- 4 学生
- 5 主婦
- 6 無職

【30】あなたの最終学歴

問30 あなたが最後に卒業した(または在学中の)学校はどれですか。

- 1 中学校
- 2 高校
- 3 専門学校(中卒後)
- 4 専門学校(高卒後)
- 5 短大、高専
- 6 大学・大学院

【31】 あなたの世帯の1年間の所得

問31 あなたの世帯の1年間の所得はいくらですか。もっとも近いものをひとつお選びください。
なお、独身で親と同居されている場合、家計を別にされておれば、別の世帯とお考えください。

- 1 200万円未満
- 2 200万円以上～600万円未満
- 3 600万円以上
- 4 わからない

【32】 パートナーの職業

問32 パートナーの職業は何ですか。ひとつだけお選びください。
パートナーがいない方は【35】へお進みください。

- 1 勤め人(常勤)
- 2 勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)
- 3 自営業(事業の経営者・家事の手伝い・内職など)
- 4 学生
- 5 主婦
- 6 無職

【33】 パートナーの最終学歴

問33 パートナーが最後に卒業した(または在学中の)学校はどれですか。

- 1 中学校
- 2 高校
- 3 専門学校(中卒後)
- 4 専門学校(高卒後)
- 5 短大、高専
- 6 大学・大学院

【34】 あなたとパートナーの関係性

問34 あなたとパートナーとの関係性に当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 話を聞いてくれる
- 2 相談に乗ってくれる
- 3 安心できる
- 4 思いやりがある
- 5 協力してくれる
- 6 暴力行為(身体的・性的・精神的な乱暴行為)がない
- 7 その他()

【35】 人工妊娠中絶(人工死産)に関して困っていることや御意見

問35 人工妊娠中絶(人工死産)に関して困っていることや御意見などがありましたら何でも、お聞かせください。

御協力まことにありがとうございました。

妊娠・出産に関するアンケート調査票

◆調査への同意

この調査にご協力いただける場合は、欄にチェックをお願いいたします。

この調査に協力します。

◆年齢

あなたの年代をお選びください。(アンケートを記入した年齢)

- 10代
- 20代
- 30代
- 40代以降

◆婚姻

既婚か未婚かお選びください。

- 既婚
- 未婚

【1】妊娠、出産の経験

問1 妊娠、出産の経験(今回の妊娠は含めない)はありますか。

- 1 なし 2 あり

[2 あり] を選択した方]

出産の経験

出産された経験のある方は、回数を入力ください。

- 出産 回

流産の経験

流産された経験のある方は、回数を入力ください。

- 流産 回

人工妊娠中絶の経験

人工妊娠中絶された経験のある方は、回数を入力ください。

- 人工妊娠中絶 回

【2】現在のお子さんの数

問2 あなたには、現在お子さんがいますか。

- 1 いない 2 いる ()人

[2 いる] を選択した方]

お子さんの人数

お子さんがいる方は、人数を入力ください。

- 人

【3】お子さんの希望

問3 あなたは子どもを何人ほしいと思いますか。

- 1 ほしくない 2 ほしい

[2 ほしい] を選択した方]

ほしい子どもの人数

子どものほしい人数を入力ください。

(現在お子さんがいる方は、その子どもを含めて何人ほしいですか。)

- 人

【4】妊娠に初めて気づいた理由

問4 今回の妊娠について伺います。どのようなことで、妊娠に初めて気づきましたか。ひとつだけお選びください。

- 1 月経が遅れた 2 吐き気(つわり) 3 乳房が大きくなった 4 お腹が大きくなってきた
5 胎動を感じた 6 その他()

【5】今回の妊娠に気づいた週数

問5 今回の妊娠に気づいたのは妊娠何週目でしたか。

- 週目

【6】妊娠に気づく時期

問6 妊娠に気づく時期としては早かったと思いますか。遅かったと思いますか。

- 1 早かった 2 遅かった

【7】妊娠に気づくのが遅かったと思う理由 [問6で「2 遅かった」を選択した方]

問7 妊娠に気づくのが遅くなったと思う理由をお聞かせください。当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 妊娠するとは思わなかった
- 2 妊娠の初期の兆候を知らなかった
- 3 妊娠の初期の兆候はあったが妊娠とは思わなかった
- 4 もともと月経が不規則だった
- 5 つわりがなかった
- 6 その他()

【8】市販の妊娠検査試薬での確認

問8 受診前に市販の妊娠検査試薬で妊娠を確認しましたか。

- 1 はい
- 2 いいえ

[1 はい を選択した方]

妊娠週数
妊娠何週目で検査を行いましたか。
 週目

【9】妊娠に気づいてから医療機関受診した週数

問9 医療機関を受診したのは妊娠に気づいてから何週後でしたか。

- 週後

【10】妊娠に気づいてから医療機関受診に一週間以上を要した理由

問10 妊娠に気づいてから医療機関を受診するまでに一週間以上を要した方にお聞きします。

その理由に当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 心配で確認できなかった
- 2 医療機関を受診するための費用がなかった
- 3 仕事・学校・育児で忙しく時間が取れなかった
- 4 身近に相談できる人がいなかった
- 5 相談できる専門機関を知らなかった
- 6 産婦人科を受診するのが怖かった
- 7 その他()

【11】妊娠・出産について身近に相談できる人

問11 妊娠・出産について身近に相談できる人がいますか。

- 1 いる
- 2 いない

[1 いる を選択した方]

相談者
身近に相談できる人は誰ですか。
当てはまるものをいくつでも選んでください。

- 1 パートナー
- 2 友達
- 3 きょうだい
- 4 学校の先生
- 5 父親
- 6 母親
- 7 その他()

【19】妊娠が継続できた理由

問19 妊娠が継続できた理由に当てはまるものをいくつか選んでください。

- 1 自分もパートナーも産みたかった
- 2 自分は産みたいと思い、周囲(パートナー以外)の反対もなかった
- 3 経済的な問題がなかった
- 4 学校を辞めなくてよかった
- 5 仕事を辞めなくてよかった
- 6 未婚だったが産みたかった
- 7 産み育てる自信があった
- 8 人工妊娠中絶をしなくなかった
- 9 その他()

【20】低用量ピル(経口避妊薬)

問20 あなたは、低用量ピル(経口避妊薬)を知っていますか。

- 1 よく知っている
- 2 ある程度知っている
- 3 あまり知らない
- 4 まったく知らない

【21】低用量ピル(経口避妊薬)の使用

問21 あなたは、低用量ピル(経口避妊薬)を使用してみたいと思いますか。

- 1 経済的に可能であれば使用したい
- 2 処方する医療機関が分かれば使用したい
- 3 避妊以外に治療効果(月経不順や子宮内膜症等の治療)もあるので使用したい
- 4 よくわからないので使用しない

【22】避妊についての情報等

問22 避妊についての情報や避妊方法が普及するには、どのようなことが必要だと思いますか。
(当てはまるものをいくつか選んでください。)

- 1 気軽に相談できるセンター(電話や面接相談など)
- 2 同年代の正しい知識を持った仲間(ピア)からの情報提供
- 3 インターネット(ホームページ)による情報提供
- 4 わかりやすいパンフレットによる情報提供
- 5 親子で話し合うための教材の情報提供
- 6 いろいろな世代も含めた男女のつきあい方を学ぶ教室
- 7 コンドームの無料配付
- 8 子宮内避妊具の費用の公費補助
- 9 低用量ピル(経口避妊薬)をもっと入手しやすくする
- 10 その他()

【23】 性に関する教育

問23 あなたは学生のころに、性に関する教育(性交、妊娠、出産、避妊等)を受けたことがありますか。
当てはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 小学生の時に受けた
- 2 中学生の時に受けた
- 3 高校生の時に受けた
- 4 専門学校、大学等(高卒後)で受けた
- 5 一度も受けたことがない
- 6 わからない

【24】 公的な専門相談窓口

問24 妊娠・出産について、公的な専門相談窓口があることを知っていますか。

- 1 知っている(スマイル・あいにて・その他) 2 知らない

【25】 人工妊娠中絶ができる妊娠週数

問25 人工妊娠中絶は、母体への影響が大きいため、人工妊娠中絶ができる妊娠週数が法律で定められていることを知っていましたか。

- 1 知っていた 2 知らなかった

[1 知っていた を選択した方]

法律で定められている妊娠週数

妊娠何週までかご存知ですか。

- 1 12 週未満 2 16 週未満 3 22 週未満 4 24 週未満

【26】 緊急避妊薬

問26 避妊をしなかった、または避妊に失敗した時、医療機関で緊急避妊薬の処方を受けられることを知っていますか。(緊急避妊薬は、性交から 72 時間以内に薬を内服することで高い割合で妊娠を防ぐことができます)

- 1 知っている 2 知らない

【27】 緊急避妊薬の希望

問27 緊急避妊薬のことを知っていたら、医療機関で緊急避妊薬の処方を受けましたか。

- 1 受けた 2 受けない

【28】 あなたの職業

問28 あなたの職業は何ですか。ひとつだけお選びください。

- 1 勤め人(常勤)
- 2 勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)
- 3 自営業(事業の経営者・家事の手伝い・内職など)
- 4 学生
- 5 主婦
- 6 無職

【29】 あなたの最終学歴

問29 あなたが最後に卒業した(または在学中の)学校はどれですか。

- 1 中学校
- 2 高校
- 3 専門学校(中卒後)
- 4 専門学校(高卒後)
- 5 短大、高専
- 6 大学・大学院

【30】 あなたの世帯の1年間の所得

問30 あなたの世帯の1年間の所得はいくらですか。もっとも近いものをひとつお選びください。

なお、独身で親と同居されている場合、家計を別にされておれば、別の世帯とお考えください。

- 1 200万円未満
- 2 200万円以上～600万円未満
- 3 600万円以上
- 4 わからない

【31】 パートナーの職業

問31 パートナーの職業は何ですか。ひとつだけお選びください。

パートナーがいない方は【34】へお進みください。

- 1 勤め人(常勤)
- 2 勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)
- 3 自営業(事業の経営者・家事の手伝い・内職など)
- 4 学生
- 5 主婦
- 6 無職

【32】 パートナーの最終学歴

問32 パートナーが最後に卒業した(または在学中の)学校はどれですか。

- 1 中学校
- 2 高校
- 3 専門学校(中卒後)
- 4 専門学校(高卒後)
- 5 短大、高専
- 6 大学・大学院

【33】あなたとパートナーの関係性

問33 あなたとパートナーとの関係性に当てはまるものをいくつかもお選びください。

- 1 話を聞いてくれる
- 2 相談に乗ってくれる
- 3 安心できる
- 4 思いやりがある
- 5 協力してくれる
- 6 暴力行為(身体的・性的・精神的な乱暴行為)がない
- 7 その他()

【34】人工妊娠中絶(人工死産)を減らすための対策

問34 人工妊娠中絶(人工死産)を減らすための対策として御意見などがございましたら何でも、お聞かせください。

御協力まことにありがとうございました。

(3) データ集

1 宮崎県の母子保健指標の推移

		平成17年	平成26年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
出生率 (人口千対)	全国	8.4	8.0	7.0	6.8	6.6	6.3	6.0	5.7
	宮崎県 (実数)	8.5 9,738	8.6 (9,509)	7.6 (8,043)	7.3 (7,720)	7.2 (7,590)	6.8 (7,136)	6.3 (6,502)	5.9 (6,000)
	順位	22	7	8	10	8	8	11	14
合計特殊出生率 ¹⁾	全国	1.26	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26	1.20	1.15
	宮崎県	1.48	1.69	1.73	1.65	1.64	1.63	1.49	1.43
	順位	5	2	2	2	3	2	2	3
乳児死亡率 (出生千対)	全国	2.8	2.1	1.9	1.8	1.7	1.8	1.8	1.8
	宮崎県 (実数)	3.3 (32)	2.5 (24)	2 (16)	2.2 (17)	2.4 (18)	1.8 (13)	2.2 (14)	2.2 (13)
	順位	5	8	27	12	4	22	13	14
新生児死亡率 (出生千対)	全国	1.4	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.8	0.9
	宮崎県 (実数)	1.4 (14)	0.9 (9)	0.5 (4)	0.9 (7)	0.7 (5)	0.6 (4)	0.6 (4)	0.7 (4)
	順位	20	23	44	20	35	37	34	33
死産率 (出産千対)	全国	29.1	22.9	22.0	20.1	19.7	19.3	20.9	21.8
	宮崎県 (実数)	41.4 (421)	30.0 (294)	26.9 (222)	24.6 (195)	19.1 (148)	23.9 (175)	24.9 (166)	25.5 (157)
	順位(ワースト)	1	1	1	1	27	2	2	3
自然死産率 (出産千対)	全国	12.3	10.6	10.2	9.5	9.8	9.4	9.6	9.8
	宮崎県 (実数)	12.0 (122)	11.9 (117)	11.6 (96)	12.5 (99)	11.2 (87)	13.4 (98)	11.5 (77)	12.8 (79)
	順位(ワースト)	27	8	7	5	9	1	4	4
人工死産率 (出産千対)	全国	16.7	12.3	11.8	10.6	9.9	9.9	11.3	12.1
	宮崎県 (実数)	29.4 (299)	18.1 (177)	15.2 (126)	12.1 (96)	7.9 (61)	10.5 (77)	13.3 (89)	12.7 (78)
	順位(ワースト)	1	3	2	5	40	13	4	15
周産期死亡率 (出生数に妊娠満22週以後の 死産数を加えたものの千対)	全国	4.8	3.7	3.4	3.2	3.4	3.3	3.3	3.3
	宮崎県 (実数)	3.7 (36)	2.7 (26)	2.5 (20)	2.5 (19)	3.0 (23)	2.8 (20)	2.9 (19)	3.0 (18)
	順位	46	46	44	43	35	42	35	36
妊娠満22週 以後の死産率 (出産千対)	全国	3.8	3.0	2.7	2.5	2.7	2.7	2.7	2.6
	宮崎県 (実数)	2.7 (26)	2.0 (19)	2 (16)	2.2 (17)	2.4 (18)	2.4 (17)	2.5 (16)	2.3 (14)
早期新生児 死亡率 (生後1週未満) (出生千対)	全国	1.0	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7
	宮崎県 (実数)	1.0 (10)	0.7 (7)	0.5 (4)	0.3 (2)	0.7 (5)	0.4 (3)	0.5 (3)	0.7 (4)
妊産婦死亡率 (出産10万対)	全国	5.7	2.7	3.3	2.7	2.5	4.2	3.1	4.6
	宮崎県 (実数)	—	—	12.1 (1)	—	—	—	—	16.2 (1)

注 1) 日本人人口を分母に用いている。

資料 「母子保健の主なる統計」
「人口動態統計」
※順位は数値の高い順で記載

死産に関する統計

〈総数〉

表1 死産数 総数(自然十人工)・母親の年齢(5歳階級)・年次別(平成26年~令和6年)

	総数		14歳以下		15~19歳		20~24歳		25~29歳		30~34歳		35~39歳		40~44歳		45~49歳		50歳以上		不詳	
	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎
H17年 実数	31,818	421	70	1	3,721	67	6,411	89	7,184	95	8,155	93	4,678	54	1,480	21	114	1	2	0	3	0
H26年 実数	23,524	294	73	1	2,314	36	3,529	46	4,556	67	5,781	62	5,089	53	2,072	27	106	2	2	0	2	0
令和元年 実数	19,454	222	47	0	1,394	16	3,234	42	3,552	41	4,883	47	4,363	54	1,839	22	136	0	4	0	2	0
令和2年 実数	17,278	195	35	1	1,071	14	2,728	38	3,316	28	4,294	43	4,020	53	1,693	18	120	0	1	0	0	0
令和3年 実数	16,277	148	26	1	861	7	2,302	26	3,181	30	4,220	34	3,859	30	1,723	19	102	0	3	1	0	0
令和4年 実数	15,179	175	30	0	799	13	2,171	35	3,019	24	3,923	41	3,555	43	1,578	19	100	0	3	0	1	0
令和5年 実数	15,534	166	27	1	921	13	2,337	31	3,004	32	3,735	38	3,706	37	1,682	14	116	0	3	0	3	0
令和6年 実数	15,323	157	25	0	915	12	2,400	34	3,000	30	3,796	29	3,480	36	1,595	15	108	1	3	0	1	0

表2 死産数 人工死産・母親の年齢(5歳階級)・年次別(平成26年~令和6年)

	総数		14歳以下		15~19歳		20~24歳		25~29歳		30~34歳		35~39歳		40~44歳		45~49歳		50歳以上		不詳	
	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎
H17年 実数	18,316	299	65	1	3,326	63	4,790	72	3,625	64	3,366	50	2,158	32	897	16	86	1	2	0	1	0
H26年 実数	12,619	177	69	1	2,086	32	2,710	36	2,250	40	2,323	23	2,038	28	1,079	16	64	1	0	0	0	0
令和元年 実数	10,457	126	46	0	1,252	16	2,583	31	1,847	23	1,898	20	1,773	26	960	10	95	0	2	0	1	0
令和2年 実数	9,090	96	32	1	986	11	2,147	24	1,642	10	1,698	18	1,674	27	837	5	73	0	1	0	0	0
令和3年 実数	8,195	61	24	1	784	6	1,826	17	1,564	9	1,566	10	1,513	9	843	8	74	0	1	1	0	0
令和4年 実数	7,788	77	27	0	739	11	1,705	22	1,512	10	1,534	15	1,442	15	760	4	69	0	0	0	0	0
令和5年 実数	8,382	89	25	1	844	10	1,924	22	1,618	18	1,537	17	1,530	12	829	9	74	0	1	0	0	0
令和6年 実数	8,474	78	25	0	840	11	2,019	25	1,652	11	1,596	9	1,471	14	803	7	65	1	3	0	0	0

〈人工死産〉

表3 死産数 人工死産・妊娠期間(4週区分)・年次別(平成26年~令和6年)

	総数		満12~15週		満16~19週		満20~23週		満24~27週		満28~31週		満32~35週		満36週~		不詳	
	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎
H17年	18,316	299	9,088	153	6,221	106	3,002	40	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H26年	12,619	177	5,500	76	4,477	76	2,642	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和元年	10,457	126	4,375	41	3,644	52	2,437	33	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
令和2年	9,090	96	3,596	35	3,237	36	2,257	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和3年	8,195	61	3,113	24	2,969	24	2,111	13	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
令和4年	7,788	77	2,863	22	2,864	23	2,060	32	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
令和5年	8,382	89	3,149	21	3,059	38	2,167	30	1	0	1	0	2	0	3	0	0	0
令和6年	8,474	78	3,004	27	3,168	27	2,294	24	0	0	1	0	2	0	5	0	0	0

都道府県別, 人工死産率 (平成17年、26年、令和元年~6年)

単位: 出産千対

	H17年(2005)	H26年(2014)	R元年(2019)	R2年(2020)	R3年(2021)	R4年(2022)	R5年(2023)	R6年(2024)	
1	宮崎 29.4	高知 19.2	神奈川 15.9	北海道 14.0	香川 12.6	青森 15.0	北海道 14.9	北海道 15.2	1
2	鹿児島 26.4	愛媛 18.3	宮崎 15.2	福島 13.5	群馬 11.8	高知 13.7	高知 14.4	埼玉 14.1	2
3	高知 25.1	宮崎 18.1	北海道 15.1	鹿児島 13.0	愛媛 11.6	北海道 13.0	埼玉 13.7	宮城 13.9	3
4	長崎 24.9	大分 17.2	鳥取 14.7	神奈川 12.6	鹿児島 11.6	群馬 12.9	宮崎 13.3	熊本 13.9	4
5	北海道 24.6	熊本 17.0	群馬 14.3	群馬 12.1	北海道 11.5	愛媛 12.8	東京 12.9	群馬 13.8	5
6	熊本 23.7	北海道 16.8	愛媛 13.8	宮崎 12.1	熊本 11.4	埼玉 11.4	青森 12.8	沖縄 13.8	6
7	福岡 23.3	鹿児島 16.1	和歌山 13.3	埼玉 11.7	沖縄 11.2	鹿児島 11.0	秋田 12.7	東京 13.7	7
8	大分 21.1	青森 15.6	鹿児島 13.1	大阪 11.6	東京都 11.1	神奈川 11.0	神奈川 12.5	山梨 13.6	8
9	鳥取 20.3	沖縄 15.5	大分 12.9	宮城 11.5	三重 10.9	京都 11.0	群馬 12.4	岩手 13.5	9
10	宮城 20.2	福岡 14.9	東京都 12.8	栃木 11.4	福岡 10.9	福岡 10.9	福岡 12.4	茨城 13.3	10
11	佐賀 20.1	長崎 14.5	香川 12.7	和歌山 11.3	青森 10.8	宮城 10.8	鹿児島 12.2	大分 13.1	11
12	青森 19.6	山梨 14.2	福岡 12.6	熊本 11.3	埼玉 10.6	栃木 10.8	大分 12.0	青森 13.0	12
13	沖縄 19.5	福井 13.6	福島 12.4	福岡 11.2	神奈川 10.6	宮崎 10.5	宮城 11.8	福岡 12.8	13
14	岩手 19.1	宮城 13.0	埼玉 12.4	愛媛 11.1	栃木 10.5	福井 10.5	栃木 11.7	神奈川 12.7	14
15	岡山 19.0	鳥取 12.9	沖縄 12.4	沖縄 11.1	高知 10.5	大阪 10.4	福井 11.6	宮崎 12.7	15
16	愛媛 19.0	秋田 12.8	高知 12.2	東京 11.0	秋田 10.4	東京 10.3	熊本 11.6	鹿児島 12.7	16
17	和歌山 18.8	栃木 12.8	宮城 12.0	香川 10.9	岡山 10.3	福島 10.3	静岡 11.4	栃木 12.6	17
18	島根 18.6	岡山 12.7	福井 12.0	奈良 10.6	宮城 10.2	沖縄 10.2	沖縄 11.4	福島 12.4	18
19	秋田 18.5	埼玉 12.5	岡山 11.9	岡山 10.6	大阪 10.2	奈良 10.2	岩手 11.3	三重 12.4	19
20	福島 18.1	大阪 12.5	熊本 11.8	三重 10.5	大分 10.2	徳島 10.2	茨城 11.3	長崎 12.3	20
21	大阪 17.5	香川 12.4	栃木 11.7	茨城 10.3	茨城 10.0	和歌山 9.9	徳島 11.3	香川 12.2	21
22	山形 17.1	佐賀 12.0	岩手 11.6	千葉 10.3	長崎 9.9	大分 9.8	福島 11.1	高知 12.0	22
23	徳島 16.9	新潟 11.9	奈良 11.5	高知 10.3	徳島 9.7	長野 9.7	新潟 11.0	岡山 11.9	23
24	京都 16.8	和歌山 11.9	千葉 11.4	長崎 10.2	新潟 9.6	茨城 9.5	和歌山 11.0	大阪 11.8	24
25	群馬 16.5	京都 11.8	大阪 11.4	富山 9.9	福島 9.4	静岡 9.4	千葉 10.9	鳥取 11.7	25
26	茨城 16.4	東京 11.7	茨城 11.3	徳島 9.8	和歌山 9.3	熊本 9.3	長野 10.9	広島 11.7	26
27	栃木 16.2	群馬 11.5	長崎 11.1	新潟 9.5	広島 9.2	千葉 9.2	広島 10.7	京都 11.6	27
28	東京 15.6	千葉 11.3	三重 11.0	長野 9.5	佐賀 9.1	岡山 9.1	愛媛 10.7	千葉 11.5	28
29	香川 15.6	茨城 11.2	青森 10.9	広島 9.4	京都府 9.0	滋賀 9.0	佐賀 10.7	新潟 11.5	29
30	山口 15.4	長野 11.2	山形 10.8	鳥取 9.3	岩手 8.9	新潟 8.6	三重 10.3	愛媛 11.2	30
31	三重 15.2	福島 11.1	広島 10.6	兵庫 9.1	愛知 8.8	兵庫 8.5	鳥取 10.2	奈良 11.0	31
32	兵庫 14.8	兵庫 11.0	京都 10.4	京都 8.9	千葉 8.7	山形 8.5	岡山 10.2	徳島 10.8	32
33	新潟 14.5	岐阜 10.9	兵庫 10.2	大分 8.8	滋賀 8.6	三重 8.3	岐阜 10.1	福井 10.5	33
34	広島 14.5	愛知 10.8	静岡 9.9	岩手 8.7	兵庫 8.6	石川 8.3	大阪 10.0	愛知 10.5	34
35	奈良 14.3	三重 10.8	秋田 9.8	静岡 8.7	奈良 8.6	愛知 8.3	長崎 9.9	山口 10.3	35
36	愛知 14.1	奈良 10.8	新潟 9.7	滋賀 8.6	静岡 8.5	鳥取 8.1	山梨 9.8	岐阜 10.2	36
37	埼玉 14.0	島根 10.8	岐阜 9.6	岐阜 8.5	鳥取 8.2	広島 8.0	京都 9.8	島根 10.2	37
38	福井 13.9	神奈川 10.7	愛知 9.6	愛知 8.5	島根 8.2	秋田 7.9	山形 9.5	秋田 9.8	38
39	静岡 13.8	山口 10.7	島根 9.4	山形 8.4	岐阜 8.0	香川 7.6	奈良 9.2	長野 9.6	39
40	千葉 13.7	岩手 10.6	山梨 9.1	石川 8.4	宮崎 7.9	岐阜 7.6	愛知 9.1	滋賀 9.5	40
41	長野 13.6	広島 10.6	長野 8.9	青森 8.3	山口 7.8	佐賀 6.9	香川 9.1	兵庫 9.5	41
42	山梨 13.5	山形 10.4	山口 8.9	山口 8.1	山形 7.7	山梨 6.8	兵庫 8.9	富山 8.7	42
43	神奈川 13.3	静岡 10.0	佐賀 8.8	福井 8.0	石川 7.6	岩手 6.8	滋賀 8.8	山形 8.6	43
44	岐阜 12.4	徳島 9.6	富山 7.9	秋田 7.6	福井 7.5	山口 6.7	山口 8.7	和歌山 8.6	44
45	富山 11.9	富山 9.2	滋賀 7.5	佐賀 7.2	富山 7.1	富山 6.5	富山 7.9	佐賀 8.6	45
46	石川 11.8	石川 8.7	徳島 7.3	山梨 7.0	長野 6.8	長崎 6.4	石川 6.7	静岡 8.3	46
47	滋賀 10.5	滋賀 8.0	石川 6.8	島根 6.8	山梨 6.0	島根 6.1	島根 6.3	石川 8.1	47
	全国 16.7	全国 12.3	全国 11.8	全国 10.6	全国 9.9	全国 9.9	全国 11.3	全国 12.1	

資料: 「人口動態統計」

3 人工妊娠中絶

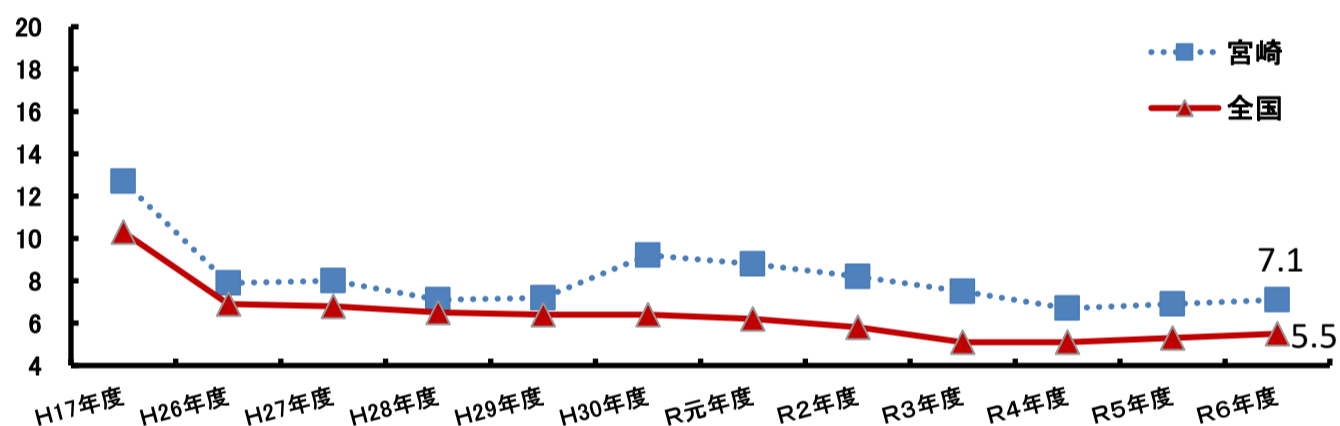
(1)人工妊娠中絶実施率の推移

人工妊娠中絶実施率（女子総人口千対）

	総数*		20歳未満**		20～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49	
	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎
H17年度	10.3	12.7	9.4	9.8	20.0	23.1	14.6	18.1	12.4	18.5	10.6	16.7	4.8	5.9	0.4	0.7
H26年度	6.9	7.9	6.1	6.4	13.2	12.1	11.2	13.1	10.0	11.4	7.7	10.0	3.4	4.7	0.3	0.3
H27年度	6.8	8.0	5.5	5.2	13.5	13.2	11.2	13.5	10.0	12.2	7.7	10.4	3.4	4.4	0.3	0.6
H28年度	6.5	7.1	5.0	4.5	12.9	13.4	10.6	10.8	9.6	11.6	7.6	9.3	3.3	3.9	0.3	0.2
H29年度	6.4	7.2	4.8	4.8	13.0	12.9	10.5	11.3	9.5	11.9	7.6	9.5	3.2	4.3	0.3	0.4
H30年度	6.4	9.2	4.7	6.2	13.2	17.4	10.4	14.0	9.2	14.3	7.6	12.9	3.2	5.0	0.3	0.4
R元年度	6.2	8.8	4.5	5.4	12.9	18.2	10.4	15.3	8.9	12.8	7.6	12.3	3.2	4.3	0.3	0.4
R2年度	5.8	8.2	3.8	5.1	12.2	16.8	9.7	14.6	8.3	13.1	7.2	10.8	3.2	4.3	0.3	0.3
R3年度	5.1	7.5	3.3	4.5	10.1	15.6	8.4	11.4	7.3	12.1	6.5	10.3	3.0	4.5	0.3	0.3
R4年度	5.1	6.7	3.6	4.4	10.0	13.9	8.4	12.7	7.1	9.9	6.2	7.7	2.8	4.3	0.2	0.4
R5年度	5.3	6.9	3.8	4.5	10.8	15.8	8.9	12.8	7.3	10.3	6.2	8.0	2.9	3.8	0.2	0.4
R6年度	5.5	7.1	4.1	5.0	11.1	14.4	9.1	14.9	7.2	10.2	6.1	7.8	2.9	3.8	0.3	0.4

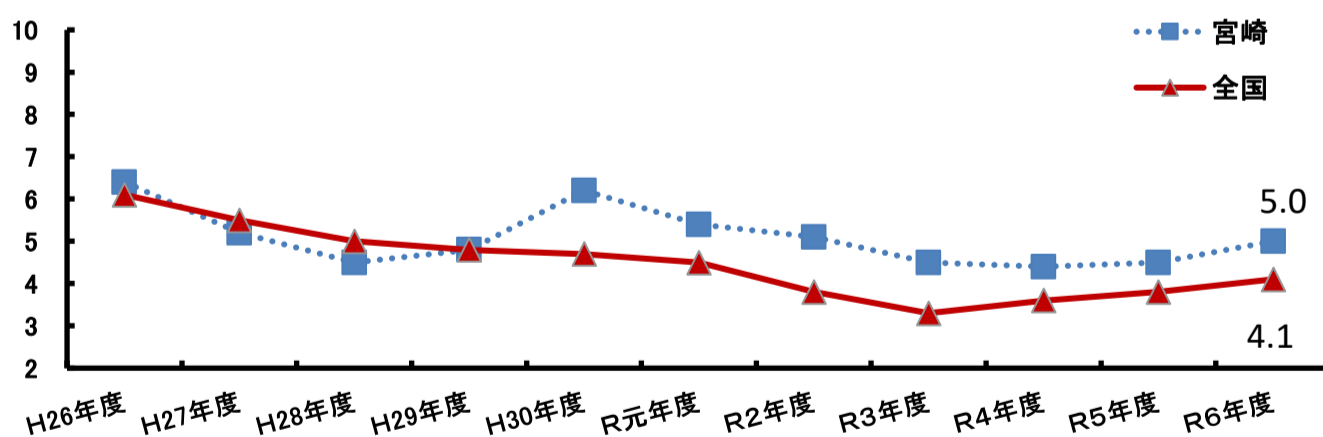
注) ①*15歳以上50歳未満の女子総人口千対の率である。
 ②**15歳以上20歳未満の女子総人口千対の率である。
 ③平成15年度の数値は概数である。

実施率（女子総人口千対）

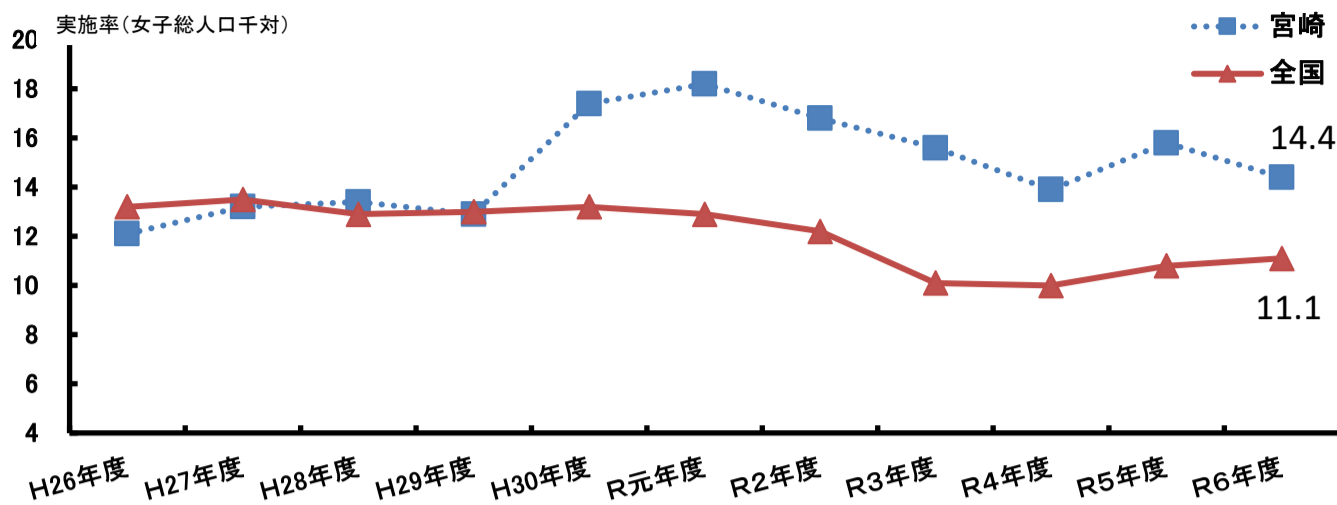


人工妊娠中絶実施率(総数)の年次推移

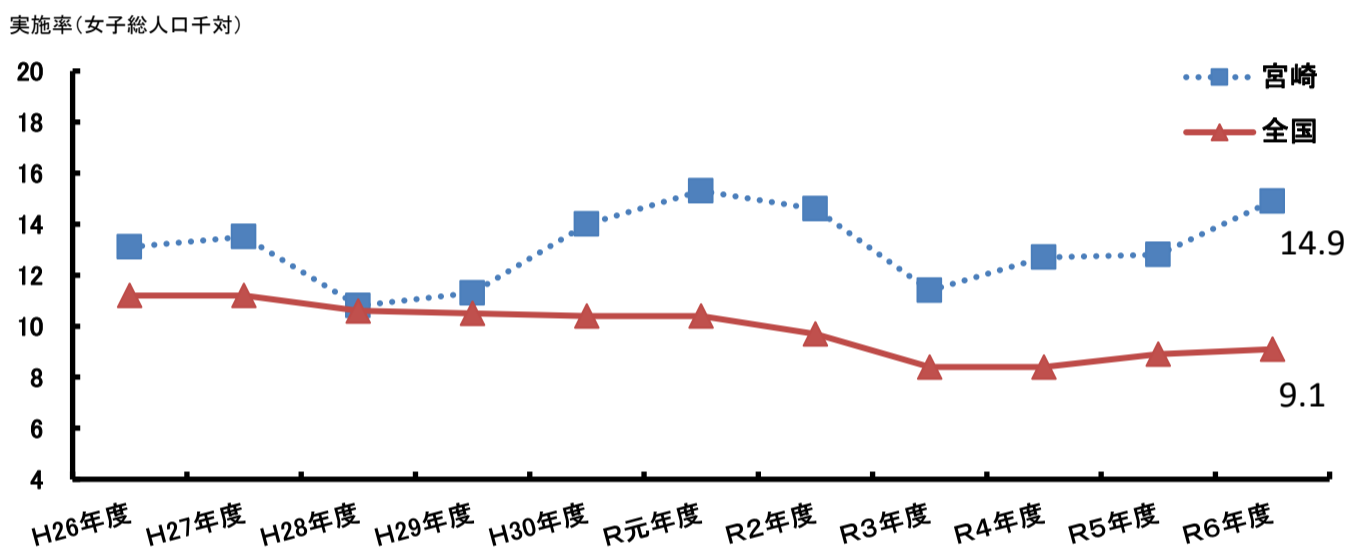
実施率（女子総人口千対）



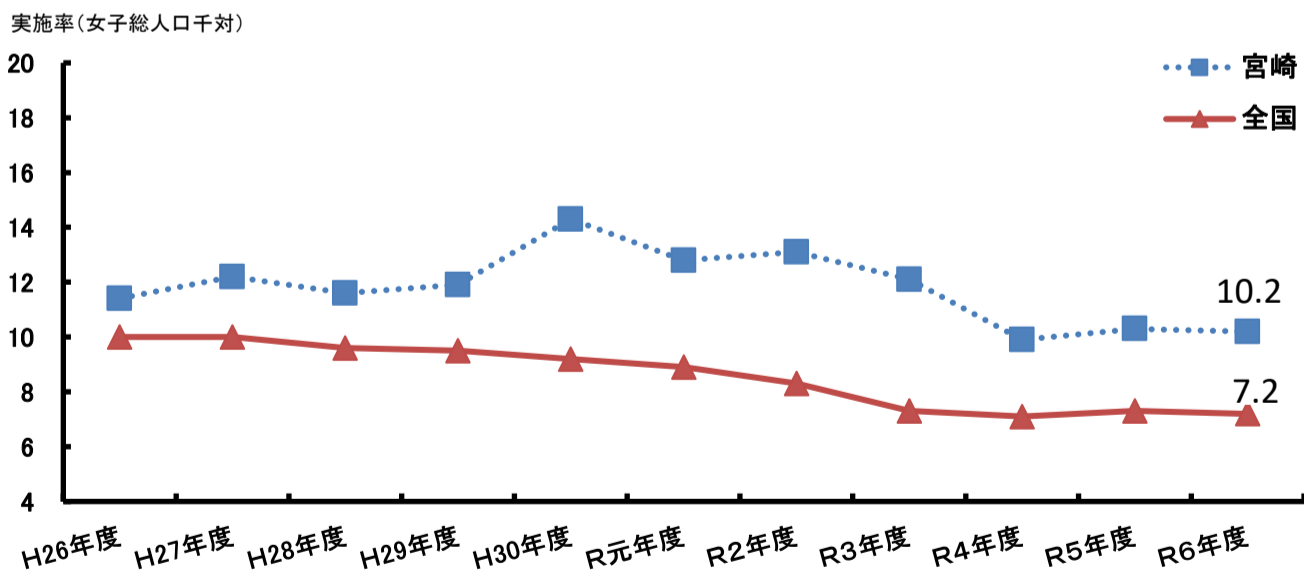
人工妊娠中絶実施率(20歳未満)の年次推移



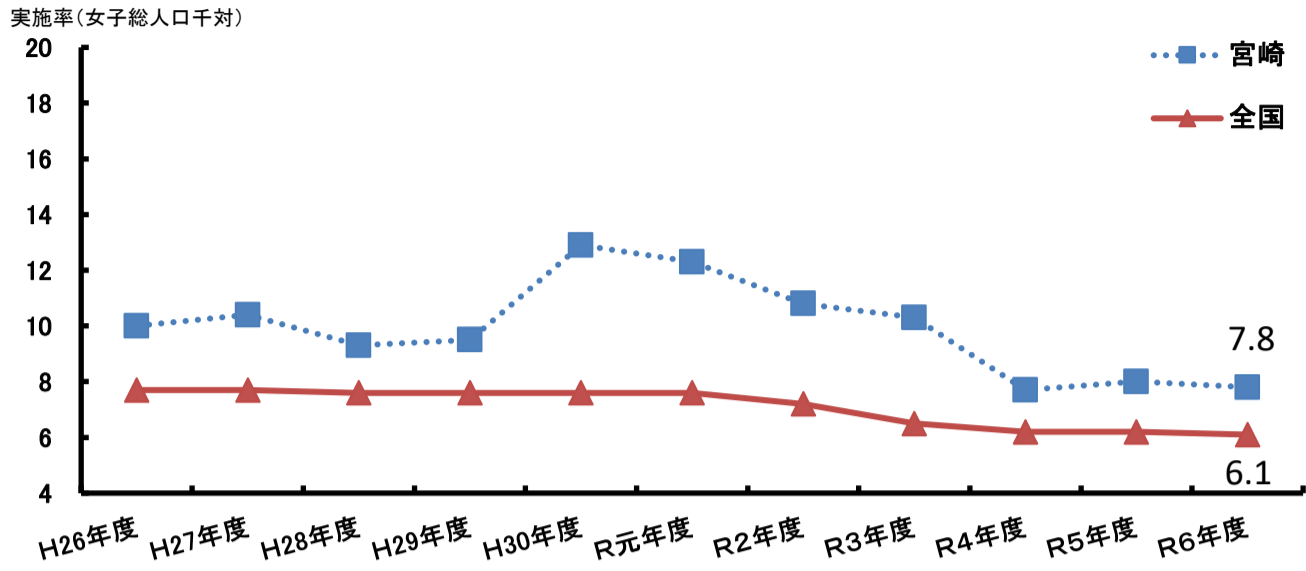
人工妊娠中絶実施率(20~24歳)の年次推移



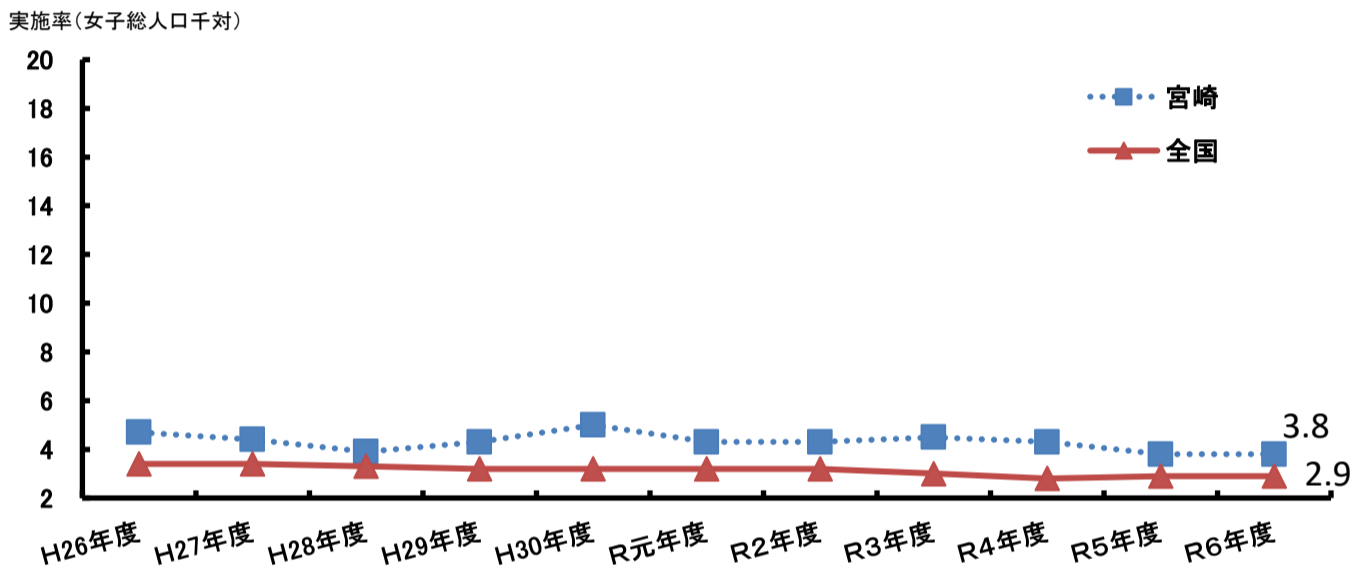
人工妊娠中絶実施率(25~29歳)の年次推移



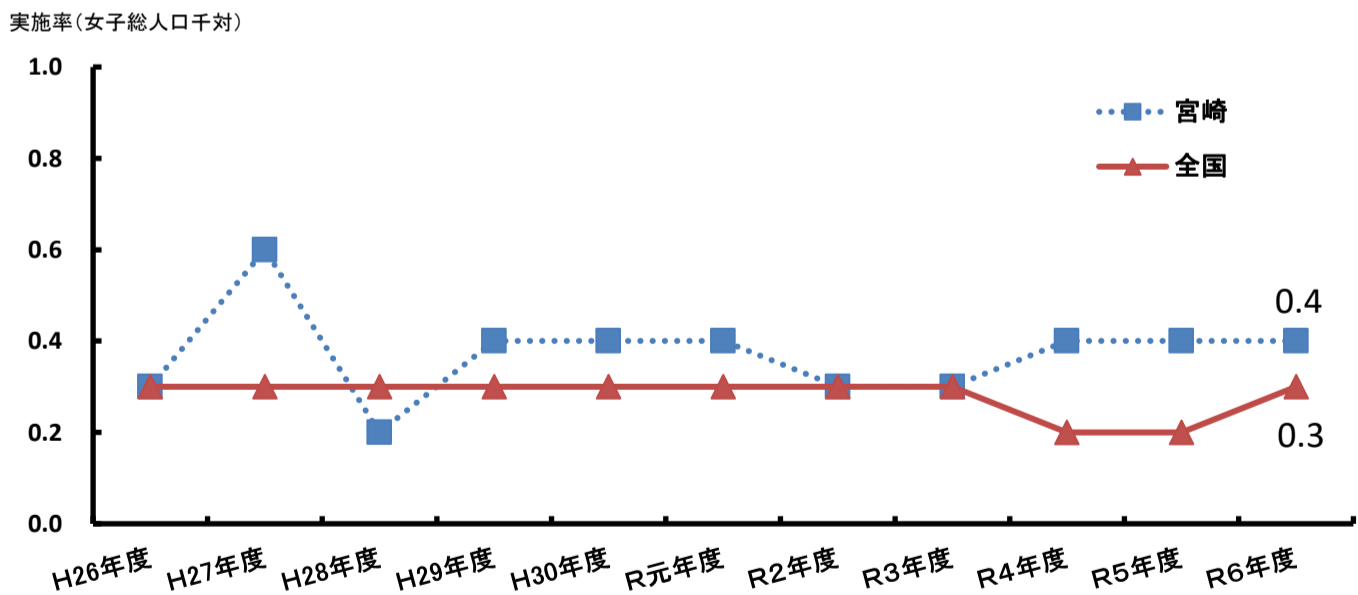
人工妊娠中絶実施率(30~34歳)の年次推移



人工妊娠中絶実施率(35~39歳)の年次推移



人工妊娠中絶実施率(40~44歳)の年次推移



人工妊娠中絶実施率(45~49歳)の年次推移

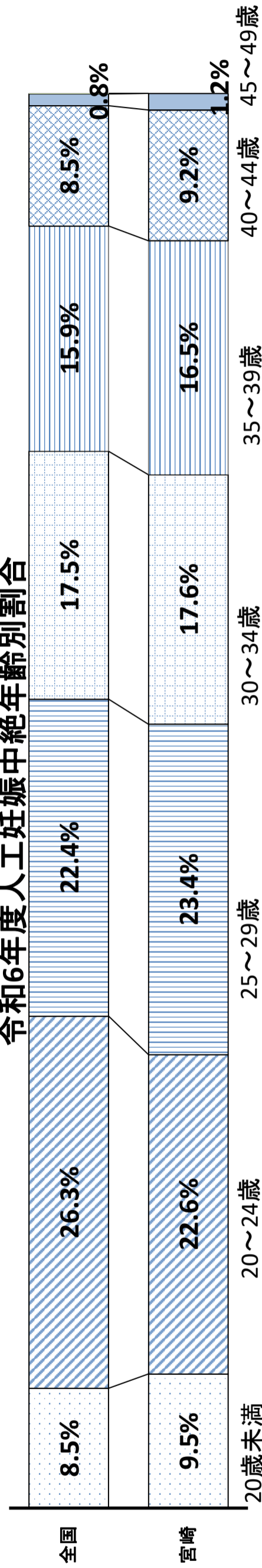
(2) 人工妊娠中絶に関する統計

表1 年齢別 人工妊娠中絶実施件数 (平成17年度、26年度～令和6年度)

	総数		20歳未満*		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳		40～44歳		45～49歳		50歳以上		不詳	
	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎
H17年度	289,127	3,024	30,119	305	72,217	666	59,911	595	59,748	672	46,038	550	19,319	208	1,663	28	28	0	84	0
H26年度	181,905	1,637	17,854	172	39,851	266	36,594	328	36,621	341	33,111	350	16,558	170	1,281	10	17	0	18	0
H27年度	176,388	1,620	16,113	135	39,430	270	35,429	327	35,884	363	31,765	349	16,368	157	1,340	19	18	0	41	0
H28年度	168,015	1,427	14,666	117	38,561	267	33,050	248	34,256	336	30,307	308	15,782	144	1,352	7	14	0	27	0
H29年度	164,621	1,435	14,128	126	39,270	257	32,222	248	33,082	333	29,641	305	14,876	153	1,363	13	11	0	28	0
H30年度	161,741	1,769	13,588	156	40,408	348	31,437	293	31,481	385	28,887	399	14,508	174	1,388	14	13	0	31	0
R元年度	156,430	1,673	12,678	134	39,805	364	31,392	306	29,402	334	28,131	370	13,589	151	1,399	14	11	0	23	0
R2年度	141,433	1,535	10,309	118	35,434	319	28,622	296	26,555	324	25,993	324	13,187	143	1,319	10	10	1	4	0
R3年度	126,174	1,402	9,093	108	30,882	297	26,087	239	23,386	291	23,435	308	12,018	148	1,252	11	19	0	2	0
R4年度	122,725	1,232	9,569	101	30,544	277	26,153	254	22,287	227	21,947	223	11,079	137	1,127	13	8	0	11	0
R5年度	126,734	1,264	10,053	108	32,547	315	27,879	255	22,600	227	21,379	223	11,170	122	1,073	14	15	0	18	0
R6年度	127,992	1,276	10,844	121	33,663	288	28,676	298	22,424	225	20,386	211	10,878	118	1,079	15	11	0	31	0
※	(4314)	(7)	(386)	(0)	(1043)	(0)	(1023)	(1)	(791)	(4)	(722)	(1)	(319)	(1)	(26)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)

※再掲：人工妊娠中絶薬の投票件数

令和6年度人工妊娠中絶年齢別割合



*:15歳以上50歳未満の女子
総人口千対の率である。

表2 妊娠期間別 人工妊娠中絶件数 (平成17年度、26年度～令和6年度)

	総数		満7週以前		満8～11週		満12～15週		満16～19週		満20～21週		不詳	
	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎
H17年度	289,127	3,024	163,779	1,591	109,887	1,164	8,275	129	4,899	104	2,141	36	146	0
H26年度	181,905	1,637	98,509	645	72,882	712	4,828	180	3,624	71	2,038	27	24	2
H27年度	176,388	1,620	95,878	745	70,584	727	4,299	76	3,475	54	2,115	18	37	0
H28年度	168,015	1,427	91,652	696	66,859	628	4,118	40	3,277	46	2,059	17	50	0
H29年度	164,621	1,435	90,064	647	65,059	683	3,984	50	3,343	36	2,123	19	48	0
H30年度	161,741	1,769	88,723	756	63,865	886	3,795	49	3,205	49	2,107	29	46	0
R元年度	156,430	1,673	86,184	699	60,880	880	4,199	34	3,091	32	2,053	28	23	0
R2年度	141,433	1,535	82,408	656	51,192	807	3,127	31	2,852	25	1,841	16	13	0
R3年度	126,174	1,402	73,755	569	45,373	765	2,774	26	2,501	25	1,768	17	3	0
R4年度	122,725	1,232	69,592	471	45,779	685	2,854	22	2,645	26	1,816	28	39	0
R5年度	126,734	1,264	72,043	532	47,044	669	3,017	17	2,701	27	1,915	19	14	0
R6年度	127,992	1,276	73,069	623	47,330	579	2,848	27	2,722	27	1,981	20	42	0

令和6年度人工妊娠中絶件数に占める満12週以降の割合

全国	5.9%
宮崎	5.8%

(3) 人工妊娠中絶

都道府県別,人工妊娠中絶実施率(平成17年度、26年度、令和元年~6年度)

	H17年(2005)	H26年(2014)	R元年度(2019)	R2年度(2020)	R3年度(2021)	R4年度(2022)	R5年度(2023)	R6年度(2024)									
1	鳥取	16.1	鳥取	10.4	鳥取	8.8	宮崎	8.2	宮崎	7.5	東京	7.7	東京	8.0	東京	8.1	1
2	佐賀	15.5	熊本	10.0	宮崎	8.8	鹿児島	7.8	東京	7.0	宮崎	6.7	大阪	7.5	大阪	7.9	2
3	高知	14.9	鹿児島	9.7	鹿児島	8.6	福岡	7.7	鳥取	6.7	熊本	6.6	熊本	7.4	宮崎	7.1	3
4	福島	14.6	福岡	9.5	福岡	8.5	東京	7.6	福岡	6.6	大阪	6.5	宮崎	6.9	熊本	7.0	4
5	福岡	14.6	佐賀	9.3	東京	8.4	鳥取	7.5	鹿児島	6.5	鳥取	6.4	福岡	6.6	福岡	6.9	5
6	熊本	14.4	高知	9.2	熊本	8.3	熊本	7.5	大阪	6.4	福岡	6.1	鳥取	6.5	大分	6.3	6
7	大分	14.2	福島	9.1	長崎	7.4	長崎	7.0	熊本	6.3	大分	6.0	鹿児島	6.4	鹿児島	6.3	6
8	長崎	13.9	大分	9.1	大分	7.2	福島	6.9	長崎	6.2	鹿児島	6.0	大分	6.0	沖縄	6.3	6
9	岩手	13.8	長崎	9.0	大阪	7.1	佐賀	6.9	高知	6.1	長崎	5.8	宮城	5.8	鳥取	6.0	9
10	北海道	13.6	宮城	8.7	広島	7.1	大分	6.9	青森	5.8	北海道	5.6	沖縄	5.8	宮城	5.9	10
11	長野	13.1	岩手	8.6	沖縄	7.1	広島	6.8	広島	5.8	青森	5.6	高知	5.7	広島	5.9	10
12	宮崎	12.7	北海道	8.2	佐賀	7.0	大阪	6.6	沖縄	5.8	宮城	5.5	長崎	5.7	長崎	5.9	10
13	秋田	12.5	沖縄	8.2	北海道	6.9	沖縄	6.6	福島	5.7	徳島	5.5	青森	5.6	北海道	5.8	13
14	鹿児島	12.5	東京	8.1	愛媛	6.8	高知	6.5	徳島	5.7	高知	5.5	愛知	5.6	青森	5.8	13
15	宮城	12.4	広島	8.1	高知	6.8	宮城	6.4	大分	5.7	佐賀	5.5	佐賀	5.6	愛知	5.7	15
16	香川	12.3	愛媛	8.1	青森	6.7	青森	6.3	佐賀	5.6	沖縄	5.4	北海道	5.5	山口	5.4	16
17	山形	12.2	宮崎	7.9	岩手	6.7	岩手	6.3	宮城	5.5	愛知	5.3	広島	5.5	愛媛	5.3	17
18	愛媛	12.1	長野	7.8	宮城	6.7	徳島	6.1	山口	5.5	岡山	5.2	山口	5.5	高知	5.3	17
19	広島	11.8	秋田	7.6	福島	6.5	愛媛	6.1	岩手	5.4	岩手	5.1	徳島	5.4	岩手	5.2	19
20	栃木	11.5	山口	7.5	栃木	6.3	北海道	6.0	愛媛	5.4	愛媛	5.1	福島	5.1	徳島	5.2	19
21	群馬	11.5	香川	7.5	山口	6.3	栃木	6.0	北海道	5.3	福島	4.9	愛媛	5.1	福島	5.1	21
22	三重	11.5	栃木	7.4	長野	6.2	岡山	6.0	福井	5.2	山口	4.9	岩手	5.0	佐賀	5.1	21
23	徳島	11.3	大阪	7.4	群馬	6.0	群馬	5.8	岡山	5.2	山梨	4.8	長野	4.9	岡山	4.9	23
24	青森	11.1	和歌山	7.4	岡山	5.9	長野	5.8	栃木	5.1	長野	4.7	岡山	4.9	島根	4.7	24
25	新潟	10.9	青森	7.3	徳島	5.9	山口	5.8	群馬	5.1	群馬	4.6	群馬	4.7	群馬	4.6	25
26	山口	10.9	岡山	7.3	香川	5.9	香川	5.6	愛知	5.1	福井	4.6	神奈川	4.7	神奈川	4.6	25
27	岡山	10.8	徳島	7.0	秋田	5.8	秋田	5.5	長野	4.9	秋田	4.5	福井	4.7	山梨	4.6	25
28	和歌山	10.6	群馬	6.9	神奈川	5.8	神奈川	5.5	秋田	4.8	栃木	4.5	石川	4.6	福井	4.5	28
29	富山	10.4	山形	6.8	新潟	5.8	福井	5.5	香川	4.8	神奈川	4.5	香川	4.4	長野	4.5	28
30	石川	10.3	石川	6.8	福井	5.8	山梨	5.5	神奈川	4.6	香川	4.5	栃木	4.3	栃木	4.4	30
31	大阪	9.7	島根	6.8	愛知	5.6	新潟	5.4	新潟	4.6	和歌山	4.4	富山	4.3	和歌山	4.4	30
32	東京	9.5	新潟	6.7	山梨	5.5	石川	5.4	島根	4.6	富山	4.3	和歌山	4.3	香川	4.4	30
33	福井	9.5	福井	6.7	石川	5.4	愛知	5.4	山形	4.4	石川	4.3	秋田	4.2	新潟	4.3	33
34	岐阜	9.5	静岡	6.7	三重	5.4	三重	5.2	和歌山	4.4	広島	4.3	島根	4.2	富山	4.3	33
35	京都	9.5	京都	6.6	京都	5.4	京都	5.1	富山	4.3	新潟	4.2	新潟	4.1	秋田	4.2	35
36	島根	9.4	三重	6.5	和歌山	5.4	和歌山	5.1	石川	4.3	静岡	4.2	静岡	4.1	石川	4.2	35
37	沖縄	9.4	岐阜	5.9	山形	5.3	山形	4.9	静岡	4.3	三重	4.0	山梨	4.0	三重	4.2	35
38	静岡	9.3	愛知	5.7	島根	5.3	静岡	4.8	三重	4.2	島根	4.0	三重	4.0	静岡	4.0	38
39	茨城	8.9	富山	5.6	富山	5.1	島根	4.8	京都	4.1	山形	3.8	山形	3.9	埼玉	3.9	39
40	愛知	8.9	神奈川	5.5	静岡	4.9	富山	4.7	埼玉	3.7	京都	3.7	京都	3.9	岐阜	3.9	39
41	滋賀	8.9	茨城	5.4	千葉	4.6	岐阜	4.5	岐阜	3.6	兵庫	3.6	埼玉	3.5	京都	3.9	39
42	兵庫	8.7	兵庫	5.2	岐阜	4.6	千葉	4.3	兵庫	3.6	岐阜	3.5	岐阜	3.5	山形	3.7	42
43	神奈川	8.2	千葉	5.0	茨城	4.3	兵庫	4.2	滋賀	3.5	滋賀	3.3	兵庫	3.4	兵庫	3.6	43
44	埼玉	8.0	滋賀	4.9	兵庫	4.3	滋賀	4.0	千葉	3.4	茨城	3.1	千葉	3.3	千葉	3.4	44
45	山梨	7.7	千葉	4.7	滋賀	4.0	埼玉	3.5	山梨	2.9	埼玉	3.1	茨城	3.1	茨城	3.2	45
46	千葉	6.7	埼玉	4.3	埼玉	3.8	奈良	3.2	奈良	2.9	千葉	3.1	滋賀	3.0	滋賀	3.0	46
47	奈良	5.8	奈良	3.4	奈良	3.3	茨城	3.1	茨城	2.4	奈良	2.8	奈良	2.6	奈良	2.7	47
	全国	10.3	全国	6.9	全国	6.2	全国	5.8	全国	5.1	全国	5.1	全国	5.3	全国	5.5	

資料「衛生行政報告例」

6 性と生殖に関する調査検討会委員

性と生殖に関する調査検討会 出席者名簿

所属	職名	氏名
宮崎県産婦人科医会	会長	川越 靖之
宮崎県医師会	常任理事	嶋本 富博
宮崎大学医学部 産婦人科学講座	教授	児玉 由紀
宮崎県性教育研究会	事務局	前田 優花
県立看護大学 専門基礎分野	教授	中尾 裕之
宮崎公立大学	副学長	四方 由美
宮崎県看護協会	理事	田中 優子
県教育庁スポーツ振興課 健康教育担当	指導主事	中村 久仁子
宮崎市保健所	所長	副島 京子
	所長	門内 一郎